

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年3月29日
【事業年度】	第25期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	M R T 株式会社
【英訳名】	MRT Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小川 智也
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区神南一丁目18番2号
【電話番号】	03(6415)5295
【事務連絡者氏名】	取締役 西岡 哲也
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区神南一丁目18番2号
【電話番号】	03(6415)5295
【事務連絡者氏名】	取締役 西岡 哲也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	2019年3月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月	2023年12月
売上収益 (千円)	2,232,245	1,973,223	2,562,419	4,469,202	8,738,193	5,407,087
税引前当期利益 (千円)	160,053	186,943	239,604	1,255,084	2,936,466	858,036
親会社の所有者に帰属する当期利益 (千円)	97,695	108,596	131,810	774,492	2,159,994	517,145
親会社の所有者に帰属する当期包括利益 (千円)	68,110	91,293	71,803	706,406	2,169,041	521,806
親会社の所有者に帰属する持分 (千円)	1,491,150	1,443,432	1,515,290	2,222,336	4,391,413	4,577,617
総資産額 (千円)	3,166,950	3,606,689	3,306,983	4,983,633	8,159,023	6,471,962
1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)	262.88	259.93	272.86	398.71	787.85	840.74
基本的1株当たり当期利益 (円)	17.28	19.25	23.74	139.30	387.53	94.43
希薄化後1株当たり当期利益 (円)	17.14	19.16	23.62	138.79	387.21	94.37
親会社所有者帰属持分比率 (%)	47.1	40.0	45.8	44.6	53.8	70.7
親会社所有者帰属持分当期利益率 (%)	6.6	7.4	8.9	41.4	65.3	11.5
株価収益率 (倍)	60.18	48.47	61.64	10.10	4.23	9.86
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	87,695	220,021	294,969	298,893	4,511,679	193,584
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	41,944	12,741	64,614	206,510	431,114	243,608
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	989,556	240,233	397,413	67,486	203,982	669,192
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,786,183	1,753,229	1,586,171	1,013,281	4,889,863	3,783,478
従業員数 (人)	202	204	227	249	263	288
(外、平均臨時雇用者数)	(22)	(42)	(19)	(21)	(161)	(60)

(注) 1. 国際会計基準(以下、「IFRS」)に基づいて連結財務諸表を作成しております。

2. 第21期は、決算期変更により2019年4月1日から2019年12月31日までの9ヶ月間となっております。

3. 第25期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定が行われたことに伴い、第24期の「主要な経営指標等の推移」における当該暫定的な会計処理に関連する数値については、暫定的な会計処理の確定の内容が反映されております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	2019年3月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月	2023年12月
売上高 (千円)	1,359,681	1,197,766	1,284,904	2,970,157	7,177,156	3,741,335
経常利益 (千円)	19,333	132,238	129,887	1,251,812	2,743,512	881,330
当期純利益 (千円)	17,714	54,070	3,643	543,139	2,039,502	629,717
資本金 (千円)	430,532	431,675	431,755	432,075	432,115	432,275
発行済株式総数 (株)	5,672,600	5,694,000	5,694,400	5,714,800	5,715,000	5,715,800
純資産額 (千円)	1,517,036	1,452,747	1,456,444	2,000,224	4,039,762	4,334,214
総資産額 (千円)	2,932,059	2,877,774	2,484,170	3,962,924	6,999,762	5,382,075
1株当たり純資産額 (円)	267.44	261.61	262.26	358.86	724.76	796.04
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	30.00 (-)	- (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	3.13	9.58	0.66	97.69	365.91	114.98
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	3.11	9.54	0.65	97.33	365.61	114.91
自己資本比率 (%)	51.7	50.5	58.6	50.4	57.7	80.5
自己資本利益率 (%)	1.2	3.6	0.3	31.4	67.5	15.0
株価収益率 (倍)	331.89	97.35	2,229.74	14.40	4.48	8.10
配当性向 (%)	-	-	-	-	8	-
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	115 (20)	117 (36)	120 (17)	130 (19)	153 (160)	175 (53)
株主総利回り (%) (比較指標: 配当込み TOPIX) (%)	100.0 (100.0)	89.7 (109.6)	140.7 (117.7)	135.3 (132.7)	160.4 (129.5)	89.5 (166.1)
最高株価 (円)	2,750	1,075	1,932	2,468	2,177	1,709
最低株価 (円)	948	746	806	1,137	936	850

(注) 1. 第21期は、決算期変更により2019年4月1日から2019年12月31日までの9ヶ月間となっております。

2. 第24期の1株当たり配当額は、特別配当30円であります。

3. 最高株価及び最低株価は、2022年4月4日より東京証券取引所(グロース市場)におけるものであり、それ以前は東京証券取引所(マザーズ)におけるものであります。

2【沿革】

当社は、東京大学医学部附属病院の医師の互助組織としてスタートし、互助組織を母体として医師が、代診（担当の医師に代わって診察すること）を相互に紹介する仕組みにインターネット技術を活用してシステム化して、「医師とITを通じて、豊かな医療を創造する。」ことを目的に、2000年1月に有限会社メディカルリサーチアンドテクノロジーとして設立されました。増え続ける医療ニーズに対し、効率的な医師紹介と適切な医療体制の確立が医師自身の手で作り出せないか、そのような医療に対する強い“想い”が当社グループには存在します。

年月	沿革
2000年1月	東京都千代田区において、東京大学医学部附属病院の医師の互助組織を母体として、有限会社メディカルリサーチアンドテクノロジーを設立
2000年5月	有料職業紹介事業の許可取得
2004年2月	本店を新宿区市ヶ谷に移転
2004年10月	一般労働者派遣事業の許可取得
2006年10月	有限会社から株式会社へ改組
2007年2月	本店を千代田区九段北に移転
2007年4月	医師紹介実績が10万件を超える
2011年3月	本店を新宿区西新宿に移転
2012年3月	医局業務サポートシステム向けグループウェアである「ネット医局®」を提供開始 プライバシーマーク取得
2013年5月	医師紹介実績が50万件を超える
2014年9月	MRT株式会社に商号を変更
2014年12月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
2015年3月	名古屋営業所開設
2015年9月	大阪営業所（現・大阪支社）開設
2015年12月	本店を渋谷区神南に移転
2016年3月	情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）適合性評価制度の認定取得
2016年4月	遠隔診療・健康相談ポケットドクターの提供開始
2017年1月	株式会社NOSWEAT（現・連結子会社）の株式取得
2017年4月	「ポケットドクター」かかりつけ医診療を刷新し、「遠隔診療ポケットドクター」を有償で医療機関向けに提供開始
2017年6月	福岡営業所開設
2017年11月	医師紹介実績が累計100万件を超える
2017年12月	株式会社医師のとも（現・連結子会社）の株式取得
2018年3月	株式会社CBキャリア（現・株式会社日本メディカルキャリア 現・連結子会社）の株式取得
2019年8月	株式会社anew（現・連結子会社）、医療機関運営支援サービスの提供開始
2020年1月	Vantage株式会社（現・連結子会社）を設立
2020年4月	株式会社パリュメディカル（現・連結子会社）を設立
2020年10月	医師のネットワークにつながる「Door.」の提供開始
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所のマザーズからグロース市場に移行 医療人材紹介サービス用アプリ「MRT WORK」の提供開始
2022年12月	株式会社メディアルト（現・連結子会社）の株式取得
2023年5月	医師紹介実績が累計200万件を超える
2023年10月	Medikiki.com株式会社（現・連結子会社）の株式取得

3【事業の内容】

当社グループは、「医療を想い、社会に貢献する。」を企業理念とし、医療現場の主役である医師と医師との繋がりと、そしてその医師のQOL（注）1）の向上が豊かな医療の創造を実現させるという信念のもと、医師の互助組織を母体として発足いたしました。以来、経験・ノウハウの蓄積により確立した医療分野の人材ネットワークを強みとして医師に対するインターネットを活用した非常勤医師紹介及び常勤医師紹介を中心とした医療情報プラットフォーム事業を展開しております。

当社グループの事業は、インターネットを活用した医療情報プラットフォームの提供の単一事業であります。

なお、売上高の構成は次のとおりであります。

(1) 医療人材サービス（医療人材情報のプラットフォーム）

医師紹介サイトを利用した医師向けの非常勤医師紹介（サービス名称：Gaikin注）2）及び常勤医師紹介（サービス名称：career）

コメディカルといわれる看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士及び放射線技師向けのアルバイト紹介、転職紹介及び紹介予定派遣等

(2) その他

医局（注）3）業務をサポートするグループウェア（サービス名称：ネット医局®）の提供

オンライン診療・健康相談サービス（サービス名称：Door.into健康医療相談、ポケットドクター）の提供

医師によるマーケティング、商品開発（サービス名称：女医プラス、医師プラス）の提供

出版サービス

医療機関運営支援サービスの提供

医師向けの医薬品プロモーション支援

登録・受付センター等の運営

Well-beingサービス

医療機器プラットフォームサービス

（注）1. Quality of life (QOL) とは、人々の生活を物質的な面から量的にのみとらえるのではなく、精神的な豊かさや満足度も含めて、質的にとらえる考え方をいいます。

2. 大学病院で勤務している医師が、大学病院系列市中病院を含む大学病院以外の関連医療機関に勤務することがあります。こうしたなかで、大学病院以外での勤務は医師間では「外勤」と呼ばれており、医師は大学医局の指示/紹介のもと外勤を行っております。

当社グループは、医師の間で呼ばれている「外勤（Gaikin）」を非常勤医師紹介のサービス名称に用いております。

3. 医局とは、大学の研究室ごと、もしくは大学病院の診療科ごとに主任教授を組織の頂点とした医師の人事、研究、教育等を担う非営利の組織のことであり、その規模は数十人から大きいところで百数十人の医師から構成されており、多くの医師はいずれかの医局に所属しております。

（医療人材サービス）

1. 非常勤医師の人材市場に関する当社の見解

厚生労働省が2010年9月29日に公表した「病院等における必要医師数実態調査の概要」によれば、2010年6月1日時点の医療機関に勤務する非常勤の医師数（約3万人、週当たり延べ勤務時間数を40時間で除して常勤換算）は、医師数全体（医療機関に勤務する現役医師数約16万7千人）の18.3%を占めており、医療現場で非常勤医師の占める割合が高いことから非常勤の医師に対する医療現場の需要は非常に大きいと考えられております。それは、以下に述べる事情によるものと考えております。

(1) まず、医療の特徴の一つとして医療全般における予測不能性が挙げられます。たとえば、患者さんの急変や、緊急手術の発生など、医療機関の日常業務の中には常に予測不可能な状況が多数存在しています。専門医が複数常駐する医療機関であれば、緊急事態が発生した場合でも、医師の配置変更や人員補充により、医療機関内で調整し、対応することは可能であります。しかしながら、全国的に医師不足の状態が慢性化しているなかで、自院内で医師補充が行える医療機関は数多くありません。そのため、医療を必要とする患者さんの数と医療を提供できる医師の絶対数があっていない医療ニーズの需給がバランスしないという現象が発生しており、適時に他の医療機関に従事する医師に応援要請を行う必要があります。要請に即座に対応できる医師に向けて、広く情報を提供し、かつ迅速な医師の医療現場への紹介が求められております。

- (2) 医師の世界では、一定のキャリアを積みまでは定収入がないこともあります。一般に大学医学部を卒業し医師国家試験に合格したのちに、臨床経験を活かせる一人前の医師として認められるためには、10年程度の期間を要します。この期間、医師は、外勤（診療）により多くの経験を積み、また、外勤（診療）報酬を生計の一助とする場合もあり、代診を含む外勤（診療）は、特に若手医師の高い需要があります。
- (3) 無医村に象徴される医師の地域偏在による医師不足、特定診療科目の医師不足が深刻な問題となっております。医師臨床研修制度により、症例数が多く臨床経験をえられる都市部の医療機関に従事する医師が増加する一方、地方医療機関及び大学病院に従事する医師が著しく減少し、地方の医療機関の医師不足が深刻となっております。また、過酷な勤務状態及び医療状況である診療科目は人気がなく、このような診療科目の専門医師が不足しております。そのため、地方医療機関及び特定診療科目では、常勤医師のみでは医療の質を維持することができないため、非常勤の医師によるサポートが必要不可欠となり、絶えず非常勤の医師を募集している医療機関は少なくありません。

2. 医師紹介ビジネスモデルの特徴

当社は、2000年1月に東京大学医学部附属病院の医師の互助組織を母体としてスタートいたしました。互助組織という性格から、医師同士の信頼関係のもと、代診医を紹介しあう仕組みが自然に形成され、これにインターネット技術を活用してシステム化させたのが、今日の外勤（診療）ビジネスモデル（レギュラー、スポット（注）1）の始まりであります。当社はこのビジネスモデルを、他社に先駆けて事業化させ、事業化以来現在にいたるまで、数多くの医師に当社の紹介システムを利用していただいております。なお、2022年4月より、非常勤医師（外勤紹介）サービスアプリ「MRT WORK」（注）2を展開しております。

また、当社は、医師会員である医師及び医療機関等のニーズを把握することにより、当社医師紹介サイトから医師会員向けに提供する情報の付加価値を高めるとともに、その利便性を向上させることを通じて、医師と医療機関等をつなぐ医療現場に欠かすことのできないネットワークになってきていると自負しております。

(注) 1. レギュラーとスポットは、当社が事業展開を始めた当初より使用している呼称であります。

レギュラーとは、「毎週定期で勤務する勤務枠」を指し、週5日勤務ではないものの正規雇用と同等の条件で期間の定めのない労働契約を締結している短時間正規雇用、若しくは契約期間2ヶ月以上の非常勤雇用の形態であります。

スポットとは、「単発勤務の勤務枠」を指し、レギュラーを除く非常勤雇用の形態であります。

2. MRT WORKとは、当社が提供する非常勤（定期非常勤・スポットアルバイト）紹介サービスのアプリ版であります。特徴として、紹介案件の検索機能が強化され、お気に入り登録などにより案件比較が容易になることで、医療従事者に適切な求人情報の提供が可能となります。

(1) 医師ネットワークを確立していること

医師を中心とする医療分野の人材紹介は、医療という専門性が高い業務を担う人材を相手とするため、人材紹介にあたっては 緊急手術、急患対応などの即時対応性 大学派閥の人事特殊性 専門的スキルと経験を理解した上でのスピード重視の対応が求められます。

当社は、その設立経緯や現在に至るまでの業務経験・ノウハウの蓄積により、医師を中心とする医療分野の人材ネットワークを強みとして事業基盤を確立しており、企業理念に従い、医師目線で医師の利便性を重視して医師紹介サービス事業を展開しております。

当社のサービスを利用するに当たり、医師会員登録が必要となりますが、当社は、登録手続き上、必ず、医師免許証などの医師免許を証する公的書類、経歴書等の提出を義務付けており、非医師によるなりすまし登録を防いでおります。加えて、医師免許の確認のみならず、過去勤務された医療機関及び診療科目を確認することにより、医師と医療機関とのミスマッチングも防いでおります。このように医師会員のデータを厳格に管理することにより、医療機関及びその関係者に対し、安心して当社サービスを利用していただける環境を提供しております。

一般的に人材紹介ビジネス業界には、参入障壁が低いと考えられる傾向があると思いますが、医療分野に限れば、その業界の特殊性を理解した上で対応する必要があり、その経験・ノウハウ等が重要になるため、新規事業者の参入は難しいと考えております。

(2) インターネット技術を活用した医師紹介サービスであること

当社は、医療分野に特化した人材紹介事業を展開するにあたり、医療分野の人材が快適かつ迅速に外勤（診療）探し又は転職活動ができるように、インターネット技術を活用した医師紹介システムを構築しております。

これにより、求人情報サイトのような利便性と当社専任スタッフによるきめ細かい転職サポート等を実現し、多店舗展開することなく、少人数のスタッフにより、スピーディーな医療機関及び医療分野人材等の求人・求職需要のマッチングを可能にしております。

当社は、医療機関に対して医師を適切に紹介するため、医療業界の慣行を踏まえた医師紹介システムを構築しております。

(3) 医師へ提供するその他の付加価値

当社グループは、医療・ヘルスケア分野において、医療情報プラットフォームを提供することで、医師紹介情報の提供のみならず、医師に対して付加価値の高いサービスを提供しております。当社医師紹介サイトが提供している外勤（診療）紹介以外に、「ネット医局®」、「Door.」の提供を通じて、医師ネットワークの拡大及び当社医師紹介サイト又はアプリ「MRT WORK」のアクセス数及び利用回数が増加することで、医師紹介サイト自体の付加価値を高めております。

3. 医師紹介の業務

(1) 医師紹介の概要

医師紹介には、大別するとレギュラー及びスポットから構成される「非常勤医師紹介業務（外勤紹介）」と「常勤医師紹介業務（医師転職紹介）」がありますが、それぞれの業務の流れは多少異なっており、当社の人材紹介システムは特に非常勤医師の人材紹介業務に活かされております。

非常勤医師紹介は、「(2) 非常勤医師紹介（外勤紹介）の場合」に記載のとおり、非常勤を希望する医師会員及び医療機関同士が、当社の人材紹介システムを利用して反復継続的にマッチングを行うサービスであります。

また、当社は、医師紹介サイトを通じた勤務実績に応じてMRTポイントを医師に付与しております。このMRTポイントは、当社サービスを継続的に利用していただくための利用促進策の一環であり、一定ポイントためると、現金への交換が可能となっております。加えて、MRTポイントは、医師会員の善意により日本赤十字東日本大震災義援金など寄付にも活用されております。

一方、常勤医師紹介は「(3) 常勤医師紹介（医師転職紹介）の場合」に記載のとおり、常勤を希望する医師会員及び医療機関に対して、当社の少人数の常勤医師紹介専任スタッフが当社の医師会員を医療機関に紹介するサービスであります。基本的に当社の既存の医師会員を対象に紹介しております。

当社グループは、連結子会社である株式会社医師のとも（以下、「医師のとも」という。）及び株式会社日本メディカルキャリア（以下、「メディカルキャリア」という。）においても当社同様に医師紹介サービスを提供しております。医師のともが提供する非常勤医師紹介（レギュラー、スポット）及び常勤医師紹介、メディカルキャリアが提供する非常勤医師紹介（レギュラー）及び常勤医師紹介は、「(3) 常勤医師紹介（医師転職紹介）の場合」に記載する業務の流れで行われております。

(2) 非常勤医師紹介（外勤紹介）の場合

非常勤医師紹介は、レギュラーとスポットから構成されますが、医師紹介サイトはこれらの医療現場の要望をできるだけ反映させることを可能としており、医師が勤務するまでのプロセスのほとんどを当社の医師紹介サイト内で完結させております。加えて、緊急性が高いケースの場合は、全医師会員にメールを流し、応募を促すなどきめ細かな対応を行っているほか、レギュラーについては、当社専任スタッフが医療機関との調整をします。

非常勤医師紹介の流れは以下のとおりであります。

非常勤医師の求人側の医療機関（病院、診療所等）は、あらかじめ、当社医師紹介サイトにより会員登録し、医師求人募集要項（診療科、期間、報酬など）を医師紹介サイトに掲載します。

非常勤による就業を希望する医師は、あらかじめ、当社医師紹介サイト又はアプリ「MRT WORK」を通じて会員登録した上で、掲載されている募集要項を確認し、医師紹介サイト又はアプリ「MRT WORK」経由で応募します。

求人側の医療機関は、医師紹介サイト経由で医師からの応募内容を確認し、雇用につき同意する場合は、両者の労働契約が成立します。なお、レギュラーの場合は、当社専任スタッフが、医師と医療機関との間で、開始時期などを調整します。

その後、当社は、一定の紹介手数料を求人側の医療機関から受領します。なお、医師からは手数料の受領はありません。

レギュラーの場合は、レギュラー勤務医師と医療機関との労働契約の維持を図るとともに、当該労働契約が終了した場合に他の医師を適時紹介することができるように、当社専任スタッフが医師及び医療機関に対して、適宜コミュニケーションをとることとしております。

[非常勤医師紹介（外勤紹介）の手順（図）]

1. 当社運営サイトに会員登録(医師・医療機関)



2. 医師と医療機関とのマッチング(Webサイト)



3. 医師と医療機関との間に労働契約が成立



4. 勤務実績に応じ、医療機関から紹介手数料を受領



(3) 常勤医師紹介（医師転職紹介）の場合

常勤医師の人材紹介業務は、求人側の医療機関及び転職希望の医師が医師紹介サイトで会員登録等を実施し、その後、常勤医師紹介専任スタッフが、直接面談を行い、会員医師の要望を把握した上で、求人側の医療機関と転職希望の医師のマッチングを行います。

常勤医師紹介の流れは以下のとおりであります。

常勤医師の求人側の医療機関（病院、診療所等）は、あらかじめ、医師紹介サイトにより会員登録し、医師求人の募集要項（診療科、期間、報酬など）を医師紹介サイトに掲載します。

当社の常勤医師紹介専任スタッフが直接、求人側の医療機関と面談し、雇用条件などの希望を伺い、その希望に極力適う医師の探索を開始し、紹介します。

一方で、正規雇用による就業を希望する医師は、あらかじめ、医師紹介サイトで会員登録した上で、当社医師紹介サイト経由で正規雇用による求職の申し込みを行います。

当社の常勤医師紹介専任スタッフは、直接、医師会員と面談し、就業条件等の希望を伺い、その希望に極力適う医療機関の探索を開始し、紹介します。

求人側の医療機関及び医師双方が同意した場合、両者の労働契約が締結されます。

その後、当社は、一定の紹介手数料を求人側の医療機関から受領します。なお、医師からは手数料の受領はありません。

[常勤医師紹介（医師転職紹介）の手順（図）]

1. 当社医師紹介サイトに会員登録（医師・医療機関様）



2. 常勤専属スタッフが医師へ直接ヒアリングし、ご要望をお伺いします



3. 常勤専属スタッフが医療機関様へ直接ヒアリングし、ご要望をお伺いします



4. 医療機関様のご要望をシステムへ反映し、ご希望の条件に合う医師とのマッチング



5. 医師と医療機関との間に労働契約が成立



6. 労働契約締結に応じ、医療機関様から紹介手数料を受領



4. その他の医療人材

(1) その他の医療人材の概要

コメディカルといわれる看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師につきましても「3. 医師紹介の業務」と同様の紹介をしております。なお、コメディカル紹介には、MRTポイント制度の適用はありません。

また、当社グループは、一部のエリアにおいて、法令で認められる範囲において、医療人材の紹介予定派遣等を行っております。

(2) 紹介予定派遣の流れ

派遣形態による就業を希望する求職者は、運営サイトで会員登録を行います。その後、専任スタッフは、求職者と直接面談を行い、求職者の要望を把握した上で、求人側の医療機関と求職者のマッチングを行います。求職者と求人側の医療機関が双方同意した場合、当社グループと求職者間で労働契約が締結され、一方、当社グループと求人側の医療機関で派遣契約が締結されます。

当社グループは、契約に従って、求人側の医療機関から報酬を受領し、求職者である派遣スタッフに給与を支給いたします。

[紹介予定派遣の手順(図)]

1. 当社グループ紹介予定派遣サイトに会員登録



2. 専属スタッフが会員へ直接ヒアリングし、ご要望をお伺いします



3. 医療機関様より依頼を頂き、専属スタッフが医療機関様へ直接ヒアリングし、ご要望をお伺いします



4. 医療機関様のご要望を把握し、ご希望の条件に合う会員とのマッチング



5. MRTと会員との間に労働契約が成立、MRTと医療機関との間に派遣契約が成立



6. 労働契約に従ってMRTから会員へ給与を支給、医療機関様から報酬を受領



(その他のサービス)

5. ネット医局®

ネット医局®とは、当社グループが開発した医局の管理業務の支援を行うグループウェアであり、当社グループは、医局の業務支援の需要に着目し、医局に無償で提供しております。

ネット医局の主なサービスは、下記のとおりであります。

(1) スケジュール管理

当直作成表や勤怠管理、スケジュールが一括管理でき、勉強会及び講演会などのイベントのご案内、参加の管理を行うことができます。

(2) 情報共有

掲示板機能により、説明会及びカンファレンスなどの情報共有が可能となります。

(3) アポイント管理

効率的にアポイント取得及び管理ができ、空き時間等の有効活用を実現することができます。

(4) 緊急安否確認 (FASTCALL)

安否確認、緊急掲示板、災害情報等、医療機関危機管理体制に必要な機能を集約し、医療機関の安全管理体制を支援することで、災害時等のリスクマネジメントを行うことができます。

6. オンライン診療・健康相談サービス

オンライン診療・健康相談サービスでは、スマートフォンやタブレットに搭載されているカメラを利用することで、患者及び相談者（以下、「患者等」）の顔色や患部の状況を把握することが可能なため、従来の電話による診療（再診）より具体的なアドバイスや診療を行うことができます。

初診を行っていただいた医療機関に、どこからでも保険適用で再診を受けることができるオンライン診療サービスであります。忙しくて通院による再診ができないとき、普段利用する医療機関が自宅から遠い場合、動くことが容易でない高齢者の方等、通院自体が困難な患者が、気軽に再診を受けることができます。

(1) Door. into健康医療相談《オンライン診療・健康相談サービス》

Door. into健康医療相談は、医師ネットワークのプラットフォームである「Door.」（注）を通じて、医師・医療機関と患者等、薬剤師など医療従事者をつなぐオンライン健康相談、オンライン診療などを提供するものであります。2023年12月、「Door.」を活用した、育児経験のある小児科専門医による、オンライン健康相談、診療相談「オンラインこども診療」をリリースし、提携医療機関と連携してサービスを提供しております。

(注) 「Door.」は、医師のネットワークにつながる「Door（扉）」と、ピリオドを付すことにより「Dr.（医師）」のダブルミーニングのコンセプトで展開しております。医師は、「Door.」を開いて「Room」に入ることによって、当社グループ及び業務提携先が提供するサービスを受けることができます。

当社グループは、全国に医療人材および医療機関のネットワークを持つ共有プラットフォームを構築し、グループ内情報の共有化を実現することで、(1)適切なマーケティング、(2)サービスの品質の向上・多様化、(3)アライアンス・M&Aの効果最大化を目指しております。このプラットフォームとなる「Door.」アプリを提供し、医師のネットワークの更なる連携・強化、様々なサービス展開に取り組んでおります。

Door. into健康医療相談の特徴

オンラインによる健康相談、受診勧奨や受診相談、診療までを一気通貫で行うことができます。あらゆるシーンでご利用いただくことを想定し、画面や操作性を、医師、患者等のだれもが身近に感じ馴染みやすいシンプルなものにしております。

Door. into健康医療相談の機能

) オンライン健康相談

- 相談者は「相談キー」を利用して「Room」に入り、医師からアドバイスを受けます。
- 「相談キー」は、企業やお店から配布、またはサービスサイトにて個人で購入することにより取得することができます。
- 産業保健の補助や福利厚生の実施、企業が提供するサービスの付加価値向上に利用することができます。
- 「相談キー」は目的や用途によりカスタマイズが可能です。提供企業のロゴやサービス案内を掲載することや、1枚のキーでの利用回数や利用期間、チャットのみ、チャット+ビデオ通話、相談内容などを選択して発行することができます。

) オンライン診療

- 医療機関毎に発行されている電子診察券である「診察キー」を利用して診療を受けることができます。
- 「診察キー」は、医療機関のキーコードの登録、または医療機関一覧から選択して取得することができます。
- 患者は、医療機関を選んで予約、ビデオ通話で受診し、医療費はアプリ内で自動決済、明細や処方箋などの画像が取得できます。

(2) ポケットドクター《オンライン診療サービス》

当社グループは、株式会社オプティム（以下、「オプティム」）との共同開発によりスマートフォン、タブレットを用いたオンライン診療サービスを提供しております。

ポケットドクターは、オプティムの持つリモートマネジメントテクノロジー（遠隔管理技術）と、当社グループが培ってきた医療情報及び医師、医療機関のネットワークを組み合わせることで、医療を必要としている人々と遠隔地にいる医療の専門家をつなぐサービスであります。

ポケットドクターの機能

- 患者等は、ウェアラブル機器と連携することによって、ウェアラブル機器から収集される自身のさまざまなバイタルデータ（注）を医師と共有することができます。
- 患者等が映像や画像の共有を行う際に、医師はスマートフォン、タブレットからのライブ映像上に、赤ペン機能（赤色のペンにて記入）や、指差し機能を用いて、映してほしい箇所の指示や、症状の説明を的確に行えます。

(注) バイタルデータとは、脈拍、血圧、体温など、人体から取得できるさまざまな生体情報のこととなります。

7. 女医プラス、医師プラス

女医プラス、医師プラスとは、医師が医師としての知識をベースに、医師がそれぞれ持つ個性を活かして、医療、ヘルスケアに関する啓発活動、情報発信を行うユニットであります。

ユニットを通じて、主に以下のサービスを提供しております。

(1) サンプリングアンケート

医師による商品やサービスのモニター及びアンケートの回答により、医師の意見の集約をサポートします。

(2) 認証マーク

医師によるアンケートの結果を踏まえて、商品やサービスに医師の認証マークを付与することで、品質や安全性等に対するユーザーへの訴求をサポートします。

(3) 商品開発、監修

商品開発時に、商品やサービスの品質向上を図るため、医学的知見を活かし医師のアドバイスを提供します。

(4) 記事監修、取材

記事に対して専門領域に沿って医学的疑義を確認、また医学的見地に基づき取材を行うことで、正確な医療情報を提供することをサポートします。

(5) メディア出演、講演

テレビや雑誌、セミナーや研修等で、医療、ヘルスケアに関する正確な情報の発信をサポートします。

8. 出版サービス

地元有力病院の医師が、患者や地域住民を対象にわかりやすく執筆した病気と治療の解説書を出版しております。書籍の出版を通じて、病気の説明や検査、診断、標準治療、先進医療など、難解な医療情報を、用語の解説や言い換えを行い、読みやすい文字構成、イラストや図表、写真をバランス良く使用し、病気と治療に関する正しい情報の理解促進を行います。

9. 医療機関経営支援サービス

医療機関に診療のための時間を確保していただくために、医療機関のバックオフィス業務を包括的に受託するサービスであります。

(1) ファイナンスサービス

診療報酬ファクタリング

診療報酬債権を買い取り、資金化を早期に行います。

事業資金立替

医療機関に対して、給与等の支払資金の一時的な立替を行います。

(2) R P O、B P Oサービス

非常勤医師の求人募集、採用から給与振込まで一気通貫で業務をサポートします。さらに、(1)のサービスと連携し、買い取った診療報酬債権を元に非常勤医師の給与を医療機関に代わり支払いをします。

(3) 職員・患者の満足度調査サービス

医師/看護師など「職種ごとの設問」とカテゴリ/重要度の組合せで立体的な分析を行い、患者の心理変化もきめ細かく調査し、病院経営を支える効果的な情報の収集、結果解析を行っております。

10. 医師向けの医薬品プロモーション支援

医薬品の広告やパンフレット、医学学会の記事集等の制作や医薬品情報 提供用WEBサイトの構築を通じて、医師や医療従事者に情報提供を行い、また病院内ポスターやパンフレット制作を通じて患者への疾患啓発活動を行っております。特に腫瘍学 (oncology) 分野を得意とし、幅広い知見と経験を有するメディカルライターをはじめとした人材を擁しております。

11. 登録・受付センター等の運営

当社グループは、医療人材紹介、採用管理システム、B P O等のツールやサービスを活用して、医療従事者等で運営する登録・受付センターの運営を受託するサービスであります。医療従事者確保や、案件の整理及び調整、医療従事者の労務管理などの業務の効率化を図り、大小様々なセンター運営業務に対応できることを強みとし、自治体及び企業にサービスを提供しております。

12. Well-beingサービス

「悩みが深まる前にメンバーのストレスを減らしてあげたい」「若手の看護師は壁にぶつかるとう簡単に辞めてしまう」「管理職がしんどくなった時、誰にも相談できない」など、ストレスフルな環境に置かれている医療現場の負を解決するサービスです。看護師が日常の悩みを気軽に相談できる「よろず相談カウンセリング」や、部下への対応に悩む管理職をサポートする「管理職専用相談ダイヤル」そして、職員のWell-beingをかなえる各種研修を提供しております。

(1) ストレスマネジメント研修

管理職は日々様々な悩みを抱えています。管理職ならではのご相談や管理職ご自身の悩みや不調に対し、専門的な見地からコンサルテーションを行います。

(2) 職場の心理的安全性を高める研修

「心理的安全性」について学び、自職場の状況やメンバーの様子を振り返り、課題を特定し対処法を実践的に考えます。管理職同士が日々の工夫や悩みを共有し、お互いの関係性を高めます。

(3) ハラスメント研修&加害者更生プログラム

問題言動のもととなる「怒り」を取り上げ、そのコントロールの方法を学びます。さらにハラスメントが起こってしまった場合の対応についても学びます。

(4) 職場復帰支援

メンタル疾患で休職したメンバーの再発を防ぎ、安定的に職場復帰をしていく支援並びに職場復帰に対応する管理職の負担軽減を図ります。

(注) Well-beingとは、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念であります。

13. 医療機器プラットフォームサービス

医療機器卸、メーカー、医療従事者をつなぐ医療機器情報サイトを提供しております。

(1) Medikiki.com

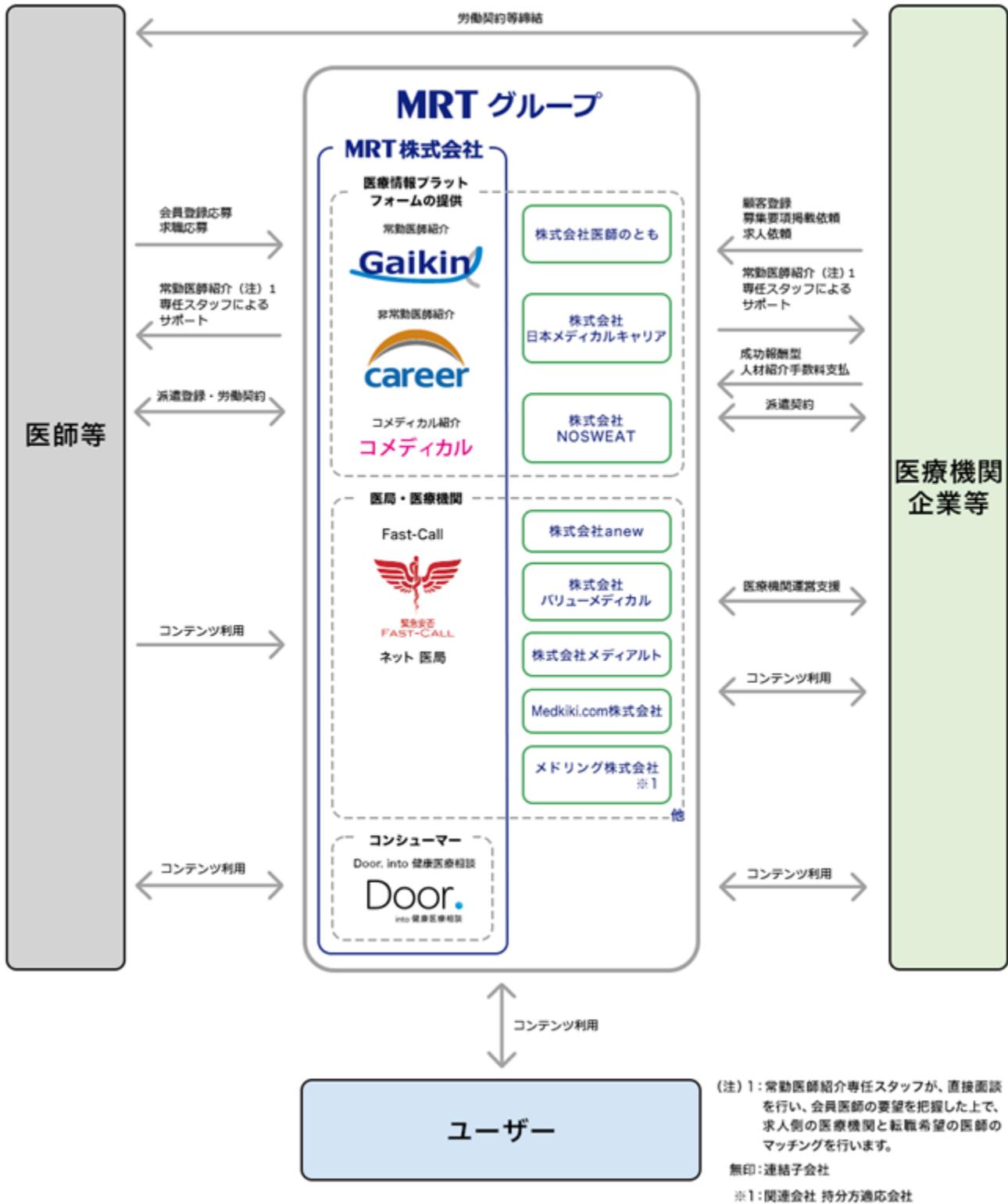
)医療機器の添付文書ダウンロードでき、回収・改訂などの情報があつた際に通知を受け取ることができません。

)医療機器のカタログを検索・閲覧・ダウンロードでき、選択した医療機器の比較表をワンクリックで自動生成できます。

(2) クラウド型医療機器管理システム (MMS:Medikiki Management System)

医療機器の点検スケジュールや所在場所の可視化、管理状況に合わせて点検項目のカスタマイズができます。

[事業系統図]



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係 内容
(連結子会社) 株式会社NOSWEAT	京都府 京都市 下京区	30,000	医療従事者労働者派遣事業 医療従事者職業紹介事業	100.0	役員の兼任 1名
株式会社医師のとも(注)3	東京都 渋谷区	25,153	医療従事者職業紹介事業 開業、事業承継支援事業 PR事業 ライフサポート事業	70.0	役員の兼任 1名
株式会社 日本メディカルキャリア	東京都 渋谷区	10,000	医療従事者職業紹介事業 キャリア支援事業	100.0	役員の兼任 1名
株式会社 anew	東京都 渋谷区	27,000	BPO事業 ファイナンス事業	100.0	役員の兼任 1名
株式会社バリューメディカル	東京都 渋谷区	10,000	出版事業 アンケート調査事業 well-being事業	100.0	役員の兼任 1名
株式会社メディアルト	東京都 中央区	31,000	医師向けの医薬品プロモーション施策 医薬品の広告やパンフレット などの制作 医学学会の記録集制作	100.0	役員の兼任 1名
Medikiki.com株式会社(注)1	東京都 渋谷区	81,000	医療機器情報サイトの運営 医療従事者向け情報サイトの 制作支援 クラウド型医療機器管理シス テムの運営 医療従事者職業紹介事業	80.8	役員の兼任 1名
その他2社					
(持分法適用会社) メドリング株式会社	東京都 渋谷区	125,271	クラウド電子カルテの開発販 売	21.1	役員の兼任 2名

(注)1. 特定子会社に該当しております。

2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

3. 株式会社医師のともについては売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上収益に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等(日本基準)

株式会社医師のとも

(1)売上高	645,301千円
(2)経常利益	133,103
(3)当期純利益	85,212
(4)純資産額	419,855
(5)総資産額	539,958

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2023年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
医療情報プラットフォームの提供	288(60)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、パート及び嘱託社員は()内に年間の平均人員を外書しております。
2. パート及び嘱託社員の年間平均人員が前期と比べて、101名減少しておりますが、自治体から受託した業務に従事する医療従事者の雇用が減少したことによるものであります。

(2) 提出会社の状況

2023年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
175 (53)	31.0	4.2	6,278,832

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(アルバイト及び派遣社員を含みます。)は、年間の平均人数を()内に外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 当社は、医療情報プラットフォームの提供事業の単一セグメントであるため、従業員数は全社共通としております。
4. 使用人数が前期末と比べて、22名増加しておりますが、その主な理由は、業務拡大による新卒及び中途採用によるものであります。
5. パート及び嘱託社員の年間平均人員が前期と比べて、107名減少しておりますが、自治体から受託した業務に従事する医療従事者の雇用が減少したことによるものであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円滑に推移しております。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異 提出会社

当事業年度				
管理職に占める 女性労働者の割合(%) (注)1	男性労働者の 育児休業取得率(%) (注)2	労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1		
		全労働者	正規雇用労働者	非正規雇用労働者 (注)3
38.1	100.0	80.6	83.7	94.4

- (注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。
2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
3. 自治体から受託した業務に従事する医療従事者を算定から除いております。

連結子会社

連結子会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

1. 経営方針及び経営戦略等

当社グループは、「医療を想い、社会に貢献する。」を企業理念とし、医療現場の主役である医師と医師との繋がりが、そしてその医師のQOLの向上が豊かな医療の創造を実現させるという信念のもと、医師の互助組織を母体として発足いたしました。以来、経験・ノウハウの蓄積により確立した医療分野の人材ネットワークを強みとして医療情報のプラットフォームを提供することで、豊かな医療の創造の実現を目指しております。

上記の目的を実現する上で、経営方針を下記のとおり定めております。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営理念

医療を想い、社会に貢献する。

(2) ビジョン

医療・ヘルスケアの革新的なマーケットプレイスを創る

大切に受け継いできた相互扶助精神に基づき、患者様のために医療現場の問題をとともに解決し、医療環境の未来をつなぐプラットフォームをつくります。

更なる企業価値向上のために、医師会員登録数及び医療機関登録数の増加に取り組みます。現在、主に口コミを中心に関東圏の会員を増やしておりますが、下記方針により、当社グループ及び当社サービスの知名度及び認知度向上を図ってまいります。

(1) 医局向けサービスの拡充

大学医局向けのサービスを拡充することにより、大学附属病院を中心に、その関連の市中病院、開業医にいたるまで医局単位での医師及び医療機関にアプローチを実施。

(2) 地方へのビジネスの拡大

自治体との連携及び関東圏以外の拠点を設けることにより、地方の医師及び医療機関との距離を縮小。

(3) グループ共有プラットフォームの活用

グループ共有プラットフォームを活用して、医師会員及び医療機関に更なる付加価値サービスを提供。

また、当社グループの持続的な成長を目指して、医療人材紹介サービスに加えて、医師同士が必要とする情報を交換する場を提供することにより医師と医師をつなぐサービス、医療情報を必要とする企業と医師をつなぐサービス、そして、医療を必要とする患者に医師をつなぐサービスを提供することにより、サービスの多様化を実現し、付加価値の高い新たなサービスの拡充に取り組んでまいります。

2. 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社は強みとしている医師の互助組織として発足以来の経験・ノウハウの蓄積で確立した医療情報プラットフォームをさらに強化し、以下の事項に対処すべき課題と認識して、「医療を想い、社会に貢献する。」という企業理念に沿って持続的な成長を実現するため、各課題に取り組んでまいります。

(1) 医療人材紹介の取り組み

当社グループには累計200万件以上の非常勤医師紹介実績を誇る医療人材プラットフォームを強みとしております。現時点においては、MRTブランドは非常勤において優位性が有ると認知されておりますが、常勤に関しての認知は十分ではなく、今後非常勤紹介と同水準での認知度向上が必須と考えております。そのため、常勤および非常勤の紹介事業に係る経営資源が分散されるといった課題解決に向け完全子会社である日本メディカルキャリアの常勤紹介事業を当社が承継し、非常勤から常勤まで包括的な紹介ができる体制の構築に取り組んでおります。

今後は、医療従事者および医療機関に対して、常勤紹介サービスの周知および販促活動を拡大するとともに、営業組織体制も強化し、より良いサービス提供ができるよう努めてまいります。

当社グループの医療人材サービスにおいて、特に非常勤医師の人材紹介では、反復継続的に当社グループを利用している医師が数多く存在しているという事実があり、当社グループの強みになっていると考えております。しかしながら、当連結会計年度末日現在、当社グループに登録している医師会員数は10万名程度（過去に登録されている医師の累計数（退会者を除く））であり、日本全国の医師数が約33万人（厚生労働省「令和2年（2020）医師・歯科医師・薬剤師統計」）であることを考えると、医療人材プラットフォームとして会員数の多さという視点ではまだ十分とはいえません。

このため、当社グループでは、会員向けサービスの拡充、営業体制・人員の強化を進めるとともにSNS等の各種媒体を有効活用する等、時流に併せたアプローチにより、医療従事者会員数及び登録医療機関数の増加を目指しております。

医師以外の看護師をはじめとする医療従事者においても日本全国の人数に比すると医師同様の課題があります。当社グループが医師以外の医療従事者の非常勤・常勤人材紹介を提供していることに関する訴求はまだ十分ではないと考えており、医療従事者に対しても医療機関をはじめとする紹介先に対しても知名度の向上に取り組んでおります。

以上の取り組みを踏まえ、当社グループは、当社グループが有する医療人材プラットフォームを活用し、医療従事者の地域偏在、診療科偏在といった自治体の抱える地域医療課題解決を目指しております。さらに、医療DXプラットフォームとの連携により医療過疎地の医療アクセスの向上にも寄与するものと考えております。現在こうした当社グループの取り組みや実績について取りまとめ、自治体に対し認知度の向上および継続的な啓蒙活動に努めております。

(2) 新たな価値の創造

当社には非常勤医師紹介実績を誇る医療人材プラットフォームおよび、遠隔健康医療相談からオンライン診療まで一気通貫で行うことができる医療DXプラットフォームがございます。加えて、当社グループとして医療従事者向けのライフ支援サービス、医療機関向けWell-beingサービス、大学病院の書籍出版、製薬会社の販促支援といったさまざまな事業を展開しております。

これらのサービスの質やサービス間の連携を高め、新たな価値を創造することにより、各事業部門の収益性を高め、延いては当社グループの持続的な成長の実現を目指しております。今後も引き続き、これらのサービス以外にも、医師、医療機関、患者、一般顧客及びその他医療関係者に向けたサービスの拡充を目指しております。

(3) アライアンス及びM & Aの取り組み

当社グループは、医療人材サービスの拡大、医療・ヘルスケア分野における新規サービスの拡充に取り組んでおります。しかしながら、独自で新規サービスの開発等をするには、サービス提供までに長期の時間を要し、顧客ニーズを含む外部環境の変化に対応することができなくなるというリスクがあります。そのため、M & A等により、営業基盤の獲得、サービス提供開始までの期間短縮、開発コスト削減などを実現することで、顧客ニーズに対応したサービスの提供あるいはサービスの向上を適時実施できるものと考えております。また、M & Aによる統合プロセス（PMI）も重要な課題と認識し、M & Aの最大化を目指しております。

(4) 海外へ向けた取り組み

ASEANをはじめとする東南アジアやアフリカといった地域においては、人口増加と経済成長に伴い、医療ニーズが高まることが想定される一方で、医療インフラは十分に整っていないのが現状であり、このギャップを埋めるためにも各国政府が国を挙げて法整備や医療のデジタル化を図っています。

当社グループが日本において医療人材プラットフォームおよび医療DXプラットフォームの展開により積み上げてきた医療現場支援の実績および知見ならびに経験を活かし、海外における医療DX・医療人材プラットフォームの構築を目指してまいります。今後ますます発展が見込まれる新たな市場を開拓することにより、当社グループの業績拡大を推進するとともに、各国の医療・ヘルスケアにおける社会課題の解決および健康向上に寄与し、当社の企業価値を向上するものと考えております。

(5) システムの安定稼働と強化

当社グループは、情報通信技術を活用して事業を運営していることから、事業運営上、システムの安定稼働が、極めて重要であると認識しております。このため、当社グループは、会員数又は利用者数に応じたサーバーの増強、各種エンジニアの確保を含め、システムの安定化のため継続的にシステム強化に取り組んでまいります。

(6) 人材の採用・育成

当社グループの「対処すべき課題」の解決には、優秀な人材を継続的に採用・育成することが課題であると認識しております。当社グループは、職場環境及び人事制度の整備を通じて、当社グループが必要とする優秀な人材を継続的に採用・育成すべく取り組んでまいります。

3. 経営上の目標達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、持続的な成長を目指し、重視する経営指標を 売上収益 営業利益 親会社の所有者に帰属する当期利益の対前年度比としております。

4. 経営環境

当社グループを取り巻く医療・ヘルスケア業界においては、高齢化社会の進行とともに医療の担い手不足や地域偏在、診療科偏在が課題に挙げられてきました。日本の医療費は40兆円を超え2040年度には約66兆円を見込み、医療費の削減、医師の自己犠牲的な長時間労働により支えられている危機的な状況の改善など、持続可能な医療サービスを実現するための対策が求められてきました。2020年より2年以上にわたり席卷した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2023年5月8日以降、5類へ移行しましたが、この感染拡大を契機として救急医療をはじめとした地域医療課題が顕在化し、医療サービスは様々な状況に応じた需要への対応を求められています。

2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) ガバナンス

当社グループは、上記に記載した社会課題の解決と持続可能性のある企業価値の向上の実現のためにも、各種法令およびガイドラインを遵守し、経営監視機能を充実させ、経営の透明性を維持していくことが重要と考えており、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化に努めております。

当社グループのコーポレート・ガバナンスに関する詳細は、「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 （1）コーポレート・ガバナンスの概要」をご参照ください。

(2) 戦略

当社グループは、山積する医療課題の解決および世界の医療の発展のために尽力すべく「医療を想い、社会に貢献する。」を企業理念に掲げ、事業展開そのものがサステナビリティ向上に寄与するものと理解しており、当社グループの持続的な成長が、社会の持続的な発展につながるものと考えております。

具体的には、サステナビリティの基本的な考え方である「環境保護」、「社会開発」、「経済発展」の3つの柱（トリプルボトムライン）を以下のように考えております。

環境保護（Environmental Protection）

医療DXをはじめとした医療提供体制の効率化及びヘルスケア推進による医療費の削減等の一翼を担うことにより、環境保護に貢献してまいります。また、社内におきましても、リモートワークやグループウェア等のツールの活用など、省エネに向けた取組を推進しています。

社会開発（Social Development）

高齢化に伴う医療ニーズの拡大や医療過疎地における医療アクセス困難の問題、医療従事者の地域偏在および診療科偏在との複合的な医療課題に対し、医療人材紹介を常勤・非常勤を組み合わせることで適正配置に努めてまいります。また、産休・育休中の女性医療従事者や海外在住の医療従事者など、医療DXとの組み合わせにより社会参加を促し、医療従事者の総勤務時間の底上げを図っております。

経済発展（Economic Development）

当社グループが有する医療人材プラットフォームや医療DXプラットフォーム等を活用し、新たな医療・ヘルスケアサービスを生み出し、現行の体制で不足している箇所を補完、他業種企業との連携によるさらなる発展を推進しております。また、日本で培った知見・経験を活用し、ASEAN諸国をはじめとした世界の医療発展に貢献しております。

当社グループにおける、人材の多様性の確保を含む人材の育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針は、以下の通りであります。

人材育成方針

当社グループは、企業理念として掲げる「医療を想い、社会に貢献する。」を実現するために、行動指針として「医療に関わる全ての人のために」「上品に」「合理的に」を掲げ、この3つのコアバリューを共有したメンバーが集う医療のプロフェッショナル集団として、社会に貢献すべく全力で取り組んでおります。

この企業理念に共感する人材を採用し、バリューを体現する人材へ育成することが、当社グループの持続的な成長及び当社グループが目指す社会への貢献をする上で不可欠であると考え、これに基づく施策を策定し、実践しております。

社内環境整備方針

当社グループは、採用された多様な属性、能力、経験等を持った人材が、公平感ややりがいを感じながら働けるよう、国籍、年齢、性別などにとらわれない多様性を重んじた人材登用や、安心して働ける環境づくりとして育児・介護関連の制度整備および周知、健康管理支援、ICT化等を活用した業務効率向上支援、福利厚生制度の拡充などを図っております。

(3) リスク管理

当社グループは、「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要 企業統治に関するその他の事項」に記載の通り、サステナビリティへの対応を含めた当社グループ全体のリスクを的確に把握し適正に対応するとともに、必要に応じて医師、弁護士、公認会計士、税理士等の外部専門家の助言を受けられる体制を整えており、リスクを未然に防止又は早期に発見するよう努めております。発生時には上記に記載の体制及び助言を踏まえて、回避又は被害の最小化、再発防止対策を講じ、取締役会に報告いたします。

なお、当社の認識するリスクにつきましては、「第2 事業の状況 3 事業等のリスク」をご参照ください。

(4) 指標及び目標

当社グループでは、上記(2)戦略に記載した人材の育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針について、以下の目標を設定しております。当該指標に関する目標及び実績は次のとおりであります。

なお、当指標につきましては、当社においては関連する指標データ管理及び取り組みが行われているものの、当社グループに属するすべての会社では行われていないため、当社グループにおける記載が困難であります。このため、次の指標に関する目標及び実績は、提出会社のものを記載しております。

指標及び目標	目標	実績(当事業年度)
管理職に占める女性比率	40.0%以上	38.1%
労働者の男女の賃金の格差(正規雇用労働者)(注)	85.0%以上	83.7%

(注) 男性賃金を100としたときの女性賃金の割合

実績値の算定時における男性平均年齢35歳、女性平均年齢29歳であります。

指標の詳細は、「第4 提出会社の状況 5 従業員の状況 (4) 管理職に占める女性労働者の割合 男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異」をご参照ください。

3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識しているリスクは、以下のとおりであります。あわせて、必ずしもそのようなリスクに該当しない事項についても、投資者の判断にとって重要であると当社が考える事項については、積極的な情報開示の観点から記載しております。なお、本項の記載内容は当社株式の投資に関する全てのリスクを網羅しているものではありません。

当社グループは、これらのリスクの発生可能性を認識した上で、発生回避及び発生した場合の迅速な対応に努める方針ですが、当社株式に関する投資判断は、本項及び本項以外の記載内容もあわせて慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

本項記載の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

1. 事業環境に由来するリスクについて

(1) インターネット関連市場

当社グループの主たる事業は、インターネットを活用した医師を中心とする医療分野の人材紹介事業であり、インターネットの普及・利用状況や技術革新等の影響を受けます。わが国におけるインターネットの普及率は2022年12月時点において84.9%(総務省「令和5年度版 情報通信白書」)であり、世界的に見ても高水準にあります。

しかしながら、今後、インターネット利用の普及に伴う弊害の発生、利用に関する新たな規制の導入、その他予期せぬ要因によって、インターネット利用の順調な発展が阻害された場合、一般的な普及が進んでも何らかの理由で医療従事者間でのインターネットの普及が阻害された場合、あるいは、急激なインターネットの技術革新が発生し当社グループが対応できない場合等には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 医療・ヘルスケア市場

現在、当社グループの売上の多くが、医療・ヘルスケア関連分野からのものとなっています。医療・ヘルスケア関連業界は、高齢化などにより今後も市場の成長が見込まれますが、何らかの理由により、市場の成長が停滞し、あるいは市場が縮小するなどした場合や、市場動向に当社が対応できない場合等には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 他社との競合

人材紹介業界は、新規参入障壁が低く、大手事業者から個人事業まで多数存在しています。しかしながら、医療分野の人材紹介業界に限ると、医師からの信頼を得ることが必要であり、当社グループは口コミや紹介をベースに会員を増やしていることから、差別化が図られていると考えております。

また、オンライン診療システムに関連するサービス市場は、IoTの実用化促進、データヘルス改革などで伸びており、一方で、簡易なシステムによりオンライン診療を実施できることから、提供事業者が多数存在しております。当社グループは、医師のネットワークを持つ強みを活かして、サービスへの差別化が図られていると考えております。

しかしながら、今後、他社との競合による紹介手数料及び利用料の低下、事業者間の合併・事業譲渡による再編が進む可能性も否定できず、当社グループがこれらの流れに対応できない場合には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 法的規制等

当社グループ事業を規制する主な法規制として、「職業安定法」、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律（以下「労働者派遣法」という。）」、「電気通信事業法」、「プロバイダ責任制度法」及び「不正アクセス行為の禁止等に関する法律」があります。

当社グループは人材サービスを行うにあたり、職業安定法に基づく厚生労働大臣の「有料職業紹介事業許可」及び労働者派遣法に基づく厚生労働大臣の「一般労働者派遣事業許可」を受け、職業安定法、労働者派遣法及び関連法規の規制が適用されております。なお、労働者派遣法及びその施行令においては、原則として医師の医療機関への派遣が禁止されておりますが、例外的に、紹介予定派遣やへき地などへの医師を含む医療従事者派遣は認められております。

職業安定法は、職業紹介事業等が労働力の需要供給の適正かつ円滑な調整に果たすべき役割に鑑み、その適正な運営を確保するために、紹介事業を規制しており、厚生労働大臣は、当社グループが有料職業紹介事業者としての欠格事由（職業安定法第32条）に該当したり、当該許可の取消事由（職業安定法第32条の9）に該当した場合には、許可の取り消しや業務の全部又は一部の停止を命じることが出来る旨を定めております。

本書提出日現在において、当社グループが職業安定法及び労働者派遣法に定める取消事由に抵触することはありませんが、今後何らかの理由で許可が取り消された場合、当社グループの事業活動が制限され、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

このほか、当社グループの取引先である医療機関は、「医療法」及び「薬事法」等の医療関連法規制等の影響を受けております。

当社グループが提供する医療情報プラットフォームにおいては、インターネットを活用する上での「電気通信事業法」や、メディア運営を行う上での「著作権法」、特に医療メディア運営を行う上での「医薬若しくは歯科医業又は病院若しくは診療所に関して広告し得る事項等及び広告適正化のための指導等に関する指針（医療広告ガイドライン）」や「保険医療機関及び保険医療費担当規則」など様々な規制下で行われます。

当社グループではこうした各種法令やガイドラインに則り、レギュレーションを作成し、社内教育を行うとともに、公開前のチェック体制の強化など健全な運営が保たれるよう留意しております。

今後、これらの法規制等の改正等が生じた場合には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 社会保険料の負担について

当社グループは、社会保険加入要件を満たす派遣スタッフに対して、社会保険への加入を徹底しております。

今後新たに制度の改定が行われ、社会保険料率及び適用対象者の範囲の変更など、社会保険料の会社負担金額が上昇した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) カントリーリスク

当社グループは、世界の医療発展への貢献を目指し、特に人口増加、経済発展に伴い医療・ヘルスケアへのニーズが高まるASEANをはじめとした東南アジア圏に向けたサービス提供を行っております。海外事業においては、進出国及び地域における、法律及び規制の違い、政治・経済・社会情勢等に起因して生じる予期せぬ事態、外交関係の緊迫化、紛争等による事業環境の悪化といったリスクが想定されます。

今後、これらのリスクが顕在化した場合には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

2. 事業内容に由来するリスクについて

(1) 業績の季節変動性

医師紹介においては、紹介した人材の入職日を基準に売上収益を計上するため、一般的に年度の始まりとされている4月の転職希望者が多く、第2四半期(4月から6月)に売上収益が偏重する傾向となります。

2023年12月期の各四半期会計期間及び各四半期連結会計期間に係る売上収益は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (2) その他」をご参照下さい。

(2) 人材紹介の取引慣行

常勤医師紹介及びコメディカル転職紹介において、当社グループは医療機関に紹介した常勤医師及びコメディカルの入職時に売上収益を計上しております。人材紹介事業の慣行として、求職者が自己都合により退職した場合には、求職者の勤務期間に応じて一定率の手料を返金する取り決めがあり、当社グループにおいても医療機関と紹介手数料を返金する取り決めを行っております。過去の勤務実績に応じて返金負債を計上しておりますが、当社グループの想定する以上の返金が発生した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 公務員医師の紹介

公務員医師は、国家公務員法及び地方公務員法に基づき兼業を禁止されておりますが、事前に兼業する許可を取得することで、兼業が認められております。

当社グループは、会員規約等により事前の兼業許可を取得することを医師会員に対して注意喚起しており、事前の兼業許可を取得していることを条件に公務員医師に対して医療機関への紹介を行っております。しかしながら、当該公務員医師が事前の兼業許可を得ていない場合に、当社グループは法令違反の公務員医師を医療機関に紹介する可能性があり、当社グループの職業紹介事業者としての信用が毀損される可能性があります。

なお、当社グループは、医師紹介サイトを通じた勤務実績に応じてMRTポイントを公務員医師を含む医師会員に対して付与しておりますが、公務員医師にとって当該ポイントは公務員の職務に関して收受等されるものではないこと等を弁護士に確認しており、法令に抵触するものではないと考えております。

(4) 登録会員の確保

当社グループが提供する人材紹介や派遣サービスにおきましては、登録会員の確保を課題としております。

取組としましては、新規会員登録時や未就業の会員に対して随時ヒアリングを行い、会員の意向や希望を的確に把握することで、希望に合った就業機会を提供する施策を実施しております。

その結果、当社グループの信用力とブランド力の向上、会員確保へと繋がっております。

しかしながら、競合他社と比較して当社グループの信用力、ブランド力が低下した場合、会員確保が困難となり、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 運営サイトの健全性の維持・向上

当社グループが提供する医師専用のサイトにおいて、多数の個人会員が会員間で独自にコミュニケーションをとることを可能としております。当社グループは、健全なコミュニティを育成するため、医師が会員登録するにあたり、医師免許や保険医登録票等を確認しており、医師になりすました者等の不適切な利用を排除しております。

また、当社グループが運営する医療情報サイトでは、ユーザーによる「口コミ」やユーザー同士、またはユーザーと提携医療機関との間で行われる「Q&A」などのコミュニケーションが発生します。

当社グループはサイト運営に関して、適切な利用と法令遵守を促す旨を利用規約に明示すると共に、コミュニケーション上のトラブルに関して当社は関与しない旨を明示することによりリスクの回避を行っております。一方、当社グループとしても、リスクを未然に回避するよう、ユーザーや提携医療機関からの違反報告や問い合わせがあった場合には真摯に対応する努力もしています。

しかしながら、今後急速な会員及びユーザー数の拡大等の結果として、当社グループが会員及びユーザーによるサイト内の行為を完全に把握することが困難となり、会員及びユーザーの不適切な行為に起因するトラブルが生じた場合には、当社グループが法的責任を問われる可能性があります。また、法的責任を問われない場合においても、ブランドイメージの悪化等により当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(6) システム障害

当社グループが提供する医療機関の求人情報や医療従事者向け専門サイト、緊急安否やオンライン診療・健康相談サービス等は、ウェブシステム、アプリケーションと通信ネットワークにより提供されております。

当社グループは、自前のシステム管理体制の構築、定期的バックアップ、稼働状況の監視等により、システムトラブル発生の未然防止又は回避に努めておりますが、自然災害や不慮の事故、想定を上回る急激なアクセス増等の一時的な過負荷その他の要因によりシステムにトラブルが生じた場合、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 検索エンジンについて

当社グループの運営する医療情報サイトは、インターネットユーザーの多くが利用する検索エンジン経由の集客に依存する度合いが高く、検索エンジンの表示結果の影響をうけております。

検索エンジン最適化（SEO）、検索エンジンの提供する広告ガイドラインの遵守等、必要な対策は講じておりますが、時流に鑑みて検索エンジン運営者がロジック変更及びガイドライン変更を行うことにより、表示結果が当社にとって優位に働かなくなる可能性があり、その結果当社の運営するサイトへの集客効果が低下した際には、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 医療機関経営支援サービス

当社グループは、医療機関経営支援サービスとして医療機関等が雇用した非常勤の医療従事者の給与計算、給与振込までの医療機関の業務を一気通貫でサポートするために、医療機関に対して一時的な資金の立替を行っております。しかしながら、医療機関等の信用不安等により立替資金の貸倒損失等が発生した場合には、当社グループの業績に影響が及ぶ可能性があります。当社グループは、非常勤の医療従事者を紹介する医療人材サービス部門と連携し、医療機関等の経営状況等の管理を徹底するなどのリスクの低減を図っております。

また、当社グループは、主軸である医療人材サービスに併せて、医療経営サポートを強化するため医療機関向けに診療報酬債権ファクタリングサービスを提供しております。

診療報酬債権（介護報酬債権、調剤報酬債権を含む）は、他業種の債権ファクタリングとは異なり、社会保険診療報酬支払基金等の公的機関から支払いを受けるため、未回収になるリスクは極めて低いものであります。しかしながら、社会保険診療報酬支払基金等の審査の結果、ファクタリングの対象となる診療報酬債権金額が減額されることがあります。当社グループは、過去の社会保険診療報酬支払基金等からの支払実績を踏まえた厳正な審査に基づき、支払金額を決定しておりますが、想定以上の減額が生じた場合には、事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 知的財産権

当社グループの知的財産権について

当社グループは、事業推進のため「MRT」、「ネット医局」、「ポケットドクター」等を商標登録しており、今後においても必要となる提供サービスの呼称等は商標登録し、当社グループの知的財産権として保護・管理する方針としております。しかしながら、当社グループの知的財産権が何らかの理由により侵害された場合には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループによる第三者の知的財産権の侵害について

本書提出日現在において、当社グループが第三者の知的財産権を侵害していないと認識しており、第三者から当社グループが第三者の知的財産権を侵害している旨の通知等を受け取っておりません。当社グループは、インターネットを通じたサービスの提供にあたり、第三者の著作権や商標権等の知的財産権を侵害することがないように、顧問弁護士等との連携を図る等の対策を講じておりますが、当社グループが意図しない形で第三者の知的財産権を侵害するような事態が発生した場合等には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 人材の確保・育成

当社グループが事業拡大を進めていくには、優秀な人材の確保・育成が重要な課題であると認識しております。

しかしながら、人材を適時確保できない場合や人材が大量に社外へ流出してしまった場合、あるいは人材の育成が当社グループの計画どおりに進捗しない場合には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 資本・業務提携

当社グループは、事業拡大及び新規事業の推進を目的として、資本・業務提携を実施しております。今後も事業拡大等に向けた他社との資本・業務提携に取り組んでまいります。しかしながら、経営環境の変化、提携先の業績停滞等により期待どおりの事業シナジー等が得られず、資本・業務提携が変更または解消されることがあります。場合によっては、提携先の財務状態及び業績の悪化等により、のれんの減損損失、出資金の一部または全部を損失計上する等、当社グループの財務状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、現在、当社グループは、当社、株式会社医師のとも及び株式会社日本メディカルキャリアにおいて、常勤及び定期非常勤の医師紹介サービスを提供しております。各社のサービスの強み、ブランド価値を経営資源として有効に活用することができない場合、若しくは各社サービスの統合による効果が十分得られない場合には、期待通りの収益規模拡大に至らず、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 新規サービス及び事業の推進

本書提出日現在、当社グループでは、中長期的には、医師紹介での経験・ノウハウを活用し、医師のネットワークにつながるアプリ「Door.」及びオンライン診療・健康相談サービス「Door.into健康医療相談」をはじめとする新規サービス及び事業に取り組んでまいります。これによりシステムへの先行投資や、人件費等の追加的な支出が発生する可能性があります。また、当該事業を推進させるなかで、当社グループの計画どおりに新規事業が進捗しない場合及び十分な収益を見込めず初期投資を回収できない場合等には、固定資産の減損損失の発生等、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

3. その他のリスクについて

(1) 個人情報管理

当社グループでは、当社提供のサービスを利用する医師、看護師、その他の医療従事者から取得した個人情報を利用しているため、「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者としての義務を課されております。

そのため、当社グループは、2012年3月にプライバシーマークを取得し、日本工業規格（JISQ15001）に合致した個人情報保護規程を策定のうえ、運営サイト上の暗号化や個人情報を管理しているファイルサーバーへのアクセス権限の制限等を通じて、個人情報の機密性を高める施策を講じております。また、2013年10月に全サーバーシステムをISO27001準拠のデータセンターに移行を完了させ、アクセスログが完全保存される仕組みとするとともに、社員のメールやトラフィックの監視ツールの導入に加え、社員教育の徹底等あらゆる方策を講じております。さらに、2016年3月に、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）適合性評価制度の認定を取得し、情報セキュリティの強化のための体制を整備しております。しかしながら、何らかの理由により当社グループが管理する個人情報等の漏洩、改ざん、不正使用等の事態が生じた場合、顧客からの損害賠償請求や信用の失墜等により、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 配当政策

当社グループは成長性を第一義と考えており、当面の間、成長資金を要すると考えられますので、内部留保の確保に努め、配当を行わない方針であります。今後、業績及び財務状態等を勘案しながら余剰資金が生まれたと判断される場合に、一定の利益を配当することを検討いたしますが、現時点において配当実施の可能性及びその実施時期等については未定であります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

なお、2022年12月27日に行われた株式会社メディアルトの株式取得による企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当連結会計年度に確定したため、前連結会計年度との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

財政状態及び経営成績の状況

当社グループを取り巻く医療・ヘルスケア業界においては、高齢化社会の進行とともに医療の担い手不足や地域偏在、診療科偏在が課題に挙げられてきました。日本の医療費は40兆円を超え2040年度には約66兆円を見込み、医療費の削減、医師の自己犠牲的な長時間労働により支えられている危機的な状況の改善など、持続可能な医療サービスを実現するための対策が求められてきました。2020年より2年以上にわたり席卷した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2023年5月8日以降、5類へ移行しましたが、この感染拡大を契機として救急医療をはじめとした地域医療課題が顕在化しました。

このような状況の中、当社は、コロナ禍においては行政機関からの要請によるワクチン接種会場の運営や、自宅療養者支援、ワクチン接種後の健康状況調査など、様々な医療体制構築の一助となるべく情勢の変化にあわせた対応を進めてまいりました。5類変更とともに、行政機関の対策や体制に変更が生じ、新型コロナウイルス感染症関連業務が終了または縮小し、今後もその傾向にあります。

一方で、地域医療課題の解決に向けて、自治体と連携し、医療従事者確保など医療体制構築の取り組みを進めており、10月に和歌山県と医師確保と医療DX実現に向けた連携協定を締結しました。また、2021年度より参画している三重広域連携モデルにおける医療MaaSをはじめとした医療DX実証実験は3期目に入り、「美村」ブランドと連携し医療アクセスの困難な地域においても安心して医療が受けられる地域づくりに寄与しております。今後、このような新型コロナウイルス感染症関連以外の自治体の業務を受託件数増加に向けて取り組んでまいります。

オンライン診療・健康相談においては、医療・ヘルスケアへの関心が高まる中、資本業務提携先と共に、従業員の健康状態分析から治療まで一気通貫の健康経営支援サービスを6月にリリースし、当社は産業医の募集・配置および「Door.」によるオンライン診療・健康相談の環境整備を担っております。また、12月には子育て経験のある小児科専門医に受診・相談できる医療サービス「オンラインこども診療」をリリースし、医療機関が開いていない夜間帯の医療サポートにより救急医療の軽減にも寄与しております。

こうした多くの要望や時流にあわせ医療プラットフォームを拡大していくことにより、非常勤医師求人紹介サービスの紹介実績が累計200万件突破し、さらなる拡大に向けて取り組んでおります。12月には、2024年2月20日を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社日本メディカルキャリアから簡易吸収分割により医療従事者の常勤紹介事業を承継することを決議しました。これにより、当社の強みである医療人材プラットフォームを活用し、常勤、非常勤ともに医療人材紹介の拡大を進めてまいります。加えて0次予防をコンセプトとした外部EAPサービスも拡大し、医療現場における医療人材の職場定着も推進し、医療人材不足課題の解決に真摯に向き合っております。

このほか、7月に関連会社としたメドリング株式会社は、東南アジア圏の医療DXサービスを展開し、ベトナムに続きインドネシア及びカンボジアでもサービスの提供を開始しました。同社とともに、日本で培った医療人材マッチングや医療DXなどのノウハウを応用し、東南アジア圏の医療向上を目指します。

当社グループは、これまで作り上げてきた医療人材プラットフォームおよび医療DXプラットフォームサービスを最大限に活用し医療現場の一助となれるよう引き続き尽力してまいります。

以上の結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

当連結会計年度末における資産合計につきましては、6,471,962千円となり、前連結会計年度末に対して1,687,061千円減少しました。

当連結会計年度末における負債合計につきましては、1,756,897千円となり、前連結会計年度末に対して1,917,343千円減少しました。

当連結会計年度末における資本合計につきましては、4,715,064千円となり、前連結会計年度末に対して230,282千円増加しました。

b. 経営成績

当連結会計年度の売上収益は5,407,087千円（前年同期比38.1%減）、営業利益は834,469千円（同72.0%減）、税引前当期利益は858,036千円（同70.8%減）、親会社の所有者に帰属する当期利益は517,145千円（同76.1%減）となりました。また、売上収益の内訳は、医療人材サービス（医師、その他の医療従事者）3,159,968千円（同21.2%減）、その他2,247,119千円（同52.5%減）であります。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ1,106,385千円減少し、3,783,478千円となりました。

当連結会計年度中における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の営業活動の結果使用した資金は193,584千円（前年同期は4,511,679千円の獲得）となりました。これは、営業債権及びその他の債権が985,327千円減少、税引前当期利益858,036千円を計上しましたが、営業債務及びその他の債務が378,964千円減少、法人所得税費用の支払額が1,087,573千円あったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の投資活動の結果使用した資金は243,608千円（前年同期比43.5%減）となりました。これは、主にその他の金融資産売却による収入109,057千円を計上しましたが、子会社及び関連会社取得による支出186,698千円、「MRTWORK」及び医療従事者のライフサポート業務に関連するソフトウェアの開発等に係る無形資産の取得による支出75,310千円があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の財務活動の結果使用した資金は669,192千円（前年同期比228.1%増）となりました。これは、主に金融機関からの長期借入金返済による支出156,072千円、利益剰余金を原資とした配当金の支払額164,847千円及び自己株式の取得による支出168,704千円があったことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

当社グループは、医療情報プラットフォームの提供事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

a．生産実績

当社グループは、製品の生産を行っていないため、記載すべき事項はありません。

b．受注実績

当社グループは、受注生産を行っていないため、記載すべき事項はありません。

c．販売実績

当連結会計年度における販売実績を売上収益区分別に示すと、次のとおりであります。

売上区分別の名称	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)
医療人材サービス	3,159,968	21.2
その他のサービス	2,247,119	52.5
合計	5,407,087	38.1

(注) 1．主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
東京都	2,420,359	27.7	620,021	11.5
医療法人社団Vantage Clinic	1,679,300	19.2	-	-

2．当連結会計年度における医療法人社団Vantage Clinicへの販売実績は、総販売実績に対する割合が10%未満のため、記載を省略しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 当社グループの当連結会計年度末における財政状態及び経営成績の状況は、次のとおりであります。

(資産)

当連結会計年度末における資産合計につきましては、6,471,962千円となり、前連結会計年度末に対して1,687,061千円減少しました。これは、主に営業債権及びその他の債権の回収により969,569千円減少、法人所得税費用の支払等により現金及び現金同等物が1,106,385千円減少、繰延税金資産が187,265千円減少、医療従事者常勤紹介事業の組織再編に伴うのれんの再評価の実施によりのれんが95,610千円減少したことによります。

(負債)

当連結会計年度末における負債合計につきましては、1,756,897千円となり、前連結会計年度末に対して1,917,343千円減少しました。これは、主に未払法人所得税が561,797千円減少、消費税等の支払等によりその他の流動負債が692,210千円減少及び新型コロナウイルス感染症関連業務の終了又は縮小したことで営業債務及びその他の債務が409,507千円減少したことによります。

(純資産)

当連結会計年度末における資本合計につきましては、4,715,064千円となり、前連結会計年度末に対して230,282千円増加しました。これは、主に自己株式の取得により168,368千円減少しましたが、特別配当167,217千円を実施したものの利益剰余金が261,146千円増加したことによります。

b. 当社グループの当連結会計年度における経営成績の状況は、次のとおりであります。

(売上収益)

当連結会計年度における売上収益は、新型コロナウイルスワクチン関連以外の既存サービスの売上収益は伸長しましたが、新型コロナウイルスワクチンに関連する大規模接種に係る医療従事者紹介や自宅療養者向けフォローアップセンターなどの運営受託した業務が終了又は縮小したため売上収益が減少しました。

この結果、当連結会計年度における売上収益は、医療人材サービス（医師、その他の医療従事者）3,159,968千円（前年同期比21.2%減）、その他2,247,119千円（同52.5%減）の5,407,087千円となりました。

(売上原価、売上総利益)

当連結会計年度における売上原価は、自宅療養者向けフォローアップセンター及び新規感染者向け陽性者登録センターの運営に係る費用が減少したことにより、売上原価率が前連結会計年度に比して0.7ポイント減少し、35.3%となりました。

この結果、当連結会計年度における売上総利益は、3,499,221千円（同37.5%減）となりました。

(販売費及び一般管理費、その他の収益、その他の費用、営業利益)

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は、新型コロナウイルスワクチン接種に係る医療従事者紹介の売上収益の大幅な増加による業績賞与等人件費が増加しましたが、人件費の対売上収益比率は前連結会計年度に比して4.6ポイント増加し19.7%となりました。

この結果、当連結会計年度における営業利益は、834,469千円（同72.0%減）となりました。

(金融収益、金融費用、税引前当期利益)

当連結会計年度において、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の公正価値の増加等40,484千円を金融収益、社債及び借入金等に係る利息等7,223千円を金融費用として計上しました。

この結果、当連結会計年度における税引前当期利益は、858,036千円（同70.8%減）となりました。

(親会社の所有者に帰属する当期利益)

当連結会計年度における親会社の所有者に帰属する当期利益は、実際負担税率37.2%の法人所得税費用319,349千円を計上した結果、517,145千円（同76.1%減）となりました。

c. 当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因については、次のとおりであります。

当社グループの事業に関連する医療・ヘルスケア市場においては、医局人事統制力の緩和、恒常的な医師不足等といった状況が発生しており、医療分野の人材流動化の傾向が強まっております。このような環境下で、「1 経営方針 経営環境及び対処すべき課題等 2. 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題」に記載のとおり、医療人材プラットフォームとしての会員数増加、医療従事者及び医療機関に対する知名度の向上が当社の経営成績に重要な影響を与える要因と考えております。そのため、当社グループは、常勤および非常勤の紹介事業に係る経営資源が分散されるといった課題解決に向け株式会社日本メディカルキャリア（2018年3月連結子会社化）の常勤紹介事業を当社が承継し、非常勤から常勤まで包括的な紹介ができる体制を構築し、常勤紹介サービスの周知および販促活動を拡大するとともに、営業組織体制も強化し、より良いサービス提供ができるよう努めてまいります。

また、当社グループは、当社グループが有する医療人材プラットフォームを活用し、医療従事者の地域偏在、診療科偏在といった自治体の抱える地域医療課題解決を目指しております。さらに、医療DXプラットフォームとの連携により医療過疎地の医療アクセスの向上にも寄与するものと考えております。現在こうした当社グループの取り組みや実績について取りまとめ、自治体に対し認知度の向上および継続的な啓蒙活動に努めております。

d. 経営方針・経営戦略、経営上の目標達成状況を判断するための客観的な指標等については、次のとおりであります。

当社グループは、「1 経営方針 経営環境及び対処すべき課題等 3. 経営上の目標達成状況を判断するための客観的な指標等」に記載のとおり、売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益の対前年度比としております。

	第22期 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	第23期 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	第24期 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	第25期 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上収益(千円)	2,562,419	4,469,202	8,738,193	5,407,087
対前期増減率(%)	-	74.4	95.5	38.1
営業利益(千円)	264,363	1,267,171	2,977,464	834,469
対前期増減率(%)	-	379.3	135.0	72.0
親会社の所有者に帰属 する当期利益(千円)	131,810	774,492	2,159,994	517,145
対前期増減率(%)	-	487.6	178.9	76.1

当社グループは、新型コロナウイルス感染症関連業務が終了または縮小によりその他売上収益が対前期比52.5%減少し、当連結会計年度における売上収益は5,407,087千円となりました。一方、受託業務の減少に伴い運営に係る人件費及び外注費等の売上原価が減少した結果、売上総利益の対売上収益比率が0.7ポイント上昇しましたが、販売費及び一般管理費の対前期比96.6%になったことにより営業利益の対売上収益比率は18.6ポイント減少となりました。また、のれんの減損処理等により法人所得税の実際負担税率が11.5ポイント上昇したことも相まって、親会社の所有者に帰属する当期利益の対前期比は、23.9%となりました。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの当連結会計年度末におけるキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、次のとおりであります。

当社グループは、事業規模の拡大及び新規事業の育成を通じた収益基盤の多様化を通じて持続可能な長期的な成長を実現し、企業価値の最大化を目指しております。この企業価値の最大化を目指すために、親会社所有者帰属持分比率を資本管理において用いる指標としております。

当社グループの資金需要は、医療機関に対して一時的な資金の立替等を行う経営支援サービスに係る資金、人件費及び販売促進費等の営業費用の他、非常勤医師紹介及びDoor.に係るシステム構築並びにM & Aとなります。必要な資金は、自己資本及び借入金のバランスを考慮して調達する方針であります。なお、運転資金等の流動性が必要な資金につきましては、取引金融機関から証書貸付による資金調達以外に、取引金融機関との当座貸越枠の設定を行い、弾力的な資金調達ができるようにしております。

前連結会計年度及び当連結会計年度における親会社所有者帰属持分比率は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
親会社の所有者に帰属する持分(千円)	4,391,413	4,577,617
負債及び資本合計(千円)	8,159,023	6,471,962
親会社所有者帰属持分比率(%)	53.82	70.73

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、IFRSに基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、経営者により、一定の会計基準の範囲内で見積りが行われている部分があり、資産・負債や収益・費用の数値に反映されています。これらの見積りについては、継続して評価し、必要に応じて見直しを行っていますが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果は、これらと異なることがあります。この連結財務諸表の作成にあたる重要性がある会計方針につきましては、「第5 経理の状況」に記載しております。

5 【経営上の重要な契約等】

株式譲渡契約

当社は、2023年9月26日開催の取締役会において、Medikiki.com株式会社の普通株式の80.8%を取得し、連結子会社化することを決議し、2023年10月1日に株式譲渡契約を締結しました。詳細は、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 連結財務諸表注記 6. 企業結合」に記載のとおりであります。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度中における当社グループの設備投資の総額は53,456千円であります。その主なものは、当社グループの共有プラットフォーム及びオンラインでの健康医療相談に係るアプリケーション開発に伴う、ソフトウェアの取得であります。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。
なお、IFRSに基づく帳簿価額にて記載しております。

(1) 提出会社

当社における主要な設備は、以下のとおりであります。

2023年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	ソフト ウェア (千円)	使用権 資産 (千円)	合計 (千円)	
本社 (東京都渋谷区)	医療情報プラット フォームの提供	業務設備	4,005	23,314	51,821	37,154	116,295	102 (41)
道玄坂オフィス (東京都渋谷区)	医療情報プラット フォームの提供	業務設備	1,236	4,064	70,651	28,592	104,544	18 (4)
その他	医療情報プラット フォームの提供	業務設備	933	2,685	-	89,093	92,712	55 (8)

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
2. 従業員数の()は、臨時雇用者数を外書しております。

(2) 国内子会社

2023年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備 の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				工具、器具 及び備品 (千円)	ソフト ウェア (千円)	使用権 資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
株式会社 医師のとも	本社 (東京都渋谷区)	医療情報プラット フォームの提供	業務設備	4,755	6,609	2,247	0	13,612	39 (1)
株式会社 日本メディカル キャリア	本社 (東京都渋谷区) その他3支社	医療情報プラット フォームの提供	業務設備	2,739	30,360	1,706	1,587	36,393	48 (-)
株式会社 メディアルト	本社 (東京都中央区)	医療情報プラット フォームの提供	業務設備	6,949	-	3,962	114	11,026	8 (-)
Medikiki i.com株式 会社	本社 (東京都渋谷区)	医療情報プラット フォームの提供	業務設備	0	14,711	-	2,114	16,826	4 (-)

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
2. 提出会社と兼務している従業員数は含まれておりません。
3. 従業員数の()は、臨時雇用者数を外書しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,240,000
計	14,240,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年3月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,715,800	5,715,800	東京証券取引所 (グロース市場)	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は100株であり ます。
計	5,715,800	5,715,800	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2024年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

決議年月日	2014年8月19日
付与対象者の区分及び人数(名)	使用人 49
新株予約権の数(個)	2,100
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 4,200 (注)6
新株予約権の行使時の払込金額(円)	400(注)6
新株予約権の行使期間	自 2016年8月20日 至 2024年8月19日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 400 (注)6 資本組入額 200 (注)6
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5

当事業年度の末日(2023年12月31日)における内容を記載しております。提出日の前月末現在(2024年2月29日)において、記載すべき内容が当事業年度の末日における内容から変更がないため、提出日の前月末現在に係る記載を省略しております。

- (注)1. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整し、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2. 新株予約権発行日以降に、当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価格を調整し、1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行による増加株式数}}$$

上記算式において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社が保有する自己株式を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行」を「自己株式の処分」、「1株当たり払込金額」を「1株当たり処分金額」と読み替えるものとする。

3. 新株予約権の行使の条件は次のとおりであります。
- (1) 新株予約権は、発行時に割当てを受けた新株予約権者にてこれを行使することを要する。
 - (2) 新株予約権者は、新株予約権行使時において当社の取締役、従業員及び外部協力者の地位にあることを要する。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。
 - (3) 新株予約権者は、権利行使期間のいずれの年においても、本新株予約権行使にかかる行使価額の年間(1月1日から12月31日まで)の合計額(又は行使時において租税特別措置法に定める他の特定新株予約権を権利行使している場合は当該権利行使価額の合計額を含む)が1,200万円(又は行使時において租税特別措置法の適用を受けることができる権利行使価額の年間の合計額)を超過することになる本新株予約権の行使をすることができない。
 - (4) 各新株予約権1個当たりの一部行使はできないこととする。
 - (5) 新株予約権者が死亡した場合は、その相続人は新株予約権を行使することができないものとする。
 - (6) 新株予約権者は、新株予約権の譲渡及び質入、担保権の設定等の処分を行うことができないものとする。
 - (7) 当社普通株式がいずれかの証券取引所に上場されていることを要する。
 - (8) 新株予約権者が、新株予約権の権利行使をする時は、権利行使価額が契約締結時の時価以上でなければ行使することができない。

- (9) 新株予約権者は、新株予約権を行使する場合には、当社指定の方法により、当社の指定する証券会社に新株予約権者名義の管理口座を開設し、株券の保管を委託するものとする。
- (10) その他の条件については、当社と新株予約権者との間で締結した「新株予約権割当契約書」で定めるところによる。
4. 新株予約権の取得事由及び条件は次のとおりであります。
- 次に定める場合には、取締役会の決議により別途定められる日に新株予約権を無償で取得することができる。
- (1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約承認の議案若しくは新設分割計画承認の議案又は当社が完全子会社となる株式交換契約承認の議案もしくは株式移転計画承認の議案が株主総会で承認された場合
- (2) 新株予約権を行使することができる期間を経過したとき
- (3) 新株予約権者が新株予約権の行使条件に該当しなくなったとき
5. 当社は、当社株主総会及び取締役会決議において定めるところに従い、当社を消滅会社とする合併、当社を分割会社とする吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転を行う場合において、それぞれ合併契約等の規定に従い、本新株予約権の新株予約権者に対して、それぞれ合併後存続する株式会社等の新株予約権を交付することができるものとする。
6. 2016年3月10日開催の取締役会決議により、2016年4月1日付をもって1株を2株に分割したことに伴い、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高(千円)
2018年4月10日～ 2019年3月11日 (注)	419,600	5,672,600	4,067	430,532	4,067	390,532
2019年4月10日～ 2019年12月10日 (注)	21,400	5,694,000	1,142	431,675	1,142	391,675
2020年1月10日～ 2020年11月10日 (注)	400	5,694,400	80	431,755	80	391,755
2021年1月10日～ 2021年12月15日 (注)	20,400	5,714,800	320	432,075	320	392,075
2022年9月12日 (注)	200	5,715,000	40	432,115	40	392,115
2023年6月12日～ 2023年11月10日 (注)	800	5,715,800	160	432,275	160	392,275

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【所有者別状況】

2023年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満 株式の状 況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	2	22	19	19	12	3,690	3,764	-
所有株式数 (単元)	-	399	3,361	13,007	1,187	31	39,078	57,063	9,500
所有株式数の割 合(%)	-	0.7	5.9	22.8	2.0	0.1	68.5	100.0	-

(注) 自己株式271,070株は、「個人その他」に2,710単元、「単元未満株式の状況」に70株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2023年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
株式会社富田医療研究所	東京都渋谷区恵比寿西一丁目18番3号	1,200,000	22.04
富田 兵衛	東京都渋谷区	905,000	16.62
富田 留美	東京都渋谷区	450,000	8.26
馬場 稔正	東京都練馬区	255,100	4.69
小川 智也	東京都目黒区	140,000	2.57
楽天証券株式会社	東京都港区南青山二丁目6番21号	124,800	2.29
栗原 真由美	東京都品川区	114,900	2.11
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	94,216	1.73
株式会社CBホールディングス	東京都港区浜松町1丁目18番16号	49,000	0.90
森 泰孝	神奈川県川崎市中原区	44,000	0.81
計	-	3,377,016	62.02

(注) 1. 当社は、自己株式を271,070株保有しておりますが、上記の表からは除外しております。

2. 持株比率は自己株式を控除して算出しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 271,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,435,300	54,353	-
単元未満株式	普通株式 9,500	-	-
発行済株式総数	5,715,800	-	-
総株主の議決権	-	54,353	-

【自己株式等】

2023年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
MRT株式会社	東京都渋谷区神南一丁目18番2号	271,000	-	271,000	4.74
計	-	271,000	-	271,000	4.74

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2023年3月14日)での決議状況 (取得期間2023年3月15日~2023年4月26日)	130,000	170,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	130,000	168,368,100
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	1,631,900
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	1.0
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	1.0

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	271,070	-	271,070	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式数には、2024年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、2024年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、内部留保の充実を図り、事業資金を確保して財務体質の一層の強化と将来の事業展開に備えるため、剰余金の配当を実施しておらず、また、当分の間実施しない方針であります。しかしながら、将来的には、経営成績及び財政状態を総合的に勘案した上で、内部留保の充実を図りながらも、適正な利益還元の実施を検討していく方針であります。

なお、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当ができる旨を定款に定めておりますが、剰余金の配当を行う場合には、期末配当の年1回を基本的な方針としております。

剰余金の配当の決定機関について、中間配当は取締役会であり、期末配当は株主総会であります。

内部留保についてはシステム開発等の資金に充当することとしております。

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は以下のとおりです。

当社グループは、「医療を想い、社会に貢献する。」を経営理念に掲げており、それを実現させるためにはコーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化が経営上重要であると考えております。

また、当社グループは、経営理念を実現するため、「医療に関わる全ての人のために」、「上品に」及び「合理的に」を行動指針と定めております。当社グループの役員及び従業員に対して、高い企業理念を持ち品位、合理的な行動により経営理念の実現とともに、コーポレート・ガバナンスの意識を高めております。

当社グループは公共性の高い事業を営むゆえ、より高い次元で自らを律するべきであるという考えにもとづき、コーポレート・ガバナンスの整備を進めております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

コーポレート・ガバナンスの体制は以下のとおりであります。

a. 取締役会

取締役会は、取締役7名（うち社外取締役3名）で構成され、取締役会規程にもとづき、毎月1回開催しており、会社の経営の重要な意思決定を行うとともに、取締役の職務執行を監督しております。

取締役会における議長は、小川智也（代表取締役社長）が務めております。なお、構成員につきましては「(2) 役員の状況 役員一覧」をご参照ください。

b. 経営会議

経営会議規程にもとづき、社長の最高諮問機関として当社の経営全般にわたる基本的事項等について協議検討するため、原則として毎月1回開催しております。小川智也（代表取締役社長）が議長を務め、会長、常勤取締役、常勤監査役、その他社長が必要と認められた者が参画しております。

c. 監査役会及び監査役

監査役会は常勤監査役1名、非常勤監査役2名（うち社外監査役3名）からなり、監査役会で決議された監査計画に基づき、監査を行っております。また、監査役は取締役会及び経営会議等の重要な会議へ出席するほか、取締役に業務の報告を求めるとともに、主要な各本部/各グループ/各室を往査のうえ業務及び財産等の状況の調査を行うことにより、取締役の職務執行を監査しております。さらに、経営企画室とは、常勤監査役が適時情報を共有し監査役会において内部監査の状況を共有しております。会計監査人とは定期的に情報を共有する場を持ち、各監査の状況を相互に共有して連携を図っております。

監査役会における議長は、加藤博彦（常勤監査役）が務めております。

なお、構成員につきましては「(2) 役員の状況 役員一覧」をご参照ください。

d. 内部監査

内部監査は、代表取締役直轄の経営企画室が実施しており、人員は経営企画室長を含む2名からなります。経営企画室は、年間内部監査計画に基づき、当社グループの各本部/各グループ/各室を往査の上、業務遂行状況等を監査しており、当該監査の結果については代表取締役社長に報告し、必要に応じて改善指示、フォローアップ監査を実施しております。監査役会には定期的に情報を共有しております。また、会計監査人とは定期的に情報を共有する場を持ち、各監査の状況を相互に共有して連携を図っております。なお、経営企画室に対する内部監査は自己監査を回避するため、経営企画室以外の部署が監査を担当しております。

当社グループは、創業以来、医療分野の人材ネットワーク、医療システムの提供という公共性の高い事業の中で迅速な経営判断を志向しており、これに加えて社外役員の招聘や内部監査部門の設置など有効に牽制機能が働く経営管理体制を構築、運用しております。

当事業年度において当社は取締役会を全15回開催しており、個々の取締役の出席状況については次のとおりであります。

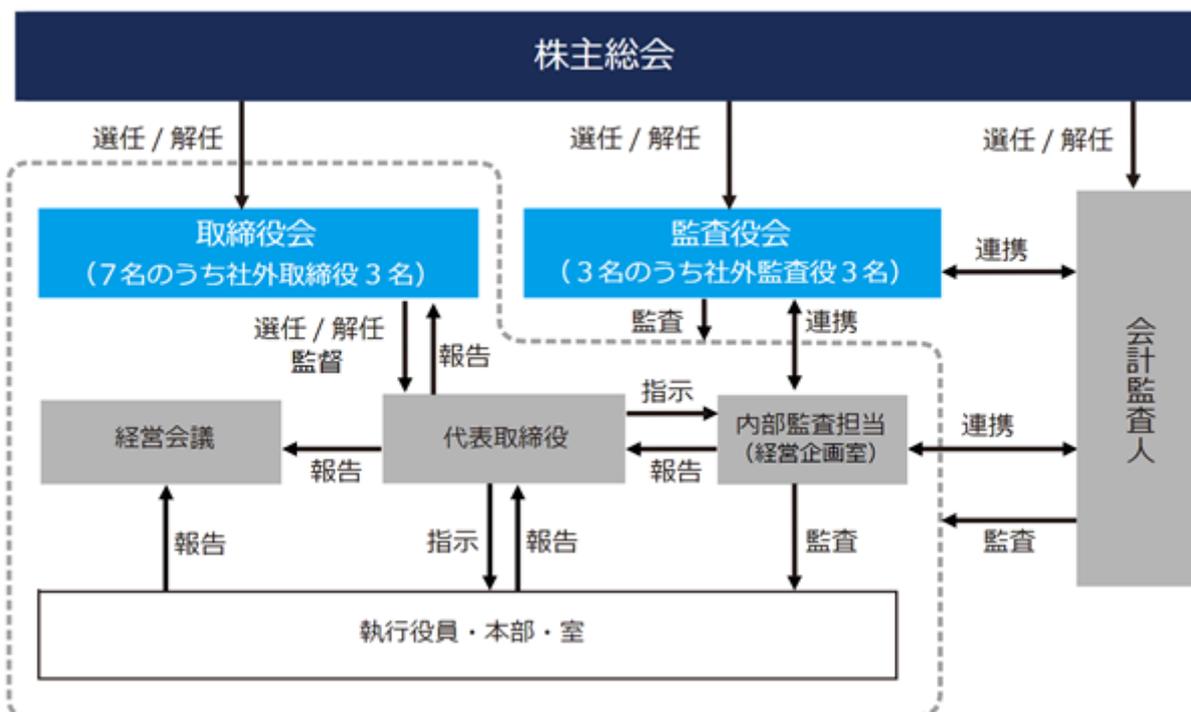
区分	氏名	取締役出席状況
取締役会長	富田 兵衛	全15回中15回
代表取締役社長	小川 智也	全15回中15回
取締役	西岡 哲也	全15回中15回
取締役	加藤 修孝	全10回中10回
社外取締役	加藤 浩晃	全15回中13回
社外取締役	雨宮 玲於奈	全15回中15回
社外取締役	パブロ セバスティアン オルテガ	全15回中15回

常勤社外監査役	加藤 博彦	全15回中15回
社外監査役	原口 昌之	全15回中15回
社外監査役	諫山 祐美	全15回中15回

(注)取締役加藤修孝氏は、就任した2023年3月28日開催の定時株主総会以降に開催された回数を記載しております。

取締役会における具体的な検討内容は、(1)法令及び定款に定められた事項、(2)予算及び経営計画に関する事項、(3)重要な組織及び人事に関する事項、(4)決算及び財務に関する事項、(5)その他経営に関する重要事項であります。

(コーポレート・ガバナンスの概念図)



企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制の基本方針についての概要は以下のとおりであります。

取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (a) 法令、定款及び社会規範の遵守を目的として「コンプライアンスマニュアル」を制定してコンプライアンスに係る教育及び啓蒙を行う。
- (b) 経営に係る重要事項の最終意思決定及び取締役の職務執行の監督は、「取締役会規程」に則り、毎月1回以上開催する取締役会において行う。
- (c) 監査役は、「監査役会規程」及び「監査役監査基準」に則り、取締役の職務執行を監査し、取締役と定期的に情報及び意見交換を行う。
- (d) 内部監査室は、使用人の職務の執行が法令及び定款等に適合しているかにつき、社内各部門の事業活動の監査を行い、改善すべき事項を明らかにしたうえで、当該監査結果を代表取締役社長に報告し、適宜改善事項を指示し、その是正、改善を図る。

取締役の職務の執行に関する情報の保存及び管理に関する体制

- (a) 当社は、取締役の職務の執行に関する情報の保存及び管理を行うため、管理部門を管掌する取締役を担当役員とし、管理部門において保存及び管理を行う。
- (b) 文書の整理保存、管理の期間については、法令に定めるものの他、文書管理規程、個人情報保護規程等の社内規程に基づいて、定められた期間、保存することとし、取締役及び監査役の要請により、常に閲覧可能な状態を維持する。
- (c) 全般的な情報管理については、「情報セキュリティ基本方針」及びその実践のための「ISMSマニュアル」を定め、情報資産の適切な管理及び運用を行う。

損失の危険の管理に関する規程その他の体制

経営上のリスクの分析及び対策の検討については、取締役会が行い、各部署においては、リスク管理基本方針を策定し、各部署の長が運用・管理を行うことにより、リスク低減に努めるものとする。

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (a) 重要な経営課題について、取締役会で十分な検討を行い、迅速に経営上の意思決定を行うとともに、職務の執行状況について報告を行う。
- (b) 組織の構成と各組織の所掌業務を定める組織規程及び権限の分掌を定める職務分掌規程を定める。

当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (a) 子会社の業務及び取締役の職務の執行の状況を定期的に当社の取締役会に報告する。
- (b) 子会社に対して、当社に準じた損失の危険の管理に関する体制が整備されるよう指導する。
- (c) 子会社の経営の自主性を尊重するとともに、定期的開催される当社の経営会議等において、重要事項の事前協議を行うことにより、当社及び子会社の業務の整合性と子会社における業務の効率性を確保する。
- (d) 子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合するように当社の「コンプライアンスマニュアル」を子会社の取締役及び使用人にも適用し、コンプライアンスに係る教育及び啓蒙を行う。
- (e) 子会社に対して、当社経営企画室が実地監査を含めた内部監査を実施し、当社取締役会及び監査役会へ結果報告を行うとともに、必要に応じて、被監査部門に対して内部統制の改善の指導や実施の助言等を行う。

監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制、その使用人の取締役からの独立性及び指示の実効性の確保に関する事項

- (a) 当社は、監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合、必要に応じて人員を配置する。
- (b) 監査役より監査業務に必要な命令を受けた使用人は、監査役の指揮命令に基づき業務を行い、当該使用人の人事異動、人事評価等について、監査役会の意見を尊重し対応する。

当社及び子会社の取締役等及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制

- (a) 監査役は、取締役会の他、経営会議、その他の重要な会議に随時出席し、また、重要な決議書類及び関係資料を閲覧することができる。また、監査役は必要に応じていつでも当社及び子会社の取締役及び使用人に対し報告を求めることができる。
- (b) 当社及び子会社の取締役及び使用人は、重大な法令、定款違反、不正な行為等、当社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を知った時には、遅滞なく監査役に報告する。

監査役へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利益な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社は、監査役へ報告を行った当社及び子会社の取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社及び子会社の取締役及び使用人に周知徹底する。

監査役の職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役が、その職務の執行について必要な費用の前払い等の請求をした場合、当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた請求を除き、速やかに費用又は債務を処理する。

その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (a) 監査役は、経営企画室と緊密な連携を保ち、必要に応じて経営企画室に協力を求め、監査を行う。
- (b) 監査役は、会計監査人と定期的に会合を持ち、意見や情報の交換を行うとともに、必要に応じて会計監査人に報告する。

当連結会計年度における業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

「取締役会規程」に基づき、定時取締役会を月1回、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令又は定款に定められた事項及び経営に関する重要な事項を決定するとともに、取締役の職務執行の監督を行っております。

監査役は、当社取締役会及び重要な経営会議への出席、代表取締役社長、会計監査人及び内部監査を担当する経営企画室と定期的な情報交換等を行うことで、取締役の職務執行に関わる監査を行っております。定期的開催される経営会議で、子会社の経営成績及び財務状況を定例報告するとともに、子会社の取締役から経営に関する重要事項の報告を受け、協議を行っております。

「情報セキュリティ基本方針」など情報セキュリティ関連規程を整備するとともに、情報セキュリティ委員会を設置し、運用状況のモニタリングを行っております。

b. リスク管理体制の整備状況

当社グループが事業推進上で認識しているリスクは情報漏えい及びコンプライアンス違反であり、そのためのリスク管理及びコンプライアンス体制として、コーポレート本部を責任部署として、個人情報等の業務にかかわる重要情報の管理及び法令順守体制を整備しております。

c. ハラスメント発生防止体制の構築について

当社グループの従業員は、当社の経営資源の中で大きな部分を占めるものと認識しており、日々の勤怠管理の徹底はもとより、セクハラ防止規程の制定、内部通報制度の導入、ハラスメント研修の定期的開催などハラスメント発生防止体制の構築を行っております。

d. 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、社外取締役及び社外監査役と同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。その内容は、当社の社外取締役又は社外監査役がその任務を怠ったことにより当社に損害を与えた場合において、当該社外取締役又は当該社外監査役がその職務を行うにあたり善意でかつ重大な過失がないときは、金10万円又は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額を限度として会社に対し損害賠償責任を負うものとし、その損害賠償責任額を超える部分については、当社は当該社外取締役又は当該社外監査役を当然に免責するものとするというものであります。

e. 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、これにより、被保険者がその地位に基づいて行った行為に起因して損害賠償請求された場合の法律上の損害賠償金及び争訟費用等を当該保険契約によって填補することとしております。

役員等賠償責任保険契約の被保険者は、当社及び子会社におけるすべての取締役及び監査役であり、すべての被保険者に対し、その保険料を全額当社が負担しております。

f. 取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨を定款で定めております。

g. 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

h. 中間配当の決定機関

当社は、機動的な利益還元を可能にするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

i. 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

j. 取締役及び監査役の責任免除の決定機関

当社は、取締役及び監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

k. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行う旨を定款に定めております。

l. 会社と取締役との間で利益相反のおそれがある取引を行う場合の措置

当社グループは、取締役との間で利益相反のおそれがある取引については、原則として行わない方針であります。なお、取締役と取引を行う場合には、利益相反等の行為が発生しないように会社法第356条及び同法第365条に基づき、取引条件の合理性等を慎重に検討し、取締役会で決議を行うこととしております。

当社グループにおいて、当社の取締役会長である富田兵衛氏が理事長を務める医療法人社団優賢会に対して、医師等の紹介に関わる取引がありますが、当該取引条件は、他の顧客と同一の料金体系を適用しております。また、当社の代表取締役社長である小川智也氏が理事を務める医療法人社団Vantage Clinicに対して、医師等の紹介に関わる取引がありますが、当該取引条件は、他の顧客と同一の料金体系を適用しております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性8名 女性2名 (役員のうち女性の比率20.0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長	富田 兵衛	1967年1月24日生	1993年4月 第87回医師国家試験合格 1993年4月 虎ノ門病院入職 1997年7月 文部教官 東京大学助手 医学系大学院 2000年1月 有限会社メディカルリサーチアンドテクノロジー(現当社)設立代表取締役 2000年10月 データサイエンス株式会社取締役 2003年3月 医療法人社団優人会 理事長 2006年10月 当社代表取締役会長 2011年6月 データサイエンス株式会社代表取締役社長 2012年4月 当社取締役会長(現任) 2014年6月 データサイエンス株式会社代表取締役会長(現任) 2017年4月 医療法人社団優賢会 理事長(現任)	(注)1	905,000
代表取締役社長	小川 智也	1973年6月19日生	2002年4月 第96回医師国家試験合格 2004年6月 大阪府立千里救命救急センター入職 2005年6月 国立病院機構大阪医療センター救命救急センター入職 2011年9月 当社取締役事業本部長 2013年9月 当社取締役執行役員経営戦略室長 2014年5月 当社取締役執行役員事業本部長 2015年6月 当社取締役副社長メディカル・ヘルスケア本部長 2018年3月 株式会社CBキャリア(現株式会社日本メディカルキャリア)取締役 2019年4月 当社代表取締役社長メディカル・ヘルスケア本部長 2020年1月 Vantage株式会社代表取締役社長(現任) 2020年10月 医療法人社団Vantage Clinic 理事(現任) 2021年3月 当社代表取締役社長(現任) 2022年12月 株式会社メディアルト取締役(現任)	(注)1	140,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 コーポレート本部長 兼 事業推進室長	西岡 哲也	1973年6月3日生	2000年3月 朝日監査法人(現 有限責任あずさ監査法人)入所 2003年10月 鳥飼総合法律事務所入所 2006年6月 株式会社マスターピース(現マスターピース・グループ株式会社)入社 2013年5月 当社入社 2015年6月 当社取締役コーポレート本部長 兼 事業推進室長(現任) 2017年12月 株式会社医師のとも取締役(現任) 2019年8月 株式会社 anew代表取締役社長(現任) 2020年4月 株式会社バリューメディカル取締役(現任) 2023年3月 株式会社NOSWEAT代表取締役(現任) 2023年10月 Medikiki.com株式会社取締役(現任)	(注)1	20,200
取締役 メディカル・ヘルスケア本部長	加藤 修孝	1985年7月8日生	2009年7月 株式会社ワールドストアパートナーズ入社 2010年12月 グループン・ジャパン株式会社入社 2016年4月 akippa株式会社入社 2017年4月 当社入社 2018年10月 当社執行役員メディカル・ヘルスケア本部 2021年4月 当社執行役員メディカル・ヘルスケア本部長 2023年3月 当社取締役メディカル・ヘルスケア本部長(現任) 株式会社日本メディカルキャリア取締役(現任)	(注)1	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	雨宮 玲於奈	1975年4月3日生	1998年4月 株式会社光通信入社 2003年6月 株式会社リクルートエイブリック(現株式会社リクルート)入社 2005年12月 株式会社日本医療情報センター(現株式会社リクルートメディカルキャリア)代表取締役 2012年4月 株式会社リクルートエージェント(現株式会社リクルート)中途事業本部領域企画統括部執行役員 2013年4月 株式会社リクルートホールディングス国内事業統括室カンパニーパートナー 株式会社スタッフサービス・ホールディングス取締役 株式会社リクルートスタッフィング取締役 2014年4月 株式会社インターワークス代表取締役社長 2017年6月 株式会社スマートエージェンシー代表取締役社長(現任) 2018年6月 当社非常勤取締役(現任) 株式会社コンフィデンス(現コンフィデンス・インターワークス)取締役(現任) 2019年5月 株式会社Grooves取締役(現任) 2020年7月 株式会社ナシエルホールディングス監査役(現任) 2020年10月 株式会社あしたのチーム取締役(現任) 2021年1月 株式会社エフ・コード取締役(現任) 2023年2月 株式会社アカリク非常勤監査役(現任)	(注)1	-
取締役	別府 綾子 (旧姓:青山綾子)	1979年1月12日生	2004年6月 株式会社日神グループホールディングス入社 2009年1月 アナザーレーン株式会社入社 2012年6月 SBI FinTechSolutions株式会社入社 2015年6月 株式会社AXES Payment代表取締役 株式会社ゼウス営業統括本部長 2019年11月 ARIA株式会社代表取締役就任(現任) 2024年3月 当社非常勤取締役(現任)	(注)1	-
取締役	富樫 泰良	1996年10月3日生	2017年11月 一般社団法人オール・ニッポン・レノベーション代表理事(現任) 2019年6月 一般財団法人五倫文庫理事(現任) 2022年2月 一般社団法人デジタル田園都市国家高速応援団理事(現任) 2024年3月 当社非常勤取締役(現任)	(注)1	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	加藤 博彦	1953年12月4日生	1978年4月 富士写真フイルム株式会社入社 1989年1月 株式会社ゴトー入社 1998年7月 株式会社メディアクリエイト取締役 2000年3月 同代表取締役 2014年1月 当社常勤監査役(現任) 2015年12月 MRT NEO株式会社(現株式会社 医科歯科ドット・コム) 監査役	(注)2	300
監査役	原口 昌之	1961年5月9日生	1996年4月 公認会計士登録 2000年4月 弁護士登録 2004年1月 原口総合法律事務所所長(現 英和法律事務所)(現任) 2008年6月 株式会社早稲田アカデミー監 査役 2011年10月 当社非常勤監査役(現任) 2016年2月 株式会社トランザス(現株式 会社トラス・オン・プロダ クト)取締役(監査等委員) (現任) 2017年6月 株式会社早稲田アカデミー取 締役(監査等委員)(現任)	(注)2	2,000
監査役	諫山 祐美	1979年7月28日生	2005年12月 新日本監査法人(現EY新日本 有限責任監査法人)入所 2009年3月 公認会計士登録 2010年11月 諫山公認会計士事務所所長 (現任) 2011年10月 当社常勤監査役 2014年1月 当社非常勤監査役(現任) 2021年6月 株式会社ランディックス常勤 監査役(現任)	(注)2	500
計					1,068,000

- (注) 1. 任期は、2024年3月26日開催の定時株主総会の時から、2025年12月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
2. 任期は、2022年3月28日開催の定時株主総会の時から、2025年12月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
3. 取締役雨宮玲於奈、取締役別府綾子、取締役富樫泰良は社外取締役であります。
4. 常勤監査役加藤博彦、監査役原口昌之、監査役諫山祐美は、社外監査役であります。

社外役員の状況

当社においては、社外役員として3名の社外取締役と3名の社外監査役を選任しております。

社外取締役の雨宮玲於奈氏は、上場企業の経営者として企業経営実務の豊富な経験と知識を有しております。また、当社との関係については、特別な利害関係はありません。

社外取締役の別府綾子氏は、企業の経営者として企業経営実務の豊富な経験と知識を有しております。また、当社との関係については、特別な利害関係はありません。

社外取締役の富樫泰良氏は、企業の経営者として企業経営実務の豊富な経験と知識を有しております。また、当社との関係については、特別な利害関係はありません。

社外監査役の加藤博彦氏は、元上場企業の経営者として企業経営実務の知識と経験を有しております。また、当社との関係については、同氏が当社普通株式300株を所有しております。

社外監査役の原口昌之氏は、公認会計士と弁護士の資格を有するとともに上場会社の監査役としての経験を有しております。また、当社との関係については、同氏が当社普通株式2,000株を所有しております。

社外監査役の諫山祐美氏は、公認会計士として企業会計実務の知識を有しております。また、当社との関係については、同氏が当社普通株式500株を所有しております。

当社と社外取締役及び社外監査役との間において、上記以外の人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役及び社外監査役は、業務執行の妥当性及び適法性を客観的に評価するとともに、必要に応じて各役員の豊富な経験・幅広い識見等に基づき、独立した立場から助言・提言を行うことで企業経営の健全性・透

明性を高めるために重要な役割を担っております。社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針はありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社からの独立した立場の社外役員として職務を遂行できることを確認しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査については、取締役会その他重要会議や必要に応じて開催されるミーティングを通じて、内部監査、監査役監査及び会計監査と適時情報交換を行っております。

社外取締役については、取締役会の会議体への出席以外に、医療に対する専門家、経営者の視点で、助言・提言を適宜行っております。

社外監査役については、監査役会で各監査役の監査結果についての報告を受け、取締役会及び経営会議に出席して意見を述べております。

内部監査、監査役監査及び会計監査は密接に関係するという視点のもとに経営企画室、監査役及び監査法人は定期的に情報共有、意見交換を行っております。

(3) 【監査の状況】

監査役会の状況

監査役会は常勤監査役1名、非常勤監査役2名からなり、監査役会で決議された監査計画に基づき、監査を行っております。また、監査役は取締役会及び経営会議等の重要な会議へ出席するほか、取締役に業務の報告を求めるとともに、主要な各本部/各グループ/各室を往査のうえ業務及び財産等の状況の調査を行うことにより、取締役の職務執行を監査しております。さらに、経営企画室とは、常勤監査役が適時情報を共有し監査役会において内部監査の状況を共有しております。会計監査人とは定期的に情報を共有する場を持ち、各監査の状況を相互に共有して連携を図っております。監査役原口昌之氏及び監査役諫山祐美氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

当事業年度において当社は監査役会を月1回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりです。

氏名	開催回数	出席回数
加藤博彦	13回	13回
原口昌之	13回	12回
諫山祐美	13回	13回

監査役会における具体的な検討事項は、監査の方針・重点実施事項及び監査計画、取締役等の職務執行の妥当性、内部統制システムの整備の状況及び運用状況、会計監査人の監査の妥当性・報酬の適正性・評価と再任の適否、事業報告及び附属明細書の適法性、監査報告等であります。

常勤監査役の活動として、取締役会及び経営会議等の重要な会議への出席、重要な決議書類及び関係資料等の閲覧、子会社の往査や職務執行部門への聴取等を通じて会社の状況を把握することで、経営の健全性を監査し、社外監査役への情報共有を定期的に行うことで監査機能の充実を図っております。経営企画室とは、適時情報を共有し監査役会において内部監査の状況を共有しております。また、会計監査人とは定期的に情報を共有する場を持ち、各監査の状況を相互に共有して連携を図っております。

内部監査の状況

内部監査は、代表取締役直轄の経営企画室が実施しており、人員は1名及び内部監査の長の求めに応じた配置した補助者からなります。経営企画室は、年間内部監査計画に基づき、当社グループの各本部/各グループ/各室を往査の上、業務遂行状況等を監査しており、当該監査の結果については代表取締役社長に報告し、必要に応じて改善指示、フォローアップ監査を実施し、代表取締役社長は取締役会に必要に応じて報告しております。監査役会には定期的に情報を共有しております。また、会計監査人とは定期的に情報を共有する場を持ち、各監査の状況を相互に共有して連携を図っております。なお、経営企画室に対する内部監査は自己監査を回避するため、経営企画室以外の部署が監査を担当しております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

b. 継続監査期間

12年

c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 吉田亮一

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 下田 磨

継続監査年数については、7年を超えないため、記載を省略しております。

d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 9名

その他 28名

e. 監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人として必要とされる専門性、独立性、品質管理体制を有していることやIFRSに基づく会計監査の対応等を総合的に勘案し、EY新日本有限責任監査法人を会計監査人として選定しております。

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役及び監査役会は、当該会計監査人との意見交換を通じて、専門性、独立性、品質管理体制について総合的に評価検証を行っております。監査計画から監査の手続きの内容について評価した結果、EY新日本有限責任監査法人を当社の会計監査人として再任することが適当であると判断しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	50,436	-	55,500	-
連結子会社	-	-	-	-
計	50,436	-	55,500	-

(注) 前連結会計年度の監査証明業務に基づく報酬は、前連結会計年度の有価証券報告書提出後に58,752千円に増額になっております。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク(アーンスト・アンド・ヤング)に対する報酬(a.を除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	-	-	-	-
連結子会社	-	-	-	-
計	-	-	-	-

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社グループの事業の成長に合わせて、報酬を増加させる方針であり、当社グループの規模、監査法人より提示された監査計画の監査日数、監査人数、監査内容等を勘案し、決定することとしております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役の報酬については、当社の経営成績及び財政状態、各取締役の職務執行状況等を総合的に勘案し、固定報酬（基本報酬）及び業績連動報酬等（賞与）を金銭報酬として支給しております。

) 固定報酬 各取締役の職務執行状況、各期の業績への貢献等を総合的に勘案し、原則毎年度見直しを行い、適正な水準にすることを基本方針としております。

) 業績連動報酬等 当社の持続的な成長を目指し、その重要な経営指標の一つである営業利益の対前年度比や各取締役のその貢献度を勘案して賞与を一定の時期に支給しております。

取締役に支給する固定報酬及び業績連動報酬等は、取締役会決議に基づき代表取締役社長にその具体的金額及び支給時期の決定を委任するものとし、代表取締役社長は、株主総会の決議及び本方針に従い、各取締役の個人別の固定報酬及び業績連動報酬等の内容を決定しております。これらの権限を委任した理由は、当社全体の業績等を勘案しつつ各取締役の担当業務について評価を行うには代表取締役社長が適していると判断したためであります。なお、取締役会は、代表取締役社長が各取締役のその貢献度、役位又は任期に基づき、独立社外役員の意見を十分に聴取し、助言を得ながら決定することで、各取締役の個人別の報酬等の決定過程の適正化を図っていることから、当社方針に沿うものと判断しております。

取締役の報酬額は、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で、当社の経営成績及び財政状態、各取締役の職務執行状況等を総合的に勘案し、取締役会の決議により決定しております。また、監査役の報酬額は、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で、常勤と非常勤の別、業務の分担等を勘案し、監査役会での協議により決定しております。

取締役の報酬限度額は、2009年5月30日開催の第10回定時株主総会において、年額100,000千円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）と決議いただいております。当該株主総会終結時点の取締役の員数は5名です。

監査役の報酬限度額は、2011年10月1日開催の臨時株主総会において、年額30,000千円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の監査役の員数は3名です。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の人数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	非金銭報酬等	
取締役 (社外取締役を除く)	64,211	64,211	-	-	-	4
監査役 (社外監査役を除く)	-	-	-	-	-	-
社外取締役	13,800	13,800	-	-	-	3
社外監査役	10,200	10,200	-	-	-	3

- (注) 1. 使用人兼務としての給与及び賞与の支給はありません。
2. 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等については、報酬等の総額が1億円以上である者が存在していないため、記載しておりません。
3. 上記のほか、非金銭報酬等としての新株予約権を付与しております。
4. 業績連動報酬等に関する事項
当社は、持続的な成長を目指し、その重要な経営指標の一つである営業利益の対前年度比や各取締役のその貢献度を勘案して賞与を一定の時期に支給しております。当該事業年度に係る職務執行の対価として、当該事業年度の営業利益の対前年度比や各取締役のその貢献度に応じて算出された額とし、報酬全体に占める割合を0%～50%の範囲内とし、役位又は任期が上がるほどその割合が大きくなるように算定しております。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社グループは、保有する株式等を投資対象の価値変動による利益及び配当を受けることを目的（純投資を目的）とする投資株式と業務提携先との連携をより強固なものとするために、政策目的で保有することを目的とする純投資目的以外の目的である投資株式とに区分しております。なお、現在、原則として、純投資を目的とする投資株式を保有する予定はありません。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

- a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

) 保有方針

当社グループは、純投資目的以外の目的である投資株式について、業務提携先との連携をより強固なものとするなど、当社グループの事業との関連性を総合的に検証し、シナジーが見込まれると判断した株式を保有します。また、当初想定していた効果が見込まれない株式については、処分の検討を行うこととしております。

) 保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証

当社グループは、取締役会において、事業提携等の取引内容を踏まえて、当該株式を保有する効果及びリスクを適宜検証しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	6	51,717
非上場株式以外の株式	-	-

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	1	32,000	資本業務提携
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」)第93条の規定により、国際会計基準(以下、「IFRS」)に準拠して作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2023年1月1日から2023年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組み及びIFRSに基づいて連結財務諸表等を適正に作成することができる体制の整備について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組み及びIFRSに基づいて連結財務諸表等を適正に作成することができる体制の整備を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、専門的な情報を有する団体等が主催する研修・セミナーに積極的に参加しております。

また、IFRSの適用については、国際会計基準審議会が公表するプレスリリースや基準書を随時入手し、最新の基準の把握を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結財政状態計算書】

(単位：千円)

	注記	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物	29	4,889,863	3,783,478
営業債権及びその他の債権	7,8,31	1,390,856	421,286
棚卸資産	9	4,611	21,159
その他の金融資産	7	7,720	26,418
未収法人所得税		18,905	369,511
その他の流動資産	10	116,770	297,399
流動資産合計		6,428,728	4,919,254
非流動資産			
有形固定資産	11	78,359	56,856
使用権資産	12	169,305	160,510
のれん	13	434,930	339,320
無形資産	13	391,591	367,016
持分法で会計処理されている投資	14	-	141,006
その他の金融資産	7	271,856	280,830
繰延税金資産	15	382,067	194,802
その他の非流動資産	10	2,183	12,364
非流動資産合計		1,730,294	1,552,707
資産合計		8,159,023	6,471,962

(単位：千円)

	注記	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務	7,16	770,630	361,123
社債及び借入金	7,17	516,072	395,623
リース負債	7,12	121,984	118,095
その他の金融負債	7	92,959	54,229
未払法人所得税		622,466	60,669
引当金	18	-	1,470
その他の流動負債	19,31	1,076,050	383,840
流動負債合計		<u>3,200,163</u>	<u>1,375,050</u>
非流動負債			
社債及び借入金	7,17	175,278	80,000
リース負債	7,12	62,528	48,068
その他の金融負債	7	40,233	40,765
退職給付に係る負債	20	92,436	119,460
引当金	18	37,130	36,772
繰延税金負債	15	66,469	56,780
非流動負債合計		<u>474,077</u>	<u>381,847</u>
負債合計		<u>3,674,241</u>	<u>1,756,897</u>
資本			
資本金	21	432,115	432,275
資本剰余金	21	344,569	344,570
利益剰余金	21	3,912,529	4,173,676
自己株式	21	121,119	289,487
その他の資本の構成要素	21	176,682	83,417
親会社の所有者に帰属する持分合計		<u>4,391,413</u>	<u>4,577,617</u>
非支配持分	32	93,368	137,447
資本合計		<u>4,484,781</u>	<u>4,715,064</u>
負債及び資本合計		<u>8,159,023</u>	<u>6,471,962</u>

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	注記	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上収益	24,31	8,738,193	5,407,087
売上原価		3,142,041	1,907,866
売上総利益		5,596,152	3,499,221
販売費及び一般管理費	13,25	2,620,454	2,532,432
その他の収益		3,037	16,837
その他の費用	11,12,13	1,271	149,157
営業利益		2,977,464	834,469
持分法による投資損益(は損失)	14	-	9,692
金融収益	26	1,268	40,484
金融費用	26	42,265	7,223
税引前当期利益		2,936,466	858,036
法人所得税費用	15	754,043	319,349
当期利益		2,182,423	538,687
当期利益の帰属：			
親会社の所有者		2,159,994	517,145
非支配持分		22,428	21,542
1株当たり当期利益			
基本的1株当たり当期利益(円)	27	387.53	94.43
希薄化後1株当たり当期利益(円)	27	387.21	94.37

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	注記	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
当期利益		2,182,423	538,687
その他の包括利益：			
純損益に振り替えられることのない項目：			
その他の包括利益を通じて測定する			
金融資産の公正価値の純変動	28	8,033	8,047
確定給付制度の再測定	28	1,013	4,083
純損益に振り替えられることのない項目 合計		9,047	3,964
純損益に振り替えられる可能性のある項目：			
持分法適用会社におけるその他の包括利益 に対する持分	28	-	697
純損益に振り替えられる可能性のある項目 合計		-	697
税引後その他の包括利益		9,047	4,661
当期包括利益		2,191,470	543,348
当期包括利益の帰属：			
親会社の所有者		2,169,041	521,806
非支配持分		22,428	21,542

【連結持分変動計算書】

(単位：千円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配 持分	資本 合計
		資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	その他の資本 の構成要素			
2022年1月1日残高		432,075	344,457	1,751,521	121,074	184,643	2,222,336	70,939	2,293,276
当期利益				2,159,994			2,159,994	22,428	2,182,423
その他の包括利益						9,047	9,047		9,047
当期包括利益合計		-	-	2,159,994	-	9,047	2,169,041	22,428	2,191,470
株式の発行	21	40	112			72	80		80
自己株式の取得					45		45		45
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	21			1,013		1,013	-		-
所有者との取引合計		40	112	1,013	45	1,086	34	-	34
2022年12月31日残高		432,115	344,569	3,912,529	121,119	176,682	4,391,413	93,368	4,484,781
当期利益				517,145			517,145	21,542	538,687
その他の包括利益						4,661	4,661		4,661
当期包括利益合計		-	-	517,145	-	4,661	521,806	21,542	543,348
株式の発行	21	160	337			177	320		320
自己株式の取得	21		336		168,368		168,704		168,704
剰余金の配当	21			167,217			167,217		167,217
企業結合による変動	6						-	22,536	22,536
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	21			88,780		88,780	-		-
所有者との取引合計		160	0	255,998	168,368	88,602	335,602	22,536	313,066
2023年12月31日残高		432,275	344,570	4,173,676	289,487	83,417	4,577,617	137,447	4,715,064

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	注記	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前当期利益		2,936,466	858,036
減価償却費及び償却費		184,878	228,353
減損損失		-	142,134
金融収益		1,268	40,484
金融費用		42,265	7,223
持分法による投資損益(は益)		-	9,692
営業債権及びその他の債権の増減額 (は増加)		1,276,896	985,327
棚卸資産の増減額(は増加)		2,417	16,547
営業債務及びその他の債務の増減額 (は減少)		429,432	378,964
その他		431,477	914,359
小計		5,297,730	880,413
利息及び配当金の受取額		1,268	1,446
利息の支払額		8,677	6,776
法人所得税の還付額		2,917	18,906
法人所得税の支払額		781,559	1,087,573
営業活動によるキャッシュ・フロー		4,511,679	193,584
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出		16,655	15,176
無形資産の取得による支出		63,853	75,310
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	6	350,515	36,697
関連会社の取得による支出		-	150,001
その他の金融資産の売却による収入		-	109,057
その他の金融資産の取得による支出		-	62,075
その他		90	13,405
投資活動によるキャッシュ・フロー		431,114	243,608
財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入れによる収入	30	150,000	-
長期借入れの返済による支出	30	175,543	156,072
社債の償還による支出	30	60,000	60,000
リース負債の返済による支出	30	118,474	119,888
株式の発行による収入		80	320
配当金の支払額		-	164,847
自己株式の取得による支出		45	168,704
財務活動によるキャッシュ・フロー		203,982	669,192
現金及び現金同等物の増減額(は減少)		3,876,582	1,106,385
現金及び現金同等物の期首残高		1,013,281	4,889,863
現金及び現金同等物の期末残高	29	4,889,863	3,783,478

【連結財務諸表注記】

1. 報告企業

MRT株式会社（以下、「当社」）は、日本国東京都に所在する株式会社であります。本連結財務諸表は、当社及び子会社（以下、「当社グループ」）並びに当社の関連会社により構成されております。当社グループは、非常勤医師紹介及び常勤医師紹介を中心とした医療情報プラットフォームの提供事業を主に行っております。当社グループの2023年12月31日に終了する期間の連結財務諸表は、2024年3月29日に代表取締役社長小川智也によって承認されております。

2. 作成の基礎

(1) 連結財務諸表がIFRSに準拠している旨の記載

当社グループの連結財務諸表は、国際会計基準審議会によって公表された国際会計基準（以下、「IFRS」）に準拠して作成しております。当社は、連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を全て満たしているため、同第93条の規定を適用しております。

(2) 測定の基礎

当社グループの連結財務諸表は、注記「3. 重要性がある会計方針」にて別途記載している場合を除き、取得原価を基礎として作成しております。

(3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、特に注釈のない限り、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(4) 基準及び解釈指針の早期適用

該当事項はありません。

(5) 会計方針の変更

当社グループの連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第1号	財務諸表の表示	重要な（significant）会計方針ではなく、重要性がある（material）会計方針の開示を要求する改訂
IAS第8号	会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬	会計方針と会計上の見積りとの区別を明確化
IAS第12号	法人所得税	単一の取引から生じた資産及び負債に係る繰延税金の会計処理を明確化

上記基準書の適用による連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(6) 未適用の公表済み基準書及び解釈指針

連結財務諸表の承認日までに新設又は改訂が公表された基準書及び解釈指針のうち、重要な影響があるものはありません。

3. 重要性がある会計方針

(1) 連結の基礎

子会社

子会社とは、当社グループにより支配されている企業をいいます。当社グループがある企業への関与により生じる変動リターンに対するエクスポージャー又は権利を有し、かつ、当該企業に対するパワーにより当該リターンに影響を及ぼす能力を有している場合に、当社グループは当該企業を支配していると判断しております。

子会社の財務諸表は、当社グループが支配を獲得した日から支配を喪失する日まで、連結の対象に含めております。

子会社が適用する会計方針が当社グループの適用する会計方針と異なる場合には、必要に応じて当該子会社の財務諸表に調整を加えております。当社グループ内の債権債務残高及び内部取引高、並びに当社グループ内の取引から発生した未実現損益は、連結財務諸表の作成に際して消去しております。

関連会社

関連会社とは、当社グループが当該企業の財務及び経営方針に対して重要な影響力を有しているものの、支配または共同支配を有していない企業をいいます。関連会社に対する投資は、持分法を用いて会計処理しており、取得時に取得原価で認識しております。関連会社への投資には、取得時に認識したのれんが含まれております。

連結財務諸表には、重要な影響力を有した日から重要な影響力を喪失する日までの関連会社の純損益及びその他の包括利益の当社グループの持分相当額を認識しております。

関連会社が採用する会計方針が当社グループの会計方針と異なる場合には、必要に応じて当該関連会社の財務諸表に調整を加えております。

(2) 企業結合

企業結合は取得法を用いて会計処理しております。取得対価は、被取得企業の支配と交換に譲渡した資産、引き受けた負債及び当社が発行する資本性金融商品の取得日の公正価値の合計として測定されます。取得対価が識別可能な資産及び負債の公正価値を超過する場合は、連結財政状態計算書においてのれんとして計上しております。

仲介手数料、弁護士費用、デュー・デリジェンス費用等の、企業結合に関連して発生する取引費用は、発生時に費用処理しております。

被取得企業における識別可能な資産及び負債は、取得日の公正価値で測定しております。

(3) 現金及び現金同等物

現金及び現金同等物は、手許現金、要求払預金及び容易に換金可能であり、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から満期日までの期間が3ヶ月以内の短期投資としております。

(4) 棚卸資産

棚卸資産は、主に商品及び貯蔵品から構成され、取得原価と正味実現可能価額のいずれか低い方の金額で測定されております。取得原価の算定は、先入先出法による原価法を採用しております。

(5) 有形固定資産

有形固定資産の測定については、原価モデルを適用し、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した価額で表示しております。

取得原価には、資産の取得に直接関連する費用、解体、除去等に係る費用、及び設置していた場所の原状回復費用などが含まれております。

各資産の減価償却費は、それぞれの見積耐用年数にわたり、定額法で計上されております。主要な資産項目ごとの見積耐用年数は以下のとおりであります。

- ・建物及び構築物 5年～18年
- ・工具、器具及び備品 2年～15年
- ・車両運搬具 3年

なお、見積耐用年数、減価償却方法及び残存価額は連結会計年度末日ごとに見直しを行い、変更があった場合には、会計上の見積りの変更として将来に向かって調整しております。

(6) のれん及び無形資産

のれん

のれんの当初認識については「(2)企業結合」に記載しております。当初認識後、取得原価から減損損失累計額を控除した金額で表示しております。

無形資産

) 個別に取得した無形資産

無形資産については、原価モデルを適用し、当初認識時に取得原価で測定しております。当初認識後、取得原価から償却累計額及び減損損失累計額を控除した価額で表示しております。

) 企業結合により取得した無形資産

企業結合により取得した無形資産の当初認識時の測定方法については「(2)企業結合」に記載しております。

) 償却

無形資産は、見積耐用年数にわたって、定額法で償却しております。主な無形資産の見積耐用年数は以下のとおりであります。

- ・ソフトウェア 5年
- ・顧客関連資産 9年

なお、見積耐用年数、償却方法及び残存価額は連結会計年度末日ごとに見直しを行い、変更があった場合には、会計上の見積りの変更として将来に向かって調整しております。

(7) 非金融資産の減損

棚卸資産及び繰延税金資産を除く、当社グループの非金融資産については、報告日現在における減損の兆候の有無を判断しております。減損の兆候がある場合には、その回収可能価額を見積っております。のれんは、減損の兆候の有無に関わらず、連結会計年度末までに最低年に一度、回収可能価額を見積っております。

回収可能価額の見積りにおいては、資産は、継続的な使用により他の資産又は資金生成単位のキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生み出す最小の資産グループに集約しております。企業結合から生じたのれんは、結合のシナジーが得られると期待される資金生成単位の配分しております。

資産又は資金生成単位の回収可能価額は、使用価値と処分コスト控除後の公正価値のうちいずれか大きい金額としております。使用価値は、貨幣の時間価値及びその資産又は資金生成単位の固有のリスクを反映した税引前の割引率を用いて現在価値に割引いた、見積将来キャッシュ・フローに基づいております。

減損損失は、資産又は資金生成単位の帳簿価額が回収可能価額を超過する場合に、純損益を通じて認識しております。認識した減損損失は、まずその資金生成単位の配分されたのれんの帳簿価額を減額するように配分し、次に資金生成単位内のその他の資産の帳簿価額を比例的に減額します。

過去に認識した減損損失は、のれんに配分した金額を除き、連結会計年度末日において、減損損失の減少又は消滅を示す兆候の有無を評価します。減損損失の減少又は消滅を示す兆候があり、回収可能価額の算定に使用した見積りに変更があった場合に減損損失を戻入れます。

(8) 金融商品

金融資産の認識及び測定

当社グループは、金融資産について、その当初認識時に純損益を通じて公正価値で測定する金融資産、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産及び償却原価で測定する金融資産に分類しております。この分類は、当初認識時に決定しております。

当社グループは、金融資産に関する契約の当事者となった取引日に当該金融商品を認識しております。

）償却原価で測定する金融資産

以下の要件をともに満たす金融資産は、償却原価で測定する金融資産に分類しております。

- ・契約上のキャッシュ・フローを回収するために資産を保有することを目的とする事業モデルに基づいて、資産が保有されている。
- ・金融資産の契約条件により、元本及び元本残高に対する利息の支払のみであるキャッシュ・フローが特定の日に生じる。

償却原価で測定する金融資産については、当初認識時に公正価値に取引費用を加算した金額で測定し、当初認識後の測定は実効金利法による償却原価により測定しております。

）公正価値で測定する金融資産

償却原価で測定する金融資産以外の金融資産は、公正価値で測定する金融資産に分類しております。公正価値で測定する金融資産については、当初認識時において公正価値に取引費用を加算した金額で測定し、個々の金融商品ごとに、純損益を通じて公正価値で測定するか、その他の包括利益を通じて公正価値で測定するかを指定し、当該指定を継続的に適用しております。

金融資産の認識の中止

金融資産からのキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅する、又は当社グループが金融資産の所有のリスクと経済価値のほとんど全てを移転する場合において、金融資産の認識を中止しております。なお、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の認識を中止した場合には、認識中止時までの公正価値の変動額をその他の包括利益として認識したのち、利益剰余金に振り替えております。

金融資産の減損

当社グループは、営業債権については、過去における予想信用損失の実績率を参考に、将来の予想信用損失を見積っております。

金融負債の認識及び測定

当社グループは、金融負債については、償却原価で測定する金融負債に分類しております。この分類は、当初認識時に決定しております。

償却原価で測定する金融負債は、当初認識時に公正価値から直接帰属する取引費用を控除した金額で測定し、当初認識後は実効金利法による償却原価で測定しております。

金融負債の認識の中止

契約中に特定された債務が免責、取消し、又は失効した時点で、金融負債の認識を中止しております。

(9) リース

当社グループは、契約の締結時に契約がリースに該当するか又はリースを含んでいるかを判定しております。契約が特定されて資産の使用を支配する権利を一定期間にわたり対価と交換に移転する場合には、当該契約はリースに該当するかリースを含んでいるものと判定しております。

契約がリースに該当、又はリースを含んでいると判定した場合、リース開始日に使用権資産及びリース負債を認識しております。リース負債は未払リース料総額の現在価値で測定し、使用権資産は、リース負債の当初測定のコストに、開始日以前に支払ったリース料等、借手に発生した当初直接コスト及びリースの契約条件で要求されている原状回復義務等のコストを調整した取得原価で測定しております。

当初認識後は、使用権資産は耐用年数とリース期間のいずれか短い年数にわたって、定額法で減価償却を行っております。

リース料は、利息法に基づき金融費用とリース負債の返済額に配分し、金融費用は連結損益計算書において認識しております。ただし、リース期間が12ヶ月以内の短期リース及び原資産が少額のリースについては、使用権資産及びリース負債を認識せず、リース料をリース期間にわたって、定額法又は他の規則的な基礎のいずれかにより費用として認識しております。

(10) 引当金

引当金は、過去の事象の結果として、当社グループが、現在の法的または推定的債務を負っており、当該債務を決済するために経済的資源の流出が生じる可能性が高く、当該債務の金額について信頼性のある見積りが可能な場合に認識しております。

引当金は、連結会計年度末日における債務に関するリスク及び不確実性を考慮に入れた、現在の債務の決済のために必要な支出（将来キャッシュ・フロー）の最善の見積りにより計上しております。

引当金の貨幣の時間価値が重要な場合には、見積将来キャッシュ・フローをその負債に特有のリスクを反映した税引前割引率で割引いた現在価値で測定しております。時の経過に伴う割引額の割戻しは金融費用として認識しております。

(資産除去債務)

本社等オフィスの不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等の金額及び支出時期を見積り、将来発生すると見込まれる額を現在価値に割引いた額を計上しております。その金額は、個々の不動産における現在の原状回復義務の履行金額を基に見積っておりますが、将来の価値変動等により、不確実性があります。その支出時期は、報告日後、1 - 3年後と見込んでおりますが、将来における事業計画の変更等により影響を受けます。

(11) 従業員給付

退職後給付

当社グループは、従業員の退職給付制度として、退職一時金制度及び確定拠出型の年金制度を運用しております。

）退職一時金制度

確定給付制度に係る負債は、当期及び前期以前の勤務の対価として従業員が獲得した将来の給付の見積額を現在価値に割引いた額となります。

確定給付債務の現在価値及び関連する当期勤務費用並びに過去勤務費用を、予測単位積増方式を用いて算定しております。

割引率は、将来の毎年度の給付支払見込日までの期間を基に割引期間を設定し、割引期間に対応した期末日時点の優良社債の市場利回りに基づき算定しております。

確定給付制度の再測定額は、発生した期においてその他の包括利益として一括認識し、直ちにその他の資本の構成要素から利益剰余金に振り替えております。

過去勤務費用は発生時の純損益として認識しております。

）確定拠出型の年金制度

制度に支払うべき拠出額を、従業員が関連するサービスを提供した期間の費用として処理しております。

その他の従業員給付

短期従業員給付については、割引計算は行わず、関連するサービスが提供された時点で費用として計上しております。

賞与及び有給休暇費用については、それらを支払う法的もしくは推定的な債務を負っており、信頼性のある見積りが可能な場合に、それらの制度に基づいて支払われると見積られる額を負債として認識しております。

(12) 株式報酬

当社は、持分決済型の株式に基づく報酬制度として、ストック・オプション制度を採用しております。ストック・オプションは、付与日の公正価値で評価しており、公正価値はオプションの諸条件を考慮し、モンテカルロ・シミュレーションにより算定しております。

(13) 法人所得税

法人所得税費用は当期税金及び繰延税金から構成されております。これらは、その他の包括利益で認識される項目、資本に直接認識される項目及び企業結合によって認識される項目を除き、純損益として認識しております。

繰延税金資産及び負債は、資産及び負債の会計上の帳簿価額と税務基準額との差額である一時差異、繰越欠損金及び繰越税額控除に対して認識しております。

なお、以下の一時差異に対しては、繰延税金資産及び負債を計上しておりません。

- ・のれんの当初認識から生じる一時差異
- ・企業結合取引を除く、会計上の利益にも税務上の課税所得にも影響を与えない取引によって発生する資産及び負債の当初認識により生じる一時差異
- ・子会社及び関連会社に対する投資に係る将来加算一時差異のうち、解消時期をコントロールでき、かつ予測可能な期間内に一時差異が解消しない可能性が高いもの

単一の取引から資産と負債の両方を同額で認識する特定の取引については、認識される資産に係る将来加算一時差異に対し繰延税金負債、認識される負債に関する将来減算一時差異に対して繰延税金資産をそれぞれ当初認識する方法を採用しております。

繰延税金負債は原則として、すべての将来加算一時差異について認識され、繰延税金資産は将来減算一時差異を使用できるだけの課税所得が稼得される可能性が高い範囲内で、すべての将来減算一時差異について認識されます。

繰延税金資産の帳簿価額は報告日に見直され、将来減算一時差異の全額又は一部が使用できるだけの十分な課税所得が稼得されない可能性が高い部分については、帳簿価額を減額しております。未認識の繰延税金資産は毎期再評価され、将来の課税所得により繰延税金資産が回収される可能性が高くなった範囲内で認識されます。

繰延税金資産及び負債は、報告日において制定されている、又は実質的に制定されている法定税率及び税法に基づいて資産が実現する期間又は負債が決済される期間に適用されると予想される税率及び税法によって測定されます。

繰延税金資産及び負債は、当期税金資産と負債を相殺する法律上強制力のある権利を有しており、かつ法人所得税が同一の税務当局によって同一の納税主体に課されている場合には、相殺して表示しております。

(14) 収益

収益は、以下の5ステップアプローチに基づき、顧客へのサービス移転により、その権利を得ると見込む対価を反映した金額で認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における別個の履行義務へ配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時点で（又は充足するにつれて）収益を認識する。

具体的な収益認識の規準は注記「24．売上収益」に記載しております。

(15) 1株当たり利益

基本的1株当たり当期利益は、親会社の所有者に帰属する当期損益を、その期間の自己株式を調整した普通株式の加重平均発行済株式数で除して計算しております。希薄化後1株当たり当期利益は、希薄化効果を有するすべての潜在株式の影響を調整して計算しております。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行うことが要求されております。実際の業績はこれらの見積りとは異なる場合があります。見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しております。会計上の見積りの見直しによる影響は、その見積りを見直した会計期間及び将来の会計期間において認識しております。

経営者が重要な見積り及び判断を行った項目で連結財務諸表の金額に重要な影響を与えるものは、以下のとおりであります。

市場性のない金融商品の評価（注記「3. 重要性がある会計方針（8）金融商品」、「7. 金融商品」）

市場性のない資本性金融商品は、その公正価値の評価にあたっては、投資先の将来の収益性を見直し、当該投資に関するリスクに応じた割引率等のインプット情報及び相対取引における価格を考慮しており、レベル3に分類しております。観察不能なインプットのうち主なものは、投資先の将来キャッシュ・フロー等のデータを用いた見積額であります。投資先の将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となる事業計画の主要な仮定は、売上高成長率、営業利益率であり過去の実績を考慮して決定しております。現在価値を算定するための割引率の見積りの基礎となる主要な仮定は、類似企業のデータを参照した加重平均資本コストであります。

のれんの減損（注記「3. 重要性がある会計方針（7）非金融資産の減損」、「13. のれん及び無形資産」）

のれんの減損を判断する際に、のれんが配分された資金生成単位について、回収可能価額の見積りが必要となります。使用価値の見積りにあたり、資金生成単位により生じることが予想される将来キャッシュ・フロー及びその現在価値を算定するための割引率を見積もっております。会計上の見積りに用いた仮定は不確実性を有しており、翌期以降に関係会社の属する市場環境や競合他社の状況により将来キャッシュ・フローが減少した場合又は現在価値を算定するための割引率が上昇した場合には、のれんの減損損失を計上する可能性があります。

5. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

なお、当社グループは、医療情報プラットフォームの提供事業の単一セグメントであります。

(2) サービスごとの情報

当社グループは、主に非常勤、常勤医師紹介を中心として医療人材サービス及びその他のサービスを行っております。サービスごとの外部顧客に対する売上収益は、以下の通りであります。

（単位：千円）

サービスの種類別	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
	医療人材サービス	4,010,984
その他	4,727,208	2,247,119
合計	8,738,193	5,407,087

(3) 地域ごとの情報

売上収益

本邦以外の外部顧客への売上収益はありません。

非流動資産

本邦以外に所在している非流動資産はありません。

(4) 主要な顧客ごとの情報

前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

外部顧客への売上収益のうち、連結損益計算書の売上収益の10%以上を占める相手先は東京都及び医療法人社団Vantage Clinicであります。当該顧客からの売上収益の合計はそれぞれ2,420,359千円及び1,679,300千円であります。

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

外部顧客への売上収益のうち、連結損益計算書の売上収益の10%以上を占める相手先は東京都であります。当該顧客からの売上収益の合計は620,021千円であります。

6. 企業結合

前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

株式取得による企業結合

(株式会社メディアルトの株式取得)

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称

株式会社メディアルト

事業の内容

医師向けの医薬品プロモーション施策

医薬品の広告やパンフレットなどの制作

医学学会の記録集制作

企業結合を行った主な理由

株式会社メディアルトは、2010年3月創業以来、医薬品の広告やパンフレットの制作、医学学会の記事集制作や医薬品情報提供用WEBサイトの構築を通じて、医師や医療従事者に情報提供を行う一方、病院内ポスターやパンフレット制作を通じて患者への疾患啓発活動を行ってまいりました。特に腫瘍学（oncology）分野を得意とし、幅広い知見と経験を有するメディカルライターをはじめとした人材を擁しております。

当社グループの医療従事者会員に向けた医療・医薬情報の提供の充実を図ることは、医療従事者会員の満足度向上およびネットワークの拡大に寄与するものと考えております。また医療従事者会員ネットワークや当社グループの既存事業に、製薬メーカーなどこれまでにない取引先が加わることにより、新たな医療サービスの構築、さらに当社グループの収益力の強化、企業価値の向上を図るものと考えております。

取得日

2022年12月27日

被取得企業の支配を獲得した方法

現金を対価とする株式の取得

取得した議決権比率

議決権比率 100%

(2) 被取得企業の取得対価及びその内訳

現金	430,000千円
移転された対価の合計	430,000

取得関連費用は21,600千円であり、「販売費及び一般管理費」に含めております。

(3) 企業結合により受け入れた資産、引き受けた負債及び認識したのれん

支払対価の公正価値（現金）	430,000千円
合計	430,000
現金及び現金同等物	79,484
営業債権及びその他の債権	44,091
未収法人所得税	17,280
有形固定資産	8,799
無形資産	213,000
使用権資産	5,432
その他の金融資産	1,850
繰延税金資産	5,076
その他の資産	1,176
資産合計	376,133
営業債務及びその他の債務	20,963
リース負債	12,219
その他の金融負債	24,020
未払法人所得税	180
退職給付に係る負債	5,639
引当金	1,200
繰延税金負債	71,546
その他の負債	5,606
負債合計	141,376
純資産	234,757
非支配持分	-
のれん	195,242

のれんの内容は、同社の製薬メーカーとの取引強化を通じて期待される将来の超過収益力の合理的な見積りのうち、個別の資産として認識されなかったものであります。なお、のれんについて税務上損金算入を見込んでいる金額はありません。

(4) 暫定的な金額の修正

2022年12月27日付で取得した株式会社メディアルトに関し、前連結会計年度において株式取得に係る取得価額の当該取得対価に関連する資産及び負債への配分が完了していないため、無形資産及びのれんは暫定的な金額で報告しておりましたが、当連結会計年度に配分が完了しております。取得対価の配分が確定したことにより、のれんの金額は141,453千円減少しております。これは、無形資産及び繰延税金負債がそれぞれ213,000千円及び71,546千円増加したことによるものであります。

なお、企業結合により識別した顧客関連資産は、取得対価の配分に際し、事業計画に含まれる将来の売上高成長率及び顧客関係に係る将来キャッシュ・フローにおける既存顧客減少率を主要な仮定として利用しております。

(5) 取得した債権の公正価値、契約上の未収金額及び回収不能見込額

取得した債権の公正価値61,372千円について、契約上の未収金額は61,638千円であり、回収不能と見込まれる契約上のキャッシュ・フローの企業結合日現在の見積りは266千円であります。

(6) 取得に伴うキャッシュ・フロー

取得により支出した現金及び現金同等物	430,000千円
取得時に被取得企業が保有していた現金及び現金同等物	79,484
子会社の取得による支出	350,515

(7) 業績に与える影響

(取得した事業の収益及び利益)

取得した株式会社メディアルトの取得日以降の重要な影響はありません。

(プロフォーマ情報)

企業結合が期首に行われたと仮定した場合の当社グループの2022年12月31日に終了した1年間の連結業績に係るプロフォーマ情報(非監査情報)は以下のとおりであります。

	2022年12月31日に 終了した1年間
売上収益	9,017,752千円
当期利益	2,185,979

当連結会計年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

株式取得による企業結合

(Medikiki.com株式会社の株式取得)

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称	Medikiki.com株式会社
事業の内容	医療機器情報サイトの運営 医療従事者向け情報サイトの制作支援 クラウド型医療機器管理システムの運営 医療従事者職業紹介事業

企業結合を行った主な理由

Medikiki.com株式会社は、医療機器サイト「情報」、医療従事者ネットワーク「繋がり」、医療機器管理業務「削減」、を提供し、新しい医療業界の構築を目指しています。医療機器情報サイトである「Medikiki.com」は医療従事者・医療機器販売代理店・医療機器メーカーの情報連携がスムーズにできるプラットフォームを構築し、医療機器業界の業務効率化を図ってまいりました。

2 当社グループの医療従事者会員に向けた医療・医薬情報の提供の充実を図ることは、医療従事者会員の満足度向上およびネットワークの拡大に寄与するものと考えております。また医療従事者会員ネットワークや当社グループの既存事業に、医療機器メーカーなどこれまでにない取引先が加わることにより、新たな医療サービスの構築、さらに当社グループの収益力の強化、企業価値の向上を図るものと考えております。

取得日

2023年10月1日

被取得企業の支配を獲得した方法

現金を対価とする株式の取得

取得した議決権比率

議決権比率 80.8%

(2) 被取得企業の取得対価及びその内訳

現金	141,600千円
移転された対価の合計	141,600

取得関連費用は25,000千円であり、「販売費及び一般管理費」に含めております。

(3) 企業結合により受け入れた資産、引き受けた負債及び認識したのれん

支払対価の公正価値（現金）	141,600千円
合計	141,600
現金及び現金同等物	104,902
営業債権及びその他の債権	15,757
有形固定資産	2,494
無形資産	15,594
その他の金融資産	1,786
繰延税金資産	9,056
資産合計	149,592
営業債務及びその他の債務	6,487
その他の金融負債	2,172
未払法人所得税	18,500
引当金	482
その他の負債	4,336
負債合計	31,980
純資産	117,612
非支配持分	22,536
のれん	46,524

非支配持分は、取得日における識別可能な被取得企業の純資産額に企業結合後の持分比率を乗じて測定しております。

のれんの内容は、同社の医療機器プラットフォーム拡大を通じて期待される将来の超過収益力の合理的な見積りのうち、個別の資産として認識されなかったものであります。なお、当連結会計年度末において、取得対価の関連する資産及び負債の金額への配分が完了していないため、企業結合により受け入れた資産、引き受けた負債及びのれんは暫定的な金額で報告しております。なお、のれんについて、税務上損金算入を見込んでいる金額はありません。

(4) 取得した債権の公正価値、契約上の未収金額及び回収不能見込額

取得した債権の公正価値15,757千円について、契約上の未収金額は15,757千円であり、回収不能と見込まれる契約上のキャッシュ・フローの企業結合日現在の見積りはありません。

(5) 取得に伴うキャッシュ・フロー

取得により支出した現金及び現金同等物	141,600千円
取得時に被取得企業が保有していた現金及び現金同等物	104,902
子会社の取得による支出	36,697

(6) 業績に与える影響

(取得した事業の収益及び利益)

取得したMedikiki.com株式会社の取得日以降の売上収益は25,029千円、当期損失は1,548千円であります。

(プロフォーマ情報)

企業結合が期首に行われたと仮定した場合の当社グループの2023年12月31日に終了した1年間の連結業績に係るプロフォーマ情報（非監査情報）は以下のとおりであります。

	2023年12月31日に 終了した1年間
売上収益	5,510,352千円
当期利益	557,636

7. 金融商品

(1) 資本管理

当社グループの資本管理上、資本には、資本金、資本準備金及び親会社の所有に帰属するすべてのその他の資本剰余金を含めております。当社グループは、事業規模の拡大及び新規事業の育成を通じた収益基盤の多様化を通じて持続可能な長期的な成長を実現し、企業価値の最大化を目指しております。この企業価値の最大化を目指すために、親会社所有者帰属持分比率を資本管理において用いる指標としております。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
親会社の所有者に帰属する持分(千円)	4,391,413	4,577,617
負債及び資本合計(千円)	8,159,023	6,471,962
親会社所有者帰属持分比率(%)	53.82	70.73

(2) 財務上のリスク管理方針

当社グループは、金融商品取引については、運転資金を除く余剰資金の範囲内において、金融資産の流動性を確保し、主に要求払預金等、元本の安全性の高い金融商品に限定して取り組んでおります。なお、デリバティブ取引は、投機的な取引は行わない方針であります。

経営活動を行う過程において、常に財務上のリスクに晒されており、当社グループは、当該財務上のリスクを軽減するために、一定の方針に基づきリスク管理を行っております。

為替リスク管理

当社グループの主な為替リスクは、機能通貨と異なる外貨建の資産残高であり、主に米ドル建残高となります。前連結会計年度末及び当連結会計年度末における、為替リスクは重要ではないと判断しております。

金利リスク管理

当社グループが保有する金融負債の一部については、約定金利が設定されておりますが、当該リスクは重要ではないと判断しております。なお、前連結会計年度末及び当連結会計年度末における、元本残高は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)		当連結会計年度 (2023年12月31日)	
	固定金利	変動金利	固定金利	変動金利
金融負債				
社債	90,000	-	30,000	-
借入金	301,725	300,000	145,653	300,000
合計	391,725	300,000	175,653	300,000

(注) 上記金融負債のうち、変動金利の約定金利が付されている残高は、金利の変動リスクに晒されております。

前連結会計年度及び当連結会計年度末における金利リスクは重要ではないと判断しております。

市場価格の変動リスク管理

当社グループが保有する資本性金融商品及び負債性金融商品は、市場価格の変動リスクに晒されております。当社グループが保有する資本性金融商品は非上場株式、負債性金融商品は新株予約権付社債であります。これらの金融商品は、業務提携先に出資することにより、連携をより強固なものとするために、政策目的で保有するものであり、短期売買目的で保有するものではありません。当社グループは、定期的に取り先企業との関係を勘案して保有状況を見直しております。

(市場価格の感応度)

非上場株式及び非上場の新株予約権付社債の公正価値評価においては、市場からは観察不能なインプットを用いた見積りを行っており、前連結会計年度及び当連結会計年度における主なインプットは投資先の将来キャッシュ・フロー等のデータを用いた見積額であります。このインプットが10%変動した場合の連結損益計算書の税引前当期利益及び連結包括利益計算書のその他の包括利益(税効果考慮前)に与える影響額は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
将来キャッシュ・フロー等の見積額が10%上昇した場合		
税引前当期利益	-	-
その他の包括利益(税効果考慮前)	6,098	10,565
将来キャッシュ・フロー等の見積額が10%下落した場合		
その他の包括利益(税効果考慮前)	6,098	10,565

信用リスク管理

営業債権及びその他の債権、その他の金融資産は取引先の信用リスクに晒されております。当社グループでは、営業部門であるメディカル・ヘルスケア事業本部担当部署及び管理部門であるコーポレート本部担当部署が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。当社グループでは、債務者に破産、会社更生、民事再生といった法的手続の申立または期日の繰延等の条件変更が生じた場合に、信用減損金融資産として取り扱っております。2023年12月31日現在、関連当事者を除く債権残高が100万円超の顧客はありません(2022年:2件、営業債権及びその他の債権の総額に占める割合約57%)。

なお、連結財務諸表に表示されている償却原価で測定する金融資産の減損後の帳簿価額は、当社グループの金融資産の信用リスクに対するエクスポージャーの最大値であります。

報告期間の末日現在で期日が未経過であり、財務状況等の与信能力により回収懸念がない金融資産については、減損損失の計上をしておりません。

また、報告期間の末日現在で期日が経過しているが、減損をしていない重要な債権はありません。

前連結会計年度及び当連結会計年度における、営業債権及びその他の債権から控除した貸倒引当金の増減は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
	流動	流動
期首	54,277	47,033
企業結合	266	-
繰入	47,342	14,358
目的使用	4,658	10,252
取崩	50,193	30,647
期末	47,033	20,492

流動性リスク管理

当社グループは、必要となる営業活動の資金は、基本的に、営業活動によるキャッシュ・フローにより確保しております。また、当社グループは、資金収支の見通しと実績の分析を行い、流動性リスクの軽減を図っております。

金融負債の残存契約満期金額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度(2022年12月31日)				
	帳簿価額	契約上のキャッシュ・フロー	1年以内	1年超5年以内	5年超
金融負債					
営業債務及びその他の債務	770,630	770,630	770,630	-	-
社債	89,625	90,044	60,044	30,000	-
借入金	601,725	605,572	458,366	147,206	-
リース負債	184,512	186,733	107,791	78,941	-
未払金	40,233	53,150	-	-	53,150
預り金	92,959	92,959	92,959	-	-
合計	1,779,686	1,799,090	1,489,792	256,148	53,150

(注) 未払金は「その他の金融負債」(非流動)に、預り金は「その他の金融負債」(流動)に含めて表示しております。

(単位：千円)

	当連結会計年度(2023年12月31日)				
	帳簿価額	契約上のキャッシュ・フロー	1年以内	1年超5年以内	5年超
金融負債					
営業債務及びその他の債務	361,123	361,123	361,123	-	-
社債	29,970	30,000	30,000	-	-
借入金	445,653	447,426	366,596	80,830	-
リース負債	166,163	169,596	96,564	73,031	-
未払金	40,765	53,150	-	-	53,150
預り金	54,229	54,229	54,229	-	-
合計	1,097,904	1,115,524	908,513	153,861	53,150

(注) 未払金は「その他の金融負債」(非流動)に、預り金は「その他の金融負債」(流動)に含めて表示しております。

(3) 金融商品の公正価値に関する事項

公正価値のレベル別分類

当社グループでは連結財政状態計算書において測定した資産及び負債の公正価値を、以下のとおりレベル1からレベル3の階層に分類しております。

レベル1：活発な市場における無調整の同一資産・負債の市場価格のインプット

レベル2：レベル1に含まれる相場価格以外で、資産・負債に対して直接又は間接に観察可能なインプット

レベル3：観察可能な市場データに基づかないインプット

公正価値の算定方法

公正価値で測定される金融商品に使用される主な評価技法は、以下のとおりであります。

(市場性のない資本性金融商品)

市場性のない資本性金融商品は、その公正価値の評価にあたっては、投資先の将来の収益性を見通し、当該投資に関するリスクに応じた割引率等のインプット情報及び相対取引における価格を考慮しており、レベル3に分類しております。観察不能なインプットのうち主なものは、投資先の将来キャッシュ・フロー等のデータを用いた見積額であります。

(市場性のない負債性金融商品)

市場性のない負債性金融商品として、新株予約権付社債及び投資信託を有しております。新株予約権付社債については、その公正価値の評価にあたっては、転換権の行使の有無別による公正価値をそれぞれ見積り、オプション内容に応じて必要な調整を行っております。転換権を行使した場合の公正価値は、投資先の資本性金融商品の相対取引における価格を考慮し、行使しなかった場合の公正価値は、資本への転換オプションがない類似の社債の価格を参考にしており、レベル3に分類しております。観察不能なインプットのうち主なものは、投資先の将来キャッシュ・フロー等のデータを用いた見積額であります。投資信託については、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産として、取引先金融機関から提示された価格に基づいて算定しており、レベル2に分類しております。

(社債及び借入金)

社債及び借入金の公正価値は、同一の残存期間で同条件の社債の発行又は借入を行う場合の金利に基づき、予測将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引くことにより算定し、レベル2に分類しております。

(未払金)

未払金の公正価値は、支払が見込まれる期日までの期間を加味した金利に基づき、予測将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引くことにより算定し、レベル2に分類しております。

償却原価で測定される金融商品

償却原価で測定される金融商品の帳簿価額と公正価値は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)		当連結会計年度 (2023年12月31日)	
	連結財政 状態計算書 計上額	公正価値	連結財政 状態計算書 計上額	公正価値
償却原価で測定する金融負債：				
社債	89,625	89,302	29,970	29,944
借入金	601,725	601,022	445,653	445,520
未払金	40,233	36,274	40,765	36,721

社債、借入金及び未払金は、レベル2に分類しております。

なお、預金、営業債権及びその他の債権、その他の金融資産、営業債務及びその他の債務並びに一部のその他の金融負債は、公正価値が帳簿価額に近似しているため、上記に含めておりません。

公正価値で測定される金融商品

当社グループの保有する株式等のうち、業務提携先との連携をより強固なものとするために、政策目的で保有する資本性金融商品については、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産として指定しています。その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産として指定した資本性金融商品は、主に非上場会社の株式であり、当該株式の公正価値は前連結会計年度末60,982千円、当連結会計年度末105,658千円であります。

定期的に公正価値で測定される金融資産及び金融負債の公正価値は以下のとおりであります。

(単位：千円)

前連結会計年度 (2022年12月31日)	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する				
金融資産				
資本性金融商品	69,873	-	-	69,873
新株予約権付社債	-	-	0	0
その他の包括利益を通じて公正価値				
で測定する金融資産				
資本性金融商品	-	-	60,982	60,982
合計	69,873	-	60,982	130,855

(注) 前連結会計年度において、レベル1、レベル2及びレベル3の間に振替が行われた金融商品はありませぬ。

(単位：千円)

当連結会計年度 (2023年12月31日)	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する				
金融資産				
新株予約権付社債	-	-	0	0
負債性金融商品	-	29,854	-	29,854
その他の包括利益を通じて公正価値				
で測定する金融資産				
資本性金融商品	-	-	105,658	105,658
合計	-	29,854	105,658	135,512

(注) 当連結会計年度において、レベル1、レベル2及びレベル3の間に振替が行われた金融商品はありませぬ。

レベル3に分類された金融商品の公正価値測定の増減は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
期首残高	32,118	60,982
企業結合による増加	71	-
取得	-	32,000
売却	-	-
償還	-	-
純損益	-	-
その他の包括利益(注)	28,791	12,676
期末残高	60,982	105,658
期末に保有する資産について純損益に計上した当期 の未実現損益の変動	-	-

(注) その他の包括利益に含まれている利得又は損失は、決算日時点のその他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の公正価値の純変動に関するものであります。この利得又は損失は、連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動」に含まれております。

レベル3に分類された金融商品は、非上場株式及び非上場の新株予約権付社債により構成されております。当該金融資産の公正価値評価においては、市場からは観察不能なインプットを用いた見積りを行っております。公正価値の評価結果については、上位者に報告され、承認を受けております。

(4) その他の金融資産

その他の金融資産の区分は以下のとおりであります。

流動資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
償却原価で測定する金融資産		
診療報酬債権ファクタリングに係る債権	7,720	26,418
合計	7,720	26,418

非流動資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産		
資本性金融商品	69,873	-
負債性金融商品	-	29,854
新株予約権付社債	0	0
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産		
資本性金融商品	60,982	105,658
償却原価で測定する金融資産		
敷金及び差入保証金	140,731	144,777
預け金	270	540
合計	271,856	280,830

(5) その他の金融負債

その他の金融負債の内訳は以下のとおりであります。

流動負債

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
償却原価で測定する金融負債		
預り金	92,959	54,229
合計	92,959	54,229

非流動負債

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
償却原価で測定する金融負債		
未払金	40,233	40,765
合計	40,233	40,765

8. 営業債権及びその他の債権

営業債権及びその他の債権の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
売掛金(注)	1,435,903	403,114
その他の債権	1,986	38,664
貸倒引当金	47,033	20,492
合計	1,390,856	421,286

(注) 関連当事者に係る債権の金額は、注記「31. 関連当事者についての開示」に記載しております。

9. 棚卸資産

棚卸資産の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
商品	2,998	7,505
仕掛品	313	7,901
貯蔵品	1,299	5,752
合計	4,611	21,159

10. その他の資産

その他の資産の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
その他の流動資産		
前払費用	37,772	48,196
立替金	21,450	-
前渡金	15,310	10,364
未収消費税等	-	237,589
その他	42,236	1,248
合計	116,770	297,399
その他の非流動資産		
前払費用	2,183	12,364
合計	2,183	12,364

11. 有形固定資産

(1) 有形固定資産の取得原価、減価償却累計額及び減損損失累計額の増減は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)		
	建物及び構築物	工具、器具 及び備品	合計
取得原価			
2022年1月1日時点の残高	65,231	143,262	208,493
取得	-	29,466	29,466
企業結合による取得	328	1,544	1,872
売却又は処分	-	-	-
2022年12月31日時点の残高	65,560	174,272	239,832
減価償却累計額及び減損損失累計額			
2022年1月1日時点の残高	40,917	91,162	132,080
減価償却費	9,024	20,368	29,393
減損損失	-	-	-
売却又は処分	-	-	-
2022年12月31日時点の残高	49,942	111,531	161,473
帳簿価額			
2022年1月1日時点の残高	24,314	52,099	76,413
2022年12月31日時点の残高	15,618	62,740	78,359

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)			
	建物及び構築物	工具、器具 及び備品	車両運搬具	合計
取得原価				
2023年1月1日時点の残高	65,560	174,272	-	239,832
取得	590	10,059	-	10,649
企業結合による取得	321	-	2,173	2,494
売却又は処分	-	-	-	-
2023年12月31日時点の残高	66,471	184,332	2,173	252,976
減価償却累計額及び減損損失累計額				
2023年1月1日時点の残高	49,942	111,531	-	161,473
減価償却費	8,239	26,044	362	34,646
減損損失	-	-	-	-
売却又は処分	-	-	-	-
2023年12月31日時点の残高	58,181	137,576	362	196,120
帳簿価額				
2023年1月1日時点の残高	15,618	62,740	-	78,359
2023年12月31日時点の残高	8,290	46,755	1,810	56,856

(2) 有形固定資産の購入に関するコミットメント

該当事項はありません。

(3) 減価償却費は連結損益計算書の「販売費及び一般管理費」、減損損失は連結損益計算書の「その他の費用」に含めております。

12. リース

当社グループは、事務所等をオペレーティング・リース契約により賃借しております。契約期間は2年から15年であります。なお、重要な購入選択権、エスカレーション条項及びリース契約によって課された制限（配当、追加借入及び追加リースに関する制限等）はありません。

リースに係る損益の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
使用権資産の減価償却費		
建物及び構築物	108,244	108,180
工具、器具及び備品	894	2,685
合計	109,139	110,865
使用権資産の減損損失		
建物及び構築物	-	-
合計	-	-
リース負債に係る金利費用	2,608	2,106
短期リース費用	4,161	5,063
少額資産リース費用	1,478	1,728
合計	8,248	8,899

使用権資産の帳簿価額の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
使用権資産		
建物及び構築物	161,194	153,000
工具、器具及び備品	8,111	7,509
合計	169,305	160,510

前連結会計年度及び当連結会計年度における使用権資産の増加額は、それぞれ34,484千円及び99,385千円です。

前連結会計年度及び当連結会計年度におけるリースに係るキャッシュ・アウトフローの合計額は、それぞれ124,114円及び126,680千円です。

リース負債の満期分析については、注記「7. 金融商品 (2)財務上のリスク管理方針 流動性リスク管理」に記載しております。

使用権資産の減損損失は、連結損益計算書の「その他の費用」に計上しております。

13. のれん及び無形資産

(1) のれん及び無形資産の取得価額、償却累計額及び減損損失累計額の増減は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)				
	のれん	無形資産			合計
		ソフトウェア	顧客関連資産	その他	
取得原価					
2022年1月1日時点の残高	434,023	328,622	43,000	26,326	397,949
取得	-	40,173	-	13,200	53,373
企業結合による取得	195,242	-	213,000	-	213,000
売却又は処分	-	5,300	-	-	5,300
科目振替	-	38,631	-	38,631	-
その他	-	-	-	-	-
2022年12月31日時点の残高	629,266	402,128	256,000	895	659,023
償却累計額及び減損損失累計額					
2022年1月1日時点の残高	194,335	180,407	43,000	895	224,302
償却	-	47,239	-	-	47,239
減損損失	-	-	-	-	-
売却又は処分	-	4,110	-	-	4,110
2022年12月31日時点の残高	194,335	223,536	43,000	895	267,431
帳簿価額					
2022年1月1日時点の残高	239,688	148,215	-	25,431	173,646
2022年12月31日時点の残高	434,930	178,591	213,000	-	391,591

(注) 重要な無形資産

前連結会計年度末における重要な無形資産は、医師のネットワークにつながるアプリ「Door.」及びオンライン医療・健康相談サービスに係るソフトウェア及び株式会社メディアルトに係る顧客関連資産であります。当該ソフトウェアに係る帳簿価額は102,587千円、ソフトウェアの残存償却期間は4年、当該顧客関連資産に係る帳簿価額210,000千円、残存償却期間は9年であります。

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)				
	のれん	無形資産			合計
		ソフトウェア	顧客関連資産	その他	
取得原価					
2023年1月1日時点の残高	629,266	402,128	256,000	895	659,023
取得	-	45,480	-	-	45,480
企業結合による取得	46,524	15,594	-	-	15,594
売却又は処分	-	-	-	-	-
科目振替	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-
2023年12月31日時点の残高	675,790	463,202	256,000	895	720,097
償却累計額及び減損損失累計額					
2023年1月1日時点の残高	194,335	223,536	43,000	895	267,431
償却	-	59,315	26,333	-	85,648
減損損失	142,134	-	-	-	-
売却又は処分	-	-	-	-	-
2023年12月31日時点の残高	336,470	282,852	69,333	895	353,080

帳簿価額

2023年1月1日時点の残高	434,930	178,591	213,000	-	391,591
2023年12月31日時点の残高	339,320	180,350	186,666	-	367,016

(注) 重要な無形資産

当連結会計年度末における重要な無形資産は、医師のネットワークにつながるアプリ「Door.」及びオンライン医療・健康相談サービスに係るソフトウェア及び株式会社メディアルトに係る顧客関連資産であります。当該ソフトウェアに係る帳簿価額は66,686千円、ソフトウェアの残存償却期間は3年、当該顧客関連資産に係る帳簿価額186,666千円、残存償却期間は8年であります。

(2) 無形資産の取得に関するコミットメントは、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
ソフトウェア	3,600	1,200

(3) 償却対象の無形資産償却費は、連結損益計算書の「販売費及び一般管理費」に含めております。

(4) のれんの減損テスト

当社グループは、のれんについて、年度末及び減損の兆候がある場合には随時、減損テストを実施しております。減損テストの回収可能価額は、使用価値と処分コスト控除後の公正価値を比較した結果いずれも使用価値の金額が大きかったため、使用価値に基づいて算定しております。

企業結合で生じたのれんは、取得日に、当該企業結合から利益がもたらされる資金生成単位に配分しております。なお、当社グループにおけるのれんは次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
株式会社医師のとも	92,237	92,237
株式会社日本メディカルキャリア	147,451	33,601
株式会社メディアルト	195,242	195,242
Medikiki.com株式会社	-	18,239

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
合計	434,930	339,320

使用価値は、原則、過去の経験及び外部からの情報を反映し、経営者が承認した今後3年度分の事業計画を基礎としたキャッシュ・フロー見積額、当該期間を超過した期間の継続価値によるキャッシュ・フローに対しては事業内容を考慮した市場の成長率により見込んだキャッシュ・フローの見積額を、当該資金生成単位の加重平均資本コストに基づき一定の調整をした税引前の割引率により現在価値に割引いて算定しております。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)		当連結会計年度 (2023年12月31日)	
	成長率	割引率	成長率	割引率
株式会社医師のとも	0.0%	17.74%	0.0%	14.69%
株式会社日本メディカルキャリア	0.0	15.98	0.0	14.11
株式会社メディアルト	0.0	15.06	0.0	14.65
Medikiki.com株式会社	-	-	0.0	16.95

将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となる事業計画の主要な仮定は、医療従事者紹介事業においては、求職者の獲得数、その獲得コストの対売上収益比率、職業を斡旋するキャリアコンサルタント1人当たりの成約数及び成約総額であります。現在価値を算定するための割引率の見積りの基礎となる主要な仮定は、類似企業のデータを参照した加重平均資本コストであります。

前連結会計年度において、当該減損テストの結果、回収可能価額が帳簿価額を上回っており、減損テストに使用した主要な仮定が合理的に予測可能な範囲で変化したとしても、回収可能価額が帳簿価額を下回る可能性は低いと判断しております。

当連結会計年度において、株式会社日本メディカルキャリアに係るのれんについては、人材紹介事業の統廃合により当初想定されていた将来キャッシュ・フローの見積額が低下したことにより、回収可能価額が帳簿価額を下回ったため113,849千円の減損損失を計上しております。また、Medikiki.com株式会社に係るのれんについては、主要取引先との契約終了により当初想定されていた将来キャッシュ・フローの見積額が低下したことにより、回収可能価額が帳簿価額を下回ったため28,285千円の減損損失を計上しております。なお、のれんの減損損失は、連結損益計算書の「その他の費用」に計上しております。

株式会社日本メディカルキャリア及びMedikiki.com株式会社以外について、当該減損テストの結果、回収可能価額が帳簿価額を上回っており、減損テストに使用した主要な仮定が合理的に予測可能な範囲で変化したとしても、回収可能価額が帳簿価額を下回る可能性は低いと判断しております。

会計上の見積りに用いた仮定は不確実性を有しており、翌期以降に関係会社の属する市場環境や競合他社の状況により将来キャッシュ・フローが減少した場合又は現在価値を算定するための割引率が上昇した場合には、のれんの減損損失を計上する可能性があります。

14. 関連会社

関連会社の詳細は以下のとおりであります。

名称	主要な事業の内容	所在地	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
メドリング株式会社	クラウド電子カル テの開発・販売	東京都 渋谷区	- %	21.10%

IFRS財務諸表に基づく関連会社の要約財政状態計算書は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
流動資産	-	75,324
非流動資産	-	102,647
流動負債	-	49,368
非流動負債	-	56,810
資本	-	71,792
資本のうち当社グループの持分	-	15,149
のれん相当額及び連結調整	-	125,856
投資の帳簿価額	-	141,006

IFRS財務諸表に基づく関連会社の要約損益計算書は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上収益	-	3,639
費用	-	49,571
当期利益	-	45,931
当期包括利益	-	42,626

15. 法人所得税

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債

前連結会計年度及び当連結会計年度における、繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳及び変動は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	2022年 1月1日	純損益を 通じて認識	その他の 包括利益に おいて認識	企業結合	2022年 12月31日
繰延税金資産					
無形資産	9,912	1,521	-	205	11,638
金融資産	58,957	7,440	20,757	-	30,758
リース負債	82,910	28,683	-	4,104	58,332
未払賞与及び未払有給休暇	76,084	79,130	-	1,641	156,856
ポイント制度に係る債務	5,416	17,722	-	-	23,139
金融負債の償却原価による測定	1,263	72	-	-	1,191
退職給付に係る負債	23,190	3,834	447	-	26,577
その他	88,073	46,063	-	2,982	137,119
繰延税金資産合計	345,807	112,076	21,205	8,934	445,613
繰延税金負債					
有形固定資産	3,346	1,159	-	-	2,187
使用権資産	78,845	26,421	-	3,857	56,281
無形資産	-	-	-	71,546	71,546
繰延税金負債合計	82,192	27,580	-	75,404	130,015
繰延税金資産純額	263,615	139,657	21,205	66,469	315,597

(単位：千円)

	2023年 1月1日	純損益を 通じて認識	その他の 包括利益に おいて認識	企業結合	2023年 12月31日
繰延税金資産					
無形資産	11,638	102	-	-	11,536
金融資産	30,758	24,666	4,629	-	1,462
リース負債	58,332	7,035	-	-	51,297
未払賞与及び未払有給休暇	156,856	63,983	-	-	92,873
ポイント制度に係る債務	23,139	17,390	-	-	5,748
金融負債の償却原価による測定	1,191	8	-	-	1,182
退職給付に係る負債	26,577	8,533	1,802	-	36,912
その他	137,119	68,298	-	9,056	77,878
繰延税金資産合計	445,613	172,953	2,827	9,056	278,890
繰延税金負債					
有形固定資産	2,187	1,505	-	-	681
使用権資産	56,281	3,055	-	-	53,226
無形資産	71,546	8,845	-	-	62,701
その他	-	24,258	-	-	24,258
繰延税金負債合計	130,015	10,852	-	-	140,868
繰延税金資産純額	315,597	183,805	2,827	9,056	138,022

当社グループは、繰延税金資産の認識にあたり、将来減算一時差異又は繰越欠損金の一部又は全部の税務便益を受けられるか否かの可能性を見積っております。当社グループは、認識された繰延税金資産について、将来課税所得の見積りにより税務便益を受けられる可能性が高いものと判断しております。

繰延税金資産及び繰延税金負債の連結財政状態計算書上の金額は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
繰延税金資産	382,067	194,802
繰延税金負債	66,469	56,780

繰延税金資産を認識していない繰越欠損金及び将来減算一時差異は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
繰越欠損金	29,344	132,730
将来減算一時差異	78,245	80,327
合計	107,590	213,057

繰延税金資産を認識していない税務上の繰越欠損金の失効予定は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
1年目	-	-
2年目	-	-
3年目	-	-
4年目	-	-
5年目以降	29,344	132,730
合計	29,344	132,730

(2) 純損益を通じて認識した法人所得税

前連結会計年度及び当連結会計年度において、純損益を通じて認識した法人所得税の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
法人所得税		
前期以前	-	-
当期	893,700	135,543
小計	893,700	135,543
繰延法人所得税		
一時差異等の発生及び解消	139,657	183,805
小計	139,657	183,805
法人所得税合計	754,043	319,349

当期税金費用は、過去に未認識であった繰越欠損金や将来減算一時差異から生じた便益の額を含んでおります。これらの税金収益は前連結会計年度においては2,005千円、当連結会計年度においては該当はありません。

(3) 法定実効税率の調整

法定実効税率と平均実際負担税率との差異について、原因となった主要な項目の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
交際費等の永久差異	0.5	0.5
のれんの減損損失	-	5.1
未認識の繰延税金資産の増減	0.2	3.7
税額控除	5.0	0.9
その他	0.6	1.8
平均実際負担税率	25.7	37.2

(4) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正
該当事項はありません。

16. 営業債務及びその他の債務

営業債務及びその他の債務の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
未払金	717,823	323,559
返金負債	36,525	21,622
契約負債	16,282	15,941
合計	770,630	361,123

17. 社債及び借入金

社債及び借入金の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)	平均利率 %	返済期限
	千円	千円		
借入金	601,725	445,653	0.89	2024年～ 2027年
社債	89,625	29,970	0.73	2024年
合計	691,350	475,623		
流動負債	516,072	395,623		
非流動負債	175,278	80,000		
合計	691,350	475,623		

18. 引当金

引当金の内訳及び増減は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	
	資産除去債務	合計
2022年1月1日時点残高	35,898	35,898
企業結合による増加	1,200	1,200
期中増加額	-	-
割引計算の期間利息費用	32	32
期中減少額(目的使用)	-	-
期中減少額(戻入)	-	-
2022年12月31日時点残高	37,130	37,130
流動	-	-
非流動	37,130	37,130

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	
	資産除去債務	合計
2023年1月1日時点残高	37,130	37,130
企業結合による増加	482	482
期中増加額	590	590
割引計算の期間利息費用	39	39
期中減少額(目的使用)	-	-
期中減少額(戻入)	-	-
2023年12月31日時点残高	38,242	38,242
流動	1,470	1,470
非流動	36,772	36,772

19. その他の負債

その他の負債の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
その他の流動負債		
未払賞与	413,028	171,832
未払有給休暇	90,434	124,066
未払消費税等	408,183	17,837
その他の未払費用	109,235	64,893
その他	55,168	5,210
合計	1,076,050	383,840

20. 従業員給付

当社及び一部の子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を、一部の子会社は確定拠出型の年金制度として中小企業退職共済を設けております。

確定給付制度

当社グループが採用する確定給付制度に関連して認識される負債は、報告日現在の確定給付債務の現在価値であります。当社グループは、確定給付制度に係る債務の現在価値及び関連する当期勤務費用を予測単位積増方式により算定しております。

割引率は、将来の毎年度の給付支払見込日までの期間を基に割引率を設定し、割引期間に対応した期末日時点の優良社債の利回りを参照して算定しております。

勤務費用及び確定給付債務の利息費用は、純損益として認識しております。

確定給付制度の再測定額は、発生した期においてその他の包括利益として認識し、直ちに利益剰余金に振り替えております。

当該確定給付制度には、数理計算上のリスクが内在しております。

連結財政状態計算書で認識した負債の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
確定給付債務の現在価値	92,436	119,460

確定給付債務の現在価値の増減は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
1月1日時点の残高	75,735	92,436
企業結合	5,639	-
当期勤務費用	16,368	22,032
利息費用	149	468
再測定		
人口統計上の仮定の変更により生じた数理計算上の差異	0	-
財務上の仮定の変更により生じた数理計算上の差異	974	-
実績の修正により生じた数理計算上の差異	2,584	5,885
給付支払額	1,898	1,362
12月31日時点の残高	92,436	119,460

確定給付債務の現在価値の算定に用いた重要な数理計算上の仮定は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
割引率	0.5%	0.5%

重要な数理計算上の仮定についての感応度分析(確定給付債務への影響)は以下のとおりであります。

この分析は、報告期間の末日時点において、他のすべての変数が一定であると仮定した上で、それぞれの仮定が0.5%増加又は0.5%減少した場合に確定給付債務に与える影響を示しております。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)		当連結会計年度 (2023年12月31日)	
	増加	減少	増加	減少
割引率が0.5%変化した場合に想定される影響	1,407	1,438	1,739	1,776

将来キャッシュ・フローに与える影響

確定給付債務の満期分析は以下のとおりであります。

(単位：年)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
加重平均デュレーション	3.5	3.5

確定拠出型制度

当社グループが採用する確定拠出型制度については、制度に支払うべき拠出額を、従業員が関連するサービスを提供した期間の費用として認識しております。当該費用は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
確定拠出型年金制度	144	682
厚生年金保険料の事業主負担分	120,648	146,729
合計	120,792	147,411

当社グループは、当連結会計年度末における翌期の確定拠出額は1,492千円と見積っております。

従業員給付費用

前連結会計年度及び当連結会計年度における連結損益計算書の「売上原価」及び「販売費及び一般管理費」に含まれる従業員給付費用の合計額は、それぞれ3,239,037千円及び1,967,395千円であります。

21. 資本及びその他の資本項目

(1) 授権株式数及び発行済株式総数

授権株式数及び発行済株式総数は以下のとおりであります。

なお、当社の発行する株式は、無額面普通株式であり、発行済株式は全額払込済となっております。

	授権株式数 (無額面普通株式) (株)	発行済株式数 (無額面普通株式) (株)
前連結会計年度期首(2022年1月1日残高)	14,240,000	5,714,800
期中増減(注)	-	200
前連結会計年度(2022年12月31日残高)	14,240,000	5,715,000
期中増減(注)	-	800
当連結会計年度(2023年12月31日残高)	14,240,000	5,715,800

(注) 期中の増減は、新株予約権の行使によるものであります。

(2) 資本金及び資本剰余金

会社法では、株式の発行に対しての払込又は給付に係る額の2分の1以上を資本金に組み入れ、残りは資本剰余金に含まれる資本準備金に組み入れることが規定されております。資本準備金は株主総会の決議により、資本金に組み入れることができます。

(3) 利益剰余金

会社法では、剰余金の配当として支出する金額の10分の1を、資本準備金及び利益準備金の合計額が資本金の4分の1に達するまで資本準備金又は利益準備金として積み立てることが規定されております。積み立てられた利益準備金は、欠損填補に充当できます。また、株主総会の決議をもって、利益準備金を取り崩すことができるとされております。

(4) 自己株式

自己株式数及び残高の増減は以下のとおりであります。

	株式数(株)	金額(千円)
前連結会計年度期首(2022年1月1日残高)	141,030	121,074
期中増減	40	45
前連結会計年度(2022年12月31日残高)	141,070	121,119
期中増減(注)	130,000	168,368
当連結会計年度(2023年12月31日残高)	271,070	289,487

(注) 期中の増減は、自己株式の買付によるものであります。

(5) その他の資本の構成要素

その他の資本の構成要素の内訳別増減は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	新株予約権	その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動	確定給付制度の再測定	持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	合計
2022年1月1日残高	1,183	185,826	-	-	184,643
その他の包括利益		8,033	1,013	-	9,047
株式の発行	72	-	-	-	72
その他の資本の構成要素から利益 剰余金への振替	-	-	1,013	-	1,013
2022年12月31日残高	1,110	177,792	-	-	176,682
その他の包括利益		8,047	4,083	697	4,661
株式の発行	177	-	-	-	177
その他の資本の構成要素から利益 剰余金への振替	-	84,697	4,083	-	88,780
2023年12月31日残高	932	85,047	-	697	83,417

新株予約権

当社はストック・オプション制度を採用しており、会社法に基づき新株予約権を発行しております。なお、契約条件及び金額等は、注記「22.株式報酬」に記載しております。

その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動

公正価値の変動をその他の包括利益を通じて測定すると指定した金融商品の公正価値による評価額と取得価額の評価差額であります。

確定給付制度の再測定

確定給付制度の再測定は、期首時点の数理計算上の仮定と実際の結果との差異による影響額及び数理計算上の仮定の変更による影響額であります。これについては、発生時にその他の包括利益で認識し、その他の資本の構成要素から利益剰余金に直ちに振り替えております。

持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分

外貨建てで作成された在外営業活動体の財務諸表を連結する際に発生した換算差額であります。

22. 株式報酬

(1) 新株予約権の内容

当社はストック・オプション制度を採用しており、当社の取締役、監査役及び従業員並びに社外協力者に対してストック・オプションを付与しております。

ストック・オプションは、当社の株主総会において承認された内容に基づき、当社の取締役会で決定した対象者に対して新株予約権として付与しております。

新株予約権者は、権利行使時において、当社の取締役、監査役、従業員及び外部協力者の地位にあることを要し、権利行使期間内に新株予約権が行使されない場合は、当該新株予約権は失効します。

当社のストックオプション制度は、持分決済型の株式報酬として会計処理しております。

	MRT株式会社 第3回新株予約権	MRT株式会社 第6回新株予約権
付与対象者	当社取締役 3名 当社監査役 3名 当社従業員 31名 社外協力者 2名	当社従業員 16名
株式の種類別のストック・オプションの数	普通株式 251,800株	普通株式 20,200株
付与日	2012年5月1日	2013年8月1日
権利行使期間	2014年3月31日～2022年3月30日	2015年7月10日～2022年7月9日
	MRT株式会社 第8回新株予約権	
付与対象者	当社従業員 49名	
株式の種類別のストック・オプションの数	普通株式 26,000株	
付与日	2014年9月1日	
権利行使期間	2016年8月20日～2024年8月19日	

(注) 2014年8月18日付をもって1株を100株、2016年4月1日付をもって1株を2株に分割したことにより、新株予約権の目的となる株式の数を調整しております。

(2) 新株予約権の数の変動状況

当連結会計年度(2023年12月期)において存在した新株予約権を対象とし、新株予約権の数については、株式数に換算して記載しております。

	MRT株式会社 第3回新株予約権		MRT株式会社 第6回新株予約権	
	前連結会計年度 (自2022年1月1日 至2022年12月31日)	当連結会計年度 (自2023年1月1日 至2023年12月31日)	前連結会計年度 (自2022年1月1日 至2022年12月31日)	当連結会計年度 (自2023年1月1日 至2023年12月31日)
	期首未行使残高(株)	2,000	-	1,000
付与(株)	-	-	-	-
権利行使(株)	-	-	-	-
失効(株)	2,000	-	1,000	-
期末未行使残高(株)	-	-	-	-
期末行使可能残高(株)	-	-	-	-
権利行使日の加重平均株価(円)	-	-	-	-
権利行使価格(円)	25	-	50	-

	MRT株式会社 第8回新株予約権	
	前連結会計年度 (自2022年1月1日 至2022年12月31日)	当連結会計年度 (自2023年1月1日 至2023年12月31日)
	期首未行使残高(株)	5,200
付与(株)	-	-
権利行使(株)	200	800
失効(株)	-	-
期末未行使残高(株)	5,000	4,200
期末行使可能残高(株)	5,000	4,200
権利行使日の加重平均株価(円)	1,944	1,144
権利行使価格(円)	400	400

(注) 2014年8月18日付をもって1株を100株、2016年4月1日付をもって1株を2株に分割したことにより、新株予約権の目的となる株式の数を調整しております。

(3) 株式報酬費用

連結損益計算書の「売上原価」及び「販売費及び一般管理費」に含まれている株式報酬費用計上額は、ありません。

23. 配当金

配当金の支払額は以下のとおりであります。

前連結会計年度(自2022年1月1日至2022年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自2023年1月1日至2023年12月31日)

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2023年3月28日 定時株主総会	普通株式	167,217千円	30.00円	2022年12月31日	2023年3月29日

配当の効力発生日が翌連結会計年度になるものは以下のとおりであります。
前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2023年3月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	167,217千円	30.00円	2022年 12月31日	2023年 3月29日

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）
該当事項はありません。

24. 売上収益

当社グループは、医療情報プラットフォーム事業を行っており、医療人材サービスとその他のサービスを提供しております。医療人材サービスは、人材紹介サービスと人材派遣サービスから構成され、その顧客である医療機関等から対価として受領した金額を収益として認識しております。

人材紹介サービスの収益は、医療人材が紹介先である医療機関等に勤務を開始した日の一時点で認識しております。これは、当社グループの履行義務が、医療人材及び勤務予定先の医療機関等に対して、実際に医療人材が勤務を開始するまでの期間サポートを行うものでありますが、一定期間にわたり充足される履行義務の要件を満たさないためであります。なお、当社グループは、医療人材の勤務実績が退職等により一定期間に満たなかった場合には、医療機関等から受領した対価の一部を返金する義務を有しているため、当該金額を返金負債として認識しております。また、当社グループは、医療機関等に対して、当社グループのサービスの利用に応じてポイントを付与し、ポイントに応じた対価を支払う制度を導入しております。そのため、当社グループは、当該制度において付与されたポイントを、返金負債として認識しております。

その他のサービスは、オンライン診療・健康相談サービス、マーケティングメディア掲載等のPRサービス、病気や治療に関する書籍の出版サービス、医療機関情報提供サイトの運営や受付・登録センターの運営等の情報プラットフォーム事業にかかわるものであります。PRサービス及び運営の受託業務は、当該サービスに対する役務の提供開始から契約期間の経過とともに履行義務が充足されると判断しております。そのため、その対価として受領した前受金を契約負債とし、サービスの収益はサービスの提供の一定期間にわたって認識しております。また、それ以外のサービスの収益は、サービスの提供の一時点で認識しております。

(1) 顧客との契約から認識した収益

売上収益はすべて顧客との契約から生じたものであり、その分類は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
サービスの種類別		
医療人材サービス	4,010,984	3,159,968
その他	4,727,208	2,247,119
合計	8,738,193	5,407,087
サービスの移転時期		
一時点	4,126,394	3,574,896
一定期間	4,611,798	1,832,190
合計	8,738,193	5,407,087

(2) 顧客との契約から生じた残高

顧客との契約から生じた残高は以下のとおりであります

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
営業債権	1,435,903	403,114
返金負債（営業債務及びその他の債務）	36,525	21,622
契約負債（営業債務及びその他の債務）	16,282	15,941

前連結会計年度及び当連結会計年度に認識された収益について、期首現在の契約負債残高に含まれていた金額は、それぞれ26,763千円及び16,282千円であります。

(3) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、当初の予想残存期間が1年を超える履行義務はないため、残存履行義務に関する情報の開示を省略しております。

(4) 取引価格の算定

返金負債は、当社グループが紹介した医療人材の勤務開始日以後1年以内、又はポイント付与後1年以内に決済されます。これらの返金負債は、当社グループが返金義務を負う勤務開始日から一定期間内において発生した過去に紹介した医療人材の退職実績率を用いた期待値法、もしくは、過去において付与したポイントが使用された実績率による期待値法により、それぞれ見積り、取引価格を算定しております。

(5) 顧客との契約の獲得又は履行のためのコストから認識した資産

当社グループにおいては、顧客との契約の獲得又は履行のためのコストから認識した資産はありません。

25. 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
従業員給付	1,320,118	1,067,804
広告宣伝費及び販売促進費	397,487	378,427
支払手数料及びその他の業務委託費	370,176	423,192
減価償却費及び償却費	184,878	228,353
その他	347,794	434,654
合計	2,620,454	2,532,432

26. 金融収益及び金融費用

金融収益及び金融費用の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
金融収益		
受取利息		
償却原価で測定される金融資産	16	42
受取配当金		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	1,252	1,403
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の公正価値の増加	-	39,037
合計	1,268	40,484
金融費用		
支払利息		
償却原価で測定される金融負債	8,397	4,941
リース負債	2,608	2,106
その他	32	39
小計	11,038	7,088
支払保証料	285	135
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の公正価値の減少	30,942	-
合計	42,265	7,223

27. 1株当たり当期利益

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
親会社の普通株主に帰属する当期利益(千円)	2,159,994	517,145
当期利益調整額	-	-
希薄化後1株当たり当期利益の計算に使用する当期利益(千円)	2,159,994	517,145
期中平均普通株式数(株)	5,573,757	5,476,673
普通株式増加数		
新株予約権(株)	4,531	3,221
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	5,578,329	5,479,894
基本的1株当たり当期利益(円)	387.53	94.43
希薄化後1株当たり当期利益(円)	387.21	94.37

28. その他の包括利益

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額は以下のとおりであります。
前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

(単位：千円)

	当期発生額	組替調整額	税効果調整前	税効果	税効果調整後
純損益に振り替えられることのない項目					
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動	28,791	-	28,791	20,757	8,033
確定給付制度の再測定	1,460	-	1,460	447	1,013
純損益に振り替えられることのない項目合計	30,252	-	30,252	21,205	9,047
合計	30,252	-	30,252	21,205	9,047

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

(単位：千円)

	当期発生額	組替調整額	税効果調整前	税効果	税効果調整後
純損益に振り替えられることのない項目					
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動	12,676	-	12,676	4,629	8,047
確定給付制度の再測定	5,885	-	5,885	1,802	4,083
純損益に振り替えられることのない項目合計	6,791	-	6,791	2,827	3,964
純損益に振り替えられる可能性のある項目					
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	697	-	697	-	697
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	697	-	697	-	697
合計	7,488	-	7,488	2,827	4,661

29. 現金及び現金同等物

現金及び現金同等物の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
現金及び要求払預金	4,889,593	3,783,118
取得日から満期日までの期間が3ヵ月以内の短期投資	270	360
現金及び現金同等物	4,889,863	3,783,478

30. キャッシュ・フロー情報

財務活動に係る負債の変動は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)					2022年 12月31日
	2022年 1月1日	キャッシュ ・フローを 伴う変動	キャッシュ・フローを伴わない変動			
			企業結合	新規リース	その他	
社債	148,905	60,000	-	-	719	89,625
借入金	627,268	25,543	-	-	-	601,725
リース負債	268,582	118,474	12,219	22,184	-	184,512
合計	1,044,756	204,017	12,219	22,184	719	875,863

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)					2023年 12月31日
	2023年 1月1日	キャッシュ ・フローを 伴う変動	キャッシュ・フローを伴わない変動			
			企業結合	新規リース	その他	
社債	89,625	60,000	-	-	344	29,970
借入金	601,725	156,072	-	-	-	445,653
リース負債	184,512	119,888	-	101,538	-	166,163
合計	875,863	335,960	-	101,538	344	641,786

31. 関連当事者についての開示

(1) 関連当事者間取引及び債権債務の残高

当社グループは以下の関連当事者と取引を行っております。

前連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

種類	会社等の名称	取引内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員が支配する企業	医療法人社団 Vantage Clinic	医療人材紹介・RPOサービスの提供(注)2(1)	822,010	営業債権及び その他の債権	92,325
		医療機関経営支援の提供(注)2(1)	815,172		45,007
		事務代行サービスの提供(注)2(2)	10,397		11,437
		体制構築費用の支払(注)2(2)	95,478	その他の流動負債	95,478
		BPOサービスの提供(注)2(3)	17,095	営業債権及び その他の債権	1,919
		資金提供に係る対価の受領(注)2(4)	14,005	-	-
		給与等支払資金の提供(注)2(4)	600,000	-	-
		給与等支払資金の回収(注)2(4)	2,150,000	-	-
		給与等支払資金の受領(注)2(4)	2,920,003	その他の流動資産	2,695
		給与等の支払(注)2(4)	2,925,216	その他の流動負債	42,826
役員の近親者が支配する企業	一般社団法人創医会	体制構築費用の支払(注)2(5)	42,826	その他の流動負債	42,826

(注)1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 医療法人社団 Vantage Clinicと自治体との新型コロナウイルスワクチン接種業務を背景に実施した取引であります。

医療人材紹介・RPOサービスは、当法人材紹介及びRPOサービスの利用料率等を参照して対価を決定しております。

医療機関経営支援の提供については、自治体との折衝から契約成立、請求関連業務、及び入金管理業務等を支援する一連の取引であり、原則として当該関連当事者と自治体との取引金額の10%を対価としております。

(2) 自治体と当社との新型コロナウイルスに関するオンライン診療業務を背景に実施した取引であります。

診療受付業務等の事務作業代行サービスに関する当社所定の利用料率を参照して決定しております。

体制構築費用の支払は、自治体の要請による診療体制を当該関連当事者が構築するのに要する医師の実費人件費のうち待機相当額を当社が負担するものであります。

(3) 上記(1)および(2)の従事者に対する給与支払代行等のBPOサービスであり、当社グループ所定の利用料率等を参照して決定しております。

(4) 上記(1)および(2)の従事者に対する給与等支払代行のための資金の提供、資金の受け取り、従事者に対する支払代行の一連の取引であります。なお、給与等支払資金の提供額の年2.5%を対価としております。

(5) 自治体と当社との新型コロナウイルスに関するオンライン診療業務を背景に実施した取引であり、自治体の要請による診療体制を当該関連当事者が構築するのに要する医師等の実費人件費のうち待機相当額を当社が負担するものであります。

3. 債権に対して貸倒引当金は設定しておりません。

当連結会計年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

種類	名称	関連当事者関係の内容	取引金額 (千円)	科目	未決済金額 (千円)
役員が支配する企業	医療法人社団 Vantage Clinic	医療人材紹介・RPOサービスの提供(注)1(1)	201,604	営業債権及び その他の債権	14,531
		医療機関経営支援の提供(注)1(1)	316,502		
役員の子親者が支配する企業	一般社団法人創医会	体制構築費用の支払(注)1(2)	102,890	その他の 流動負債	-
		登録事務センターの業務委託(注)1(3)	19,923		

(注)1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 医療法人社団 Vantage Clinicと自治体との新型コロナウイルスワクチン接種業務を背景に実施した取引であります。
医療人材紹介・RPOサービスは、当社人材紹介及びRPOサービスの利用率等を参照して対価を決定しております。
医療機関経営支援の提供については、自治体との折衝から契約成立、請求関連業務、及び入金管理業務等を支援する一連の取引であり、原則として当該関連当事者と自治体との取引金額の10%を対価としております。
- (2) 自治体と当社との新型コロナウイルスに関するオンライン診療業務を背景に実施した取引であり、自治体の要請による診療体制を当該関連当事者が構築するのに要する医師等の実費人件費のうち待機相当額を当社が負担するものであります。
- (3) 自治体と当社との新型コロナウイルスに関する陽性者登録事務業務を背景に実施した取引であり、関連当事者に登録事務センターの業務の一部を派遣報酬に相当する報酬価額で委託したものであります。
2. 債権に対して貸倒引当金は設定しておりません。

(2) 経営幹部に対する報酬

当社の主要な経営幹部に対する報酬額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
短期給付	171,872	181,001
株式報酬	-	-
合計	171,872	181,001

短期給付の額に、日本国が運営する厚生年金に係る保険料を含めて記載しております。

32. 主要な子会社

(1) 当社グループにおける主要な子会社は以下のとおりであります。

子会社名	所在地	持分割合		事業内容
		前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)	
株式会社N O S W E A T	京都市 下京区	100.0%	100.0%	医療従事者労働者派遣事業 医療従事者職業紹介事業 医療従事者職業紹介事業
株式会社医師のとも	東京都 渋谷区	70.0%	70.0%	開業、事業承継支援事業 P R 事業 ライフサポート事業
株式会社日本メディカル キャリア	東京都 渋谷区	100.0%	100.0%	医療従事者職業紹介事業 キャリア支援事業
株式会社 a n e w	東京都 渋谷区	100.0%	100.0%	B P O 事業 ファイナンス事業
株式会社バリュー メディカル	東京都 渋谷区	100.0%	100.0%	出版事業 アンケート調査事業 Well - b e i n g 事業
株式会社メディアルト	東京都 中央区	100.0%	100.0%	医師向け医薬品プロモーション施策 医薬品の広告やパンフレットなどの制作 医学学会の記録集制作 医療機器情報サイトの運営
Medikiki.com 株式会社	東京都 渋谷区	-	80.8%	医療従事者向け情報サイトの制作支援 クラウド型医療機器管理システムの運営 医療従事者職業紹介事業

その他 2社

(注) 当社は、2023年10月1日をもってMedikiki.com株式会社の株式の80.8%を取得して連結子会社といたしました。

(2) 当社が重要な非支配持分を認識している連結子会社の要約財務情報等は以下のとおりであります。
なお、要約財務情報はグループ内部取引を消去する前の金額であります。

株式会社医師のとも 非支配持分の保有する持分割合

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
非支配持分が保有する持分割合	30%	30%

要約財務情報

(i) 要約財政状態計算書

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
流動資産	376,484	464,551
非流動資産	109,217	71,893
流動負債	174,054	151,050
非流動負債	418	1,368
資本	311,229	384,025
非支配持分の累積額	93,368	115,207

(単位：千円)

(ii) 要約損益計算書及び要約包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上収益	750,347	644,132
当期利益	74,762	72,796
その他の包括利益	-	-
当期包括利益	74,762	72,796
非支配株主に配分された当期利益	22,428	21,838
非支配持分への配当金の支払額	-	-

(iii) 要約キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	124,724	33,001
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,733	70,004
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,386	1,085
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	121,603	101,920

Medikiki.com株式会社
非支配持分の保有する持分割合

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
非支配持分が保有する持分割合	- %	19.2%

要約財務情報

(i) 要約財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
流動資産	-	98,319
非流動資産	-	28,116
流動負債	-	9,889
非流動負債	-	482
資本	-	116,063
非支配持分の累積額	-	22,239

(ii) 要約損益計算書及び要約包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上収益	-	25,029
当期利益	-	1,548
その他の包括利益	-	-
当期包括利益	-	1,548
非支配株主に配分された当期利益	-	296
非支配持分への配当金の支払額	-	-

(iii) 要約キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	-	13,724
投資活動によるキャッシュ・フロー	-	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	-	13,724

33. 偶発債務

当社グループにおいて、重要な偶発債務はありません。

34. 後発事象

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上収益 (千円)	1,765,761	3,239,522	4,348,216	5,407,087
税引前四半期 (当期) 利益 (千円)	440,939	814,822	962,615	858,036
親会社の所有者に帰属する四 半期 (当期) 利益 (千円)	285,820	516,692	602,527	517,145
基本的 1 株当たり四半期 (当 期) 利益 (円)	51.36	93.78	109.80	94.43

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
基本的 1 株当たり四半期利益 (円)	51.36	42.33	15.77	15.68

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,138,587	2,827,749
売掛金	1,289,221	263,094
商品	2,966	873
貯蔵品	1,245	906
前払費用	32,132	41,925
未収還付法人税等	-	372,469
未収消費税等	-	236,006
その他	74,733	50,065
貸倒引当金	8,716	1,235
流動資産合計	5,530,170	3,791,855
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,541	1,921
工具、器具及び備品	31,178	18,547
有形固定資産合計	36,719	20,468
無形固定資産		
ソフトウェア	154,600	122,473
その他	20	20
無形固定資産合計	154,620	122,493
投資その他の資産		
投資有価証券	22,159	51,717
関係会社株式	852,700	1,169,301
破産更生債権等	3,227	6,635
長期前払費用	1,436	11,807
繰延税金資産	293,489	102,170
その他	108,465	112,262
貸倒引当金	3,227	6,635
投資その他の資産合計	1,278,251	1,447,258
固定資産合計	1,469,591	1,590,220
資産合計	6,999,762	5,382,075

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	300,000	300,000
1年内償還予定の社債	60,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	150,072	59,653
未払金	464,811	144,510
未払費用	170,475	108,531
未払法人税等	639,097	-
未払消費税等	382,929	-
契約負債	21,674	6,906
預り金	48,012	32,233
賞与引当金	360,091	130,602
ポイント引当金	71,380	14,750
その他	13,918	13,761
流動負債合計	2,682,463	840,950
固定負債		
社債	30,000	-
長期借入金	129,653	70,000
長期末払金	53,150	53,150
退職給付引当金	64,733	83,761
固定負債合計	277,536	206,911
負債合計	2,959,999	1,047,861
純資産の部		
株主資本		
資本金	432,115	432,275
資本剰余金		
資本準備金	392,115	392,275
資本剰余金合計	392,115	392,275
利益剰余金		
利益準備金	1,000	17,721
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	3,335,651	3,781,429
利益剰余金合計	3,336,651	3,799,151
自己株式	121,119	289,487
株主資本合計	4,039,762	4,334,214
純資産合計	4,039,762	4,334,214
負債純資産合計	6,999,762	5,382,075

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上高	7,177,156	3,741,335
売上原価	2,588,385	1,331,741
売上総利益	4,588,771	2,409,594
販売費及び一般管理費	1, 2 1,877,109	1, 2 1,525,019
営業利益	2,711,661	884,574
営業外収益		
受取利息	1 5,519	36
受取配当金	1,250	1,400
償却債権取立益	31,062	-
その他	493	-
営業外収益合計	38,326	1,437
営業外費用		
支払利息	6,015	3,799
社債利息	114	54
支払保証料	285	135
その他	60	691
営業外費用合計	6,475	4,681
経常利益	2,743,512	881,330
特別損失		
投資有価証券評価損	18,808	2,442
特別損失合計	18,808	2,442
税引前当期純利益	2,724,703	878,888
法人税、住民税及び事業税	813,245	57,851
法人税等調整額	128,044	191,319
法人税等合計	685,200	249,171
当期純利益	2,039,502	629,717

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)		当事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費		1,642,277	63.5	688,966	52.3
経費		943,614	36.5	629,246	47.7
合計		2,585,892	100.0	1,318,212	100.0
期首商品棚卸高		580		2,966	
商品仕入高		4,878		11,435	
期末商品棚卸高		2,966		873	
当期売上原価		2,588,385		1,331,741	

(注) 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
外注費(千円)	924,900	625,946

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本							株主資本 合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	432,075	392,075	392,075	1,000	1,296,149	1,297,149	121,074	2,000,224	2,000,224
当期変動額									
剰余金の配当									
新株の発行	40	40	40					80	80
当期純利益					2,039,502	2,039,502		2,039,502	2,039,502
自己株式の取得							45	45	45
当期変動額合計	40	40	40	-	2,039,502	2,039,502	45	2,039,537	2,039,537
当期末残高	432,115	392,115	392,115	1,000	3,335,651	3,336,651	121,119	4,039,762	4,039,762

当事業年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	432,115	392,115	392,115	1,000	3,335,651	3,336,651	121,119	4,039,762	4,039,762
当期変動額									
剰余金の配当				16,721	183,939	167,217		167,217	167,217
新株の発行	160	160	160					320	320
当期純利益					629,717	629,717		629,717	629,717
自己株式の取得							168,368	168,368	168,368
当期変動額合計	160	160	160	16,721	445,778	462,499	168,368	294,451	294,451
当期末残高	432,275	392,275	392,275	17,721	3,781,429	3,799,151	289,487	4,334,214	4,334,214

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

関係会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産

商品及び貯蔵品

先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 5～18年

工具、器具及び備品 2～15年

(2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年以内）に基づいております。

3. 繰延資産の処理方法

社債発行費

支出時に全額費用処理しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与金の支払に備えて、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

(3) ポイント引当金

医療従事者会員（医師会員）に付与されたポイントの使用による費用発生に備えるため、当事業年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法（簡便法）により、当事業年度末において発生していると認められる退職給付債務額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

当社は、医療情報プラットフォーム事業を行っており、医療人材サービスとその他のサービスを提供しております。医療人材サービスは、人材紹介サービスであり、その顧客である医療機関等から対価として受領した金額を収益として認識しております。

人材紹介サービスの収益は、医療人材が紹介先である医療機関等に勤務を開始した日の一時点で認識しております。これは、当社の履行義務が、医療人材及び勤務予定先の医療機関等に対して、実際に医療人材が勤務を開始するまでの期間サポートを行うものでありますが、一定期間にわたり充足される履行義務の要件を満たさないためであります。なお、当社は、医療人材の勤務実績が退職等により一定期間に満たなかった場合には、医療機関等から受領した対価の一部を返金する義務を有しているため、当該金額を返金負債として認識しております。また、当社は、紹介先である医療機関等に対して、当社のサービスの利用に応じてポイントを付与し、ポイントに応じた対価を支払う制度を導入しております。そのため、当社は、当該制度において付与されたポイントを、返金負債として認識しております。

その他のサービスは、オンライン診療・健康相談サービス、受付・登録センターの運営等の情報プラットフォーム事業にかかわるものであります。運営の受託業務は、当該サービスに対する役務の提供開始か

ら契約期間の経過とともに履行義務が充足されると判断しております。そのため、その対価として受領した前受金を契約負債とし、サービスの収益はサービスの提供の一定期間にわたって認識しております。また、それ以外のサービスの収益は、サービスの提供の一時点で認識しております。

(会計方針の変更)

時価の算定に関する会計基準の適用指針

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、財務諸表に与える影響はありません。

(貸借対照表関係)

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
短期金銭債権	85,372千円	24,744千円
長期金銭債権	-	6,117
短期金銭債務	2,797	5,052

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引

	前事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業取引による取引高	7,271千円	32,079千円
営業取引以外による取引高	5,507	-

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度9%、当事業年度10%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度91%、当事業年度90%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
貸倒引当金繰入額	22,786千円	1,851千円
ポイント引当金繰入額	75,551	56,909
給料手当	329,390	375,762
賞与引当金繰入額	330,948	68,534
退職給付引当金繰入額	14,555	14,883
減価償却費	62,783	66,483
地代家賃	100,914	100,909
支払手数料	132,434	146,299
外注費	118,255	96,868

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式
市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度	当事業年度
子会社株式	852,700	1,019,300
関連会社株式	-	150,001

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	19,298千円	3,328千円
ソフトウェア	7,680	8,865
投資有価証券	46,707	21,520
関係会社株式	65,356	62,294
未払事業税	42,453	-
賞与引当金	110,259	39,990
ポイント引当金	21,856	5,708
長期未払金	16,274	16,274
退職給付引当金	19,821	25,647
その他	69,975	41,929
繰延税金資産小計	419,685	225,560
評価性引当額	126,195	101,008
繰延税金資産合計	293,489	124,552
繰延税金負債		
未収還付事業税	-	22,381
繰延税金負債合計	-	22,381
繰延税金資産の純額	293,489	102,170

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
法定実効税率	30.62%	30.62%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.42	1.18
住民税均等割	0.06	0.18
評価性引当額の増減	0.25	2.87
法人税額の特別控除	5.18	0.71
その他	0.52	0.05
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.15	28.35

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報については、「重要な会計方針 5. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(企業結合等関係)

連結財務諸表注記「6. 企業結合」に記載しているため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形 固定資産	建物	5,541	-	-	3,620	1,921	25,653
	工具、器具及び備品	31,178	3,404	-	16,035	18,547	130,894
	計	36,719	3,404	-	19,655	20,468	156,548
無形 固定資産	ソフトウェア	154,600	14,700	-	46,827	122,473	160,255
	その他	20	-	-	-	20	-
	計	154,620	14,700	-	46,827	122,493	160,255

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	11,943	12,162	16,234	7,871
賞与引当金	360,091	130,602	360,091	130,602
ポイント引当金	71,380	14,750	71,380	14,750

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL https://medrt.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第24期）（自 2022年1月1日 至2022年12月31日）2023年3月30日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付資料

2023年3月30日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第25期第1四半期）（自 2023年1月1日 至2023年3月31日）2023年5月15日関東財務局長に提出

（第25期第2四半期）（自 2023年4月1日 至2023年6月30日）2023年8月10日関東財務局長に提出

（第25期第3四半期）（自 2023年7月1日 至2023年9月30日）2023年11月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2023年3月31日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります

(5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自 2023年3月15日 至 2023年3月31日）2023年4月5日関東財務局長に提出

報告期間（自 2023年4月1日 至 2023年4月26日）2023年5月1日関東財務局長に提出

(6) 自己株券買付状況報告書の訂正報告書

2023年5月1日関東財務局長に提出

報告期間（自 2023年3月15日 至 2023年3月31日）2023年4月5日提出の自己株券買付状況報告書に係る訂正報告書であります

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2024年3月29日

M R T 株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 吉田 亮一
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 下田 磨
業務執行社員

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているM R T 株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結財政状態計算書、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結持分変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準に準拠して、M R T 株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

株式会社メディアルトに係る暫定的な会計処理の確定	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>【連結財務諸表注記】6.企業結合に記載されているとおり、会社は、2022年12月27日に行われた株式会社メディアルトとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていたが、当連結会計年度に取得対価の配分を確定した。</p> <p>この結果、暫定的に算定されたのれんの金額336,695千円は、会計処理の確定により141,453千円減少し、195,242千円となった。また、前連結会計年度の連結財政状態計算書において、無形資産が213,000千円、繰延税金負債が71,546千円、それぞれ増加した。</p> <p>取得対価の配分には、事業計画に含まれる将来の売上高成長率及び顧客関係に係る将来キャッシュ・フローにおける既存顧客減少率が主要な仮定として利用されている。</p> <p>無形資産のうち、顧客関連資産は観察可能な市場価格がないため、利用可能な独自の情報や前提に基づいて見積もられている。また、顧客関連資産の評価は、将来の予測を含むため不確実性が高く、経営者による判断を必要としている。</p> <p>以上より、当監査法人は、株式会社メディアルトの企業結合に係る取得対価の配分が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、株式会社メディアルトとの企業結合に係る取得対価の配分について、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取引の目的を理解するため、取締役会議事録を閲覧するとともに、経営者に当該株式取得の理由及び経緯を質問した。 ・経営者が利用した外部の専門家の適性、能力及び客観性を検討するとともに、当該専門家による無形資産評価に関する報告書を閲覧し、無形資産評価算定に使用した手法及び仮定を理解し検討した。 ・当監査法人のネットワーク・ファームの評価専門家を関与させ、経営者が利用した外部の専門家の顧客関連資産の測定手法（超過収益法に基づくインカム・アプローチ）及び計算過程を検討するとともに、割引率等の前提条件を検討した。

のれん（株式会社日本メディカルキャリア）の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>【連結財務諸表注記】13.のれん及び無形資産に記載されているとおり、会社は、2023年12月31日現在ののれんを339,320千円（うち、株式会社日本メディカルキャリアの買収にかかるもの33,601千円）計上している。また、会社は、当連結会計年度において株式会社日本メディカルキャリアの買収にかかるのれんに関して減損損失を113,849千円計上している。</p> <p>【連結財務諸表注記】3.重要性がある会計方針（7）非金融資産の減損に記載されているとおり、会社はのれんを配分した資金生成単位について、減損の兆候の有無に関わらず最低年に一度、回収可能価額を見積り、減損テストを実施している。回収可能価額は、使用価値と処分コスト控除後の公正価値のいずれか大きい金額としている。</p> <p>【連結財務諸表注記】4.重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断並びに13.のれん及び無形資産に記載されているとおり、資金生成単位の使用価値算定における将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となる事業計画の主要な仮定は、医療従事者紹介事業においては、求職者の獲得数、その獲得コストの対売上収益比率、職業を斡旋するキャリアコンサルタント1人当たりの成約数及び成約総額である。また、将来キャッシュ・フローの現在価値を算定するための割引率の見積りの基礎となる主要な仮定は、類似企業のデータを参照した加重平均資本コストである。</p> <p>事業計画に基づく将来キャッシュ・フロー及び割引率の見積りについては、不確実性を伴い、経営者の判断が必要である。</p> <p>以上より、当監査法人は、当該事項を監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、のれんを配分した資金生成単位の使用価値算定における会社の事業計画に基づく将来キャッシュ・フローの見積りの妥当性を検討するため、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の事業計画について会社及び連結子会社の経営者と協議した。 ・将来の事業計画について適切な承認プロセスを経ていることを確認するため、会社の取締役会議事録及びそれらの添付資料を閲覧した。 ・医療従事者紹介事業における今後の求職者の獲得数、その獲得コストの対売上収益比率、職業を斡旋するキャリアコンサルタント1人当たりの成約数及び成約総額の見積りの合理性及び実現可能性を検討するため、過年度実績との比較及び今後の事業方針等との整合性を検討した。 <p>当監査法人は、のれんを配分した資金生成単位に関する会社の将来キャッシュ・フローの現在価値を算定するための割引率の見積りの妥当性を検討するため、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割引率の算定において利用されたインプット情報については、類似企業の選定の妥当性及び会社が採用したリスクフリーレートと外部情報との整合性を検討した。 ・割引率について感応度分析を実施し、回収可能価額（使用価値）に与える影響を評価した。 <p>当監査法人は、のれんを配分した資金生成単位に関する会社の減損テストの妥当性を検討するため、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のれんを配分した資金生成単位の帳簿価額と回収可能価額を比較し、帳簿価額が回収可能価額を上回る額と会社が計上した減損損失とを突合した。

関連当事者である医療法人社団Vantage Clinicとの取引	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応

【連結財務諸表注記】31. 関連当事者についての開示に記載されているとおり、会社は、会社の役員の支配する医療法人社団Vantage Clinic（以下、「Vantage Clinic」）との間で医療人材紹介・RPOサービス及び医療機関経営支援を行っている。

会社とVantage Clinicとのこれらの各種取引は、Vantage Clinicが自治体から受託した新型コロナウイルスワクチン接種業務（以下、「ワクチン接種業務」）を背景にVantage Clinicが会社から受託した業務をVantage Clinicが遂行するために実施された一連の取引であることから、これらの取引を適切かつ十分に理解するためには、取引の相互関連性を含む、会社とVantage Clinicとの取引の全体像を把握する必要がある。当監査法人は、これらの取引が相互に関連した複雑な関係にある一連の取引であり、取引条件の個別性が高く、取引金額も多額に上っていることから、これら一連の取引を会社の通常の取引過程から外れた関連当事者との取引に該当すると判断した。

一般的に関連当事者との取引は対等な立場で取引が行われているとは限らず、事業上の合理性のない取引が行われたり、独立第三者間の取引条件から逸脱した条件で取引が行われたりするリスクがあるとともに、取引金額、取引残高又は取引条件の開示が誤って行われるリスクがある。

以上より、当監査法人は、当該事項を監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。

当監査法人は、会社とVantage Clinicとの取引を検討するにあたり、主として以下の監査手続を実施した。

(1) 会社とVantage Clinicとの取引の検討

事業上の合理性

・取引の事業上の合理性を把握・検討するため、当該取引を承認した会社の取締役会の議事録及びそれらの添付資料を閲覧するとともに、会社の経営者に対して取引実施の経緯、取引内容及び取引条件について質問した。

社内承認

・取引が適切な会社の承認プロセスを経たうえで行われていることを確認するため、会社の取締役会議事録及びそれらの添付資料を閲覧した。

取引内容

・取引条件・取引内容及び取引条件を把握・検討するため、会社の経営者に質問した。

・医療人材紹介・RPOサービス売上については、会社又は事務代行連結子会社である株式会社anew（以下、「anew」）とVantage Clinicとの間の契約書を閲覧し、独立第三者との取引内容及び取引条件と比較・検討した。

・医療機関経営支援サービス売上については、会社又はanewとVantage Clinicとの間の契約書及び当該取引を承認した会社の取締役会の審議資料である社内協議資料を閲覧することにより、取引内容及び取引条件を検討した。

取引の実在性・金額の正確性

・医療人材紹介・RPOサービス売上について、取引の実在性及び金額の正確性を検討するため、anewがBPOサービスに含まれる給与支払代行業務としてVantage Clinicに代行して医療従事者に支払った年間給与総額に契約書所定の手数料率を乗じた金額との整合性を検討した。なお、上記の医療従事者へ支払った給与については、サンプルを抽出し、給与金額及び支払先について、会社の基幹システム上の登録データ、anewの給与計算システムから出力された給与支給明細、給与代行支払時の銀行振込明細の3者間の整合性を検討した。

・医療機関経営支援サービス売上について、取引の実在性を検討するため、会社がVantage Clinicのために行っているサービスの内容を会社の担当者に質問したうえで、会社がVantage Clinicのために実際に行った、ワクチン接種業務にかかる契約の締結・まき直し及び業務対価の請求・回収に関する自治体との遣り取りの記録を閲覧した。さらに、取引金額の正確性を検討するため、Vantage Clinicと各自治体との年間取引の総額に契約書所定の手数料率を乗じた金額との整合性を検討した。

・会社のVantage Clinicに対する2023年12月31日現在の債権・債務残高に関する残高確認状をVantage Clinicに対して送付し、回答内容との整合性を検討した。

開示

・【連結財務諸表注記】31. 関連当事者についての開示を閲覧し、取引金額及び取引残高の記載の正確性を検討するため、会社作成の会社と関連当事者との取引及び取引残高集計表（以下、「会社作成集計表」）と突合するとともに、取引条件の記載の正確性を検討するため、会社とVantage Clinicとの間の契約書の記載内容との整合性を検討した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・会社とVantage Clinicとの取引を網羅的に識別し、会社作成集計表の正確性を検討するため、会社の会計システムに登録されている、医療人材紹介・RPOサービス売上の年間データを入手し、自治体名をもとにVantage Clinicとの取引の可能性があると当監査法人が判断したものの、会社がVantage Clinicとの取引として集計していないものについて、集計の要否を検討した。 ・会社とVantage Clinicとの取引を網羅的に識別し、会社作成集計表の正確性を検討するため、摘要欄にVantage Clinic又は会社の関連する役員名を含む仕訳を抽出し、関連当事者との取引として集計されていない取引の有無を検討した。 <p>(2)Vantage Clinicと自治体との取引の検討</p> <p>上記に加えて、当監査法人は、これらの関連当事者取引の実在性に関する心証を高めるとともに当該取引から生じた会社のVantage Clinicに対する債権の回収可能性を評価するため、会社とVantage Clinicとの取引が発生するもとなつたVantage Clinicと自治体間の取引の実在性並びにVantage Clinicの自治体からの契約対価の回収状況及び未回収残高を把握するべく、以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Vantage Clinicの入出金記録を閲覧し、振込人名義が自治体である入金金額を調査することにより、Vantage Clinicの自治体からの業務受託料の回収状況を把握した。
--	---

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、MRT株式会社の2023年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、MRT株式会社が2023年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

<報酬関連情報>

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2024年3月29日

MRT株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 吉田 亮一
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 下田 磨
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているMRT株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、MRT株式会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

関連当事者である医療法人社団Vantage Clinicとの取引

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（関連当事者である医療法人社団Vantage Clinicとの取引）と同一内容であるため、記載を省略している。
--

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。